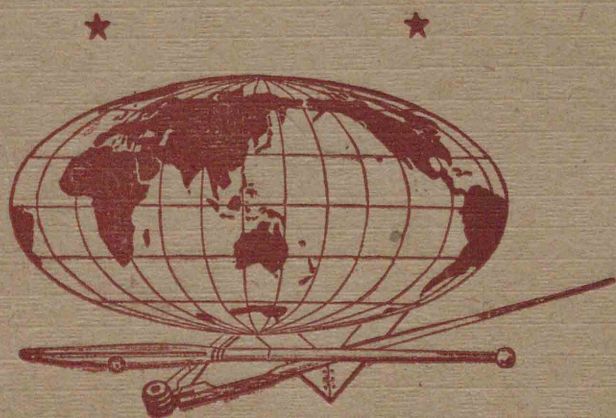


日七十月二年九正大
濟定檢省部文

375.9
Chi8
資料室

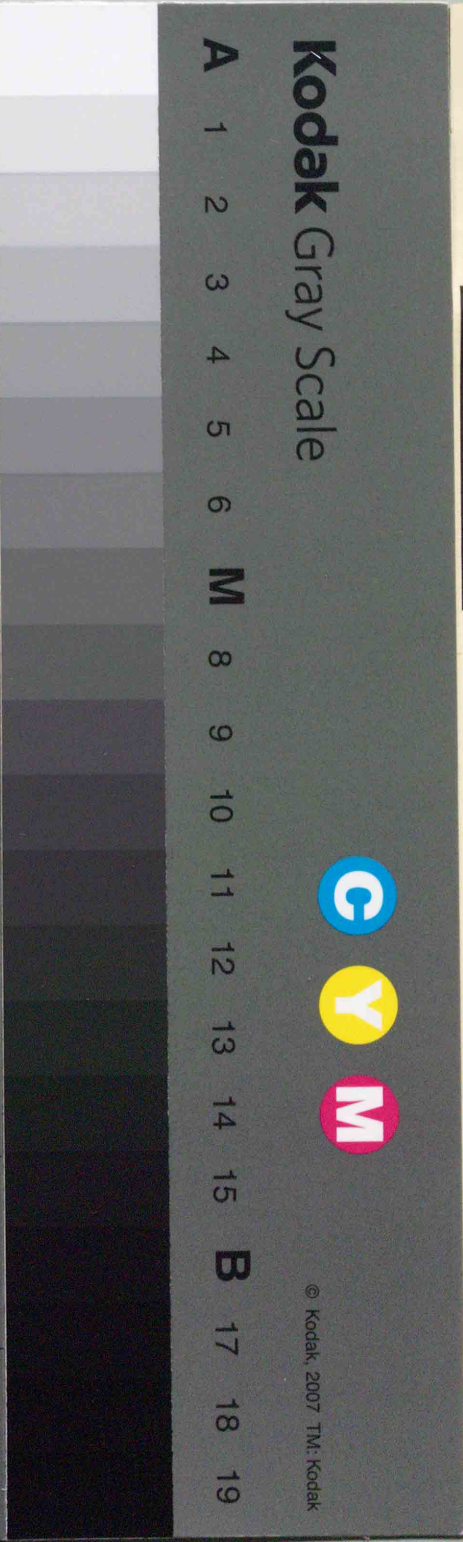
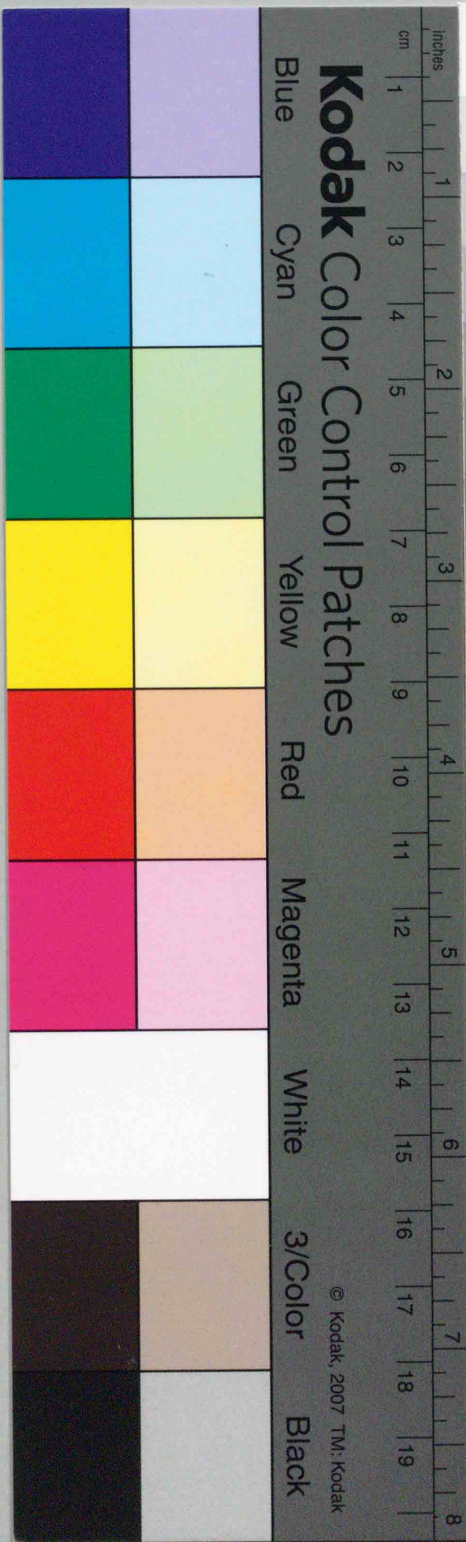
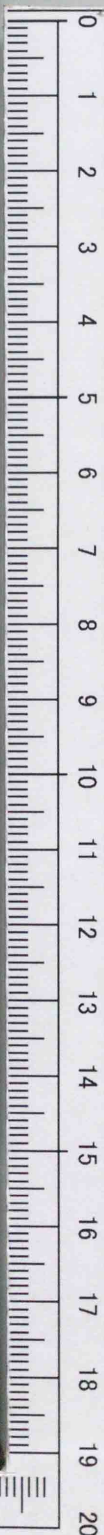
會志同授教理地
纂 編

說概理地



版藏院書國帝京東

教科
41
200



41087
43220

教科書文庫

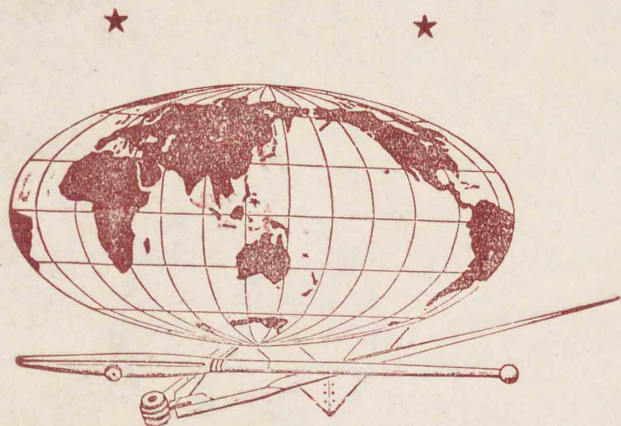
4
290
41-1920
20000 24186



教科書文庫
4
290
41-1920
2000024186

地理教授同志會
纂 編

地理概說



東京帝國書院藏版

広島大学図書
2000024186


資料室

375.9
Chi 18

廣島大學圖書印



改訂のきつに例言

本書を世に公にしたるは、今年二月にして、即ち僅々約十ヶ月以前のことに屬す。

上卷——自然地理の部に於ては、殆ど改訂の必要なきが如きも、下卷——人文地理の部に於ては、必ずしも然らざるなり。是れ今や世界の大戦こそ、其の終りを告げたれ、之に伴へる諸般の改造は、人文地理の内容に、影響を及ぼせばなり。

著者等は、僅々十ヶ月間に止まれる變動を主として、今爰に些少の改訂を施し、以て地理教科書てふものは、零細なる變動をも、忽せにすべからざるの實を示さんと欲す。江湖の諸賢夫れ諒焉。

大正九年十二月

地理教授同志會代表者 謹誌

一 されば本書の編纂は、右の教授要目に束縛せられず、全然獨立の見地に立ち、寧ろ教授要目を批評しつゝ、編纂したり。故に他の類書と順序内容等、大に異なる所あり。されど著者等は、決して脱線を喜ぶものにあらず、否、常に實際の教授の場合を考察して、努めて之に副はんことを期したり。

一 本書の上巻即ち自然地理の部は、陸界水界氣界星界の四編に分れ、生物編は、特に之を設けずして、陸地の變動作用中、生物を記述する所に於て、之を副記したり。抑も吾人の日夜接觸する陸地を出立點として、水界氣界星界に及ぼすは、是れ自然の順序にあらずや。特に星界は、學習稍、困難なるが故に、成るべく學生の知能の發達を待つに如かずと信じ、特に斯くなしたるなり。

一 本書の下巻即ち人文地理の部は、人類編國家編產業編に分れ、其の人類編には、自然と人類との關係及び住民に關する記事を包

含せしめたり。

一 本書は、徒に空理空論を記述することを謹み、凡て常識の養生を目的として編纂したり。例へば人種差別撤廢、國際管理地、委任統治地の如き、多くの最新事項を記述せるは、徒に新を追ひ奇を衒はんとするが爲にあらず、日常の必要なる知識を網羅せんとする方針の結果に外ならざるなり。

一 歐洲の大戦は、著しく人文事項を移動せしめ、今尙ほ未定のもの多きが故に、本書の人文地理は、筆を行ふに大なる困難ありしなり。されば教授當局の諸君子は、今後確定事項ある場合には、本書を修正し、以て教授の用に供せられんことを翹望す。

一 本書は、先づ現に中等教育執掌の任に當れる者二人執筆し、代表者二人、之を統一整頓し、且つ代表者の意見をも加へ、更に之を知己朋友の間に廻送し、其の批評意見を蒐輯したる後、又代表者二人、

更に之を整理して剴腕に附したり。即ち層々たる一小冊子に過ぎざれども、本書は、最も慎重審議を経て成りしなり。是れ教科書たるが故に、特に注意を要すと信じたればなり。
一 されど本書の内容に就きては、尙ほ批評の餘地あるべく、又魯魚河漢の誤謬なきを保すべからず。アハレ冀くは、叱教の榮を賜はりて、本書を完璧の域に達せしめられんことを。

大正八年臘月

地理教授同志會代表者謹誌

目次

上卷 自然地理

第一編 陸界

第一章 陸地の變動

- 第一節 地熱冷却の作用附地震……………
- 第二節 噴出作用附噴氣孔・温泉……………
- 第三節 水の作用……………
- 第四節 空氣の作用……………
- 第五節 生物の作用……………

第二章 地形

- 第一節 水平的地形……………
- 第二節 垂直的地形……………
- 第三節 地形の輪廻……………

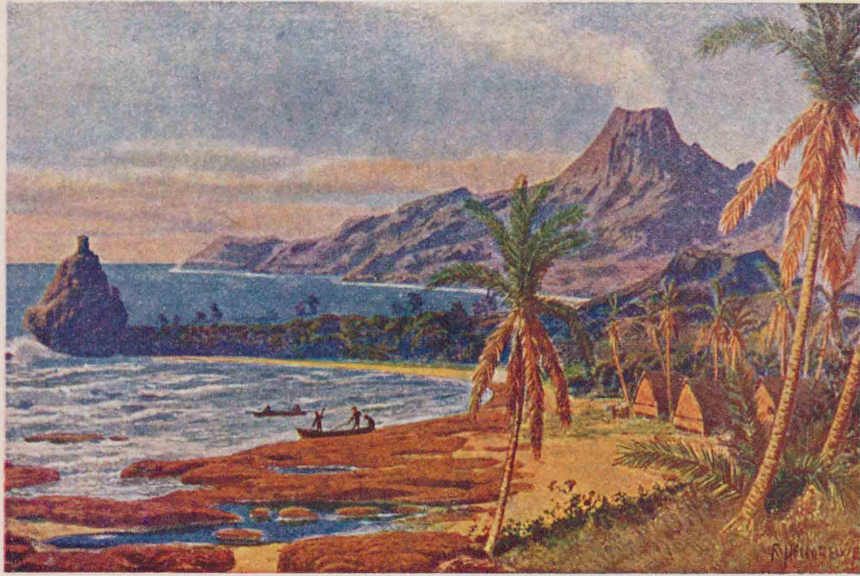
第二編 水界

第一章 海洋

- ……………

第二章	海	水	三四
第三章	海	氷	三五
第四章	海水の運動		三六
第三編	氣界		三三
第一章	大	氣	三三
第一節	氣	溫	三四
第二節	氣	壓	三五
第三節	大氣の流動		三六
第四節	大氣中の水分		三七
第二章	映	象	三六
第三章	氣	候	三七
第四編	星	界	三六
第一章	宇宙	星辰	三六
第二章	太陽	系	三七
第三章	月	(太陰)	三三

第四章	地	球	三六
第一節	地球の實體		三六
第二節	地表の位置		三七
第三節	地球の運動		三七
第四節	曆		三六
第五節	地	圖	三七
結論	自然地理學習の趣味		三九
下卷	人文地理		三八
第一編	人	類	三八
第一章	自然と人類		三八
第二章	住	民	三九
第二編	國	家	三九
第一章	國家の要素		三九
第二章	國家の組織		四〇
第三章	外交・軍備・財政		四〇



屋住の人士と火山の島ンガマの中島群ナアリマ



(換交々物るけに於にアレジニ領英)場市の人黒洲加利弗阿

第三編 産業	101
第一章 農業・牧畜業・林業・水産業	104
第二章 鑛業	105
第三章 工業	108
第四章 商業	109
第五章 交通業	108
結 論 吾人の覺悟	111

帝國大學
圖書印

地理概説 (中學校用)

地理教授同志會 編纂

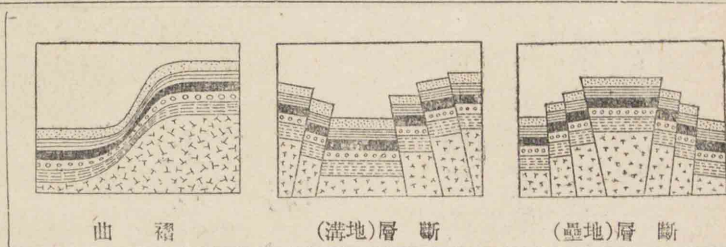
上卷 自然地理

第一編 陸地界

第一章 陸地の變動

抑も陸地は、山高く峙ち、河長^{トコナ}へに流れて、一見、不變不動なるが如きも、其の實、常に内力外力の間斷なき作用によりて變動す。高低凸凹定まりなき現今の地形も、亦實に此の作用によりて成りしなり。
Land Form
内力作用とは直接間接地熱より起る營力にして、其の規模概ね大なり。而して、外力作用とは、空氣、水、生物等の營力をいふ。

陸地は地表の四分一強を占む



第一節 地熱冷却の作用附地震 *Earthquakes*

斷層 *Fault* 地熱不斷の冷却につれて地球は、絶えず収縮す。此の収縮の爲、某地、其の隣地と垂直的に又は水平的に喰違ひをなすことあり。是れ即ち斷層にして、足尾、飛驒、鈴鹿の三山脈、南米のブラジル高地の如きは、實に之が爲に成れり。

褶曲 *Fold* 地球冷縮するも、内部の面積狭小なるが故に、地表の下降は、其の一部のみに止まり、其餘は、下壓力變じて横壓力(造山力)となり、以て地表に皺(褶曲)を作るべし。大陸、大洋の如き、ヒマラヤ、アルプ、ロッキーを始め世界の大山脈、又は我が北上、赤石、四國などの山脈の如き、實に此の作用によりて成れり。

横壓力は、各處均一ならず。是れ我が列島の如く、山脈の彎曲する所

我が國の太平洋沿岸には土地隆起の跡多く、日本海沿岸は之と反對の傾向多きが如し。

以なり。其の彎曲の凸面を外帶、凹面を内帶と稱す。山脈地方、殊に大陸と大洋との接近地帯は、下壓力、横壓力の勢を振ひし地殻の弱處、即ち罅裂の多き處にして、火山噴出及び地震の多き地方なり。

土地の緩慢昇降 *Gradual Elevation* 前記の斷層、褶曲は、又徐々にも起るものとす。海岸地方にありては、汀線之が爲に變更するが故に、比較的容易に之を知り得べし。陸上に、海蝕の遺址、海棲動物の遺跡、又は海岸段丘、三角洲の存するが如きは、土地の隆起を示し、近海に、森林の遺址、建築物の殘片、三角江のあるが如きは、土地の沈降を語るものなり。

Greenland *Greenland* 緑州の南西部は漸降し、其の對岸のラブラドル、ニューファンドランドは漸昇す。又スカンデナヴィア半島は隆起し、其の對岸の獨逸、和蘭、白耳義は沈降す。而して我が國は、隆起する土地多きもの、如し。

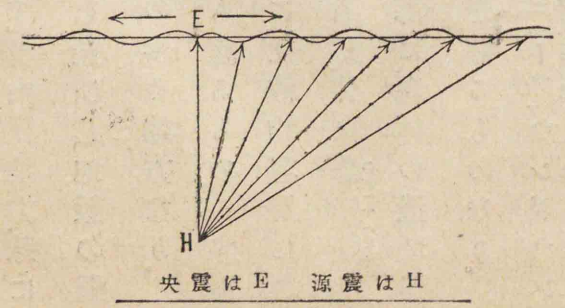
地震 *Earthquakes* 地震には、火山の活動に際して起る火山地震と、地下水侵蝕して空洞を生じ、上部の地盤、此の空洞に向ひて墜落する爲に起

地震計の記録を見るに一の地震には必ず初期微動主要動終期動の三種の震動あり 初期微動は其の傳播の速度早き一種の震動なれば其の繼續時間によりて震源の遠近を知り得べし



地震の初期微動 地震の主要動 地震の終期動

る陷落地震とあれども、二者概ね震域狭小、震動微弱にして、殊に後者は、我が國には甚だ稀なり。然るに急激なる褶曲、斷層に伴ふべき構造地震(斷層地震)は、震域廣大、震度強烈なること多し。明治二十四年の濃尾地震は、之が適例にして、其の斷層、二十五里(木曾川)の長きに及べり。
地震の起源地點は、震源と稱せらる。其の直上の地即ち震央は、上下動と水平動とを併せ感じて、震動最も激烈なれども、そこを距るに従ひて、水平動のみとなり、震度も亦微弱となる。強烈なる地震は、地盤の龜裂、地下水、土砂、瓦斯體等の迸出、地震津浪



震源はH 震央はE

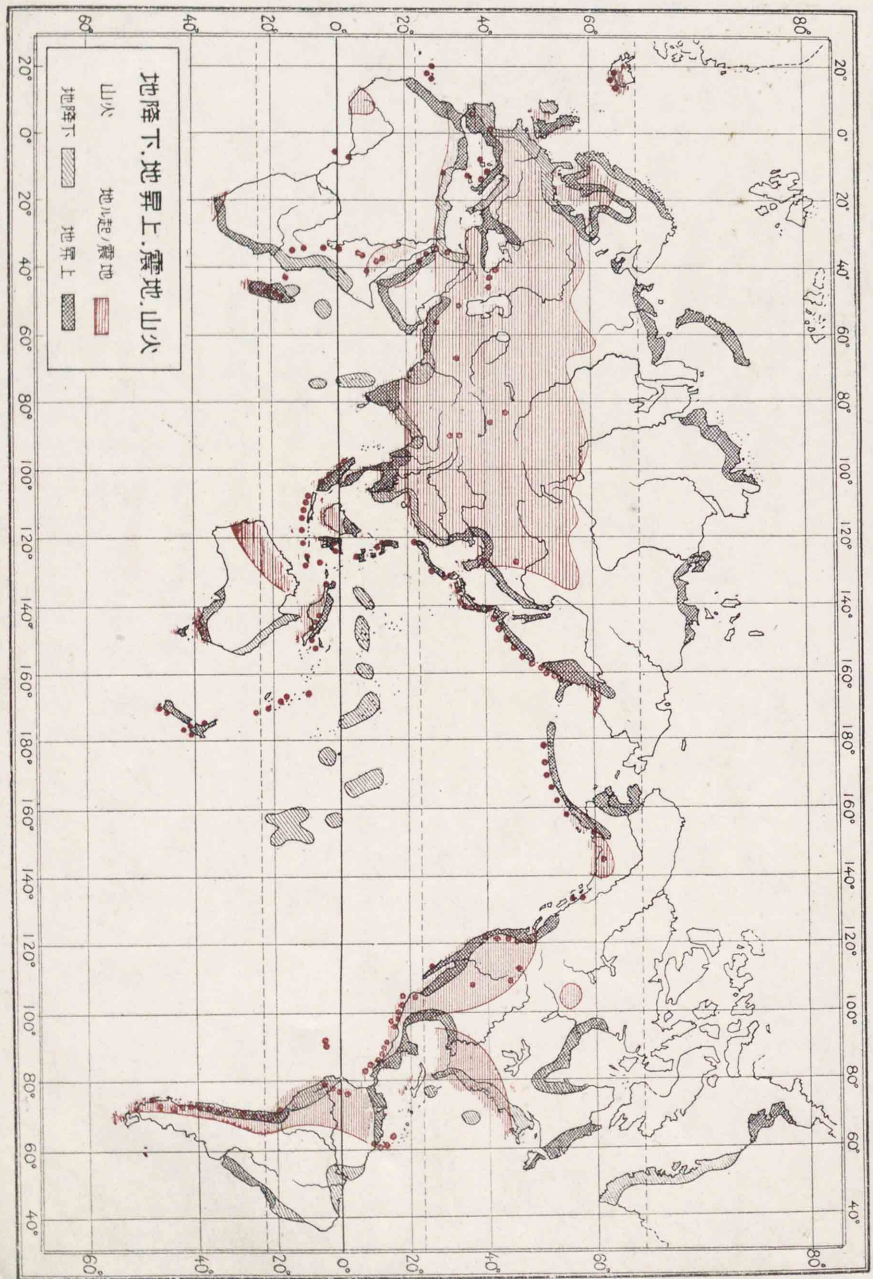
餘震等を伴ふ。餘震は、大地震後に起るべき小震にして、地盤之が爲に安定するものなれば、畏るゝに足らず。濃尾地震後の二年間に、岐阜にては、三千三百餘回の餘震ありき。

我が國は、地震學發達し、優秀なる地震計も創作せらる。地震計は、震動を感じざる不動點を設けて指針を附し、地震と共に震動する板面を其の尖端に觸れしめ、以て震動を記録せしむるものにして、震動の性質、方向、強弱、發震時、繼續時間、終震時等を知り得べし。

地震は、太平洋の四周、地中海沿岸、馬來群島等に多し。是れこれ等の地方は、地殼の弱處にして、斷層褶曲屢起り、時に噴火もあればなり。我が國は、世界屈指の地震國にして、近江濃尾關東の三平野、信濃川の流域、兩羽地方特に然り。

第二節 噴出作用 附噴氣孔 溫泉

火山の意義 地球内部の熾熱なる岩漿が、地殼の弱處より噴出するを噴出作用といひ、其の噴出物の堆積せしを火山と稱す。但し噴出に際し、却つて山體の破壊せらるゝ場合稀ならず。



陸界 陸地の變動 噴出作用 噴氣孔 温泉

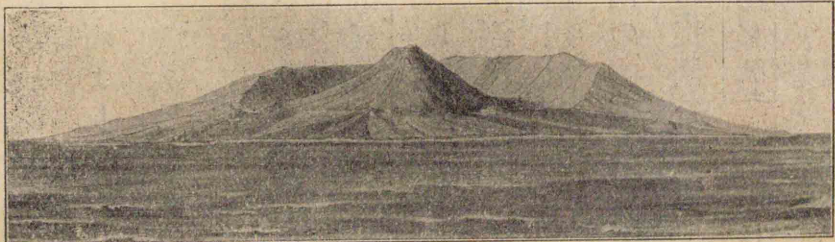
信濃高妻山三河風
來寺山備中彌高山
讃岐飯野山等は塊
狀火山の例なり
寄生火山は側火山
とも稱せられ富士
山には三十九個あ
り

箱根山阿蘇山は二
重式淺間山三原山
は三重式而極地方
のエレプス山は五
重式の火山なり
箱根の早川阿蘇の
白川は火口瀨なり

たる塊状火山あれども、數回の噴出、異種物の堆積より成りて、層理明かなる成層火山多し。も
と火山は、美はしき缺頂圓錐形の單式なるを常
とすれども、寄生火山の噴起、外力の侵蝕等によ
りて、外形の美を傷ふもの少なからず。殊に箱根
山、阿蘇山の如く、舊來の火口内に、新火山を噴起
したる複式火山は、舊形を變ずること著し。
複式火山の新火山を中央火口、丘、舊火口壁を外
輪山、中央火口丘、外輪山間の低地を火口原、火口
原に湛ふる水を火口原湖といふ。而して火口原
の水が、外輪山を破りて流出する處を火口瀨といふ。

火山の分布

火山は、地皮の弱點に噴起するも



山火式重二の中島諸岬デルベ加利弗阿

×白頭山・漢羅山

其の地の年平均氣
温より低温なる泉
を冷泉と云ふ上野
磯部のもものは炭酸
性の冷泉なり

のにして概ね線狀に排列し、略地震と分布區域を等しうす。噴出
作用は、往々海底にも起りて、水柱・水煙を噴騰す。火山島は海底火山
の海面に出でたるものなり。我が國は、總火山數二百に近くして、
世界屈指の火山國なり。列島部の彎形につれて、千島・那須・白山・阿蘇
霧島の諸火山脈噴起し、其の間に、富士・乘鞍の二火山脈縦走せり。而
して朝鮮には、二個の火山あるのみ。

噴氣孔

火山活動の餘勢として、諸種の瓦斯を噴出するを噴氣孔

といふ。動物之に入り、窒息するとあるが故に、地獄の名を附せらる

るもの多し。噴氣孔中、主に水蒸氣を噴出するを蒸氣孔(信濃・澁谷)、亞

硫酸・硫化水素等を噴出するを硫氣孔(箱根・大涌谷)、炭酸瓦斯を噴出する

を炭酸孔(攝津・有馬)といふ。硫氣孔附近には、硫黃の堆積することあり。

温泉

地熱の爲に、其の地の年平均氣温以上に温められて、地上
に湧出する地下水を温泉(Hot Springs)といひ、火山地方に多し。是れ火山地方は、

溫泉(單純泉)

×倉吉の南東方約二里に位しラヂウムの含量世界第二と稱せらる
△甲府の北西方約十里に位す

×外國にては氷州・新西蘭・米國イ・エローストン公園、我が國にては

地殻に罅隙多くして、地熱地表に近く活動すればなり。溫泉は、單純泉の外、其の含有する礦物質によりて、Sulphurated S. Spring S. Bicarbonate S. Chloride S. Acid S. 硫黄泉・鹽類泉・炭酸泉・酸性泉等に分たれ、其の含有物の沈澱したるを湯の華といふ。溫泉は、概ね空氣の清淨なる處にありて、神經痛・貧血症・痲痺質・皮膚病等、療養上の效果著しきものあり。殊に伯耆の三朝、甲斐の増富、伊豆の伊豆山、臺灣の北投等のものは、ラヂウムRadium-magnesium S. 鑛泉として名あり。

溫泉の種類と適例
單純泉 || 箱根湯本箱根底倉伊勢野道後等
硫黄泉 || 北海道登別・鬼首日光湯木箱根蘆湯上諏訪加賀粟津溫泉岳山鹿臺灣北投等
鹽類泉 || 磐城鎌先・會津東山鹽原上野四萬伊香保箱根塔澤熱海伊東修善寺下諏訪和倉山中山代有馬城崎肥前小濱等
炭酸泉 || 神戸湊山寶塚攝津平野別府武雄等
酸性泉 || 那須上野草津信濃澁田豊後鐵輪等

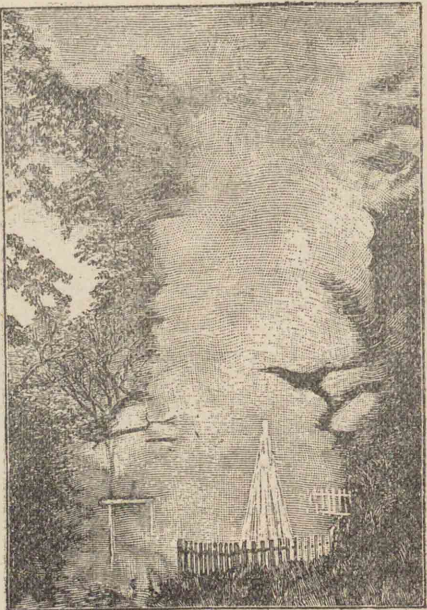
間歇溫泉

時間を定めて、熱水と水蒸氣とを噴出する溫泉を、特に間歇溫泉といふ。想ふに噴孔内の水は、其の底部に在るもの、沸騰點以上に達しながら、上部水壓力の爲氣化せずして止まれるに、漸次

伊豆の熱海陸前の鬼首にあり

間歇溫泉には下記以外の原因に依るものもあり

妙義山は荒船山の一部たりしものにして耶馬溪と共に集塊岩より成れり



鬼首の間歇溫泉

中部以上の水も増温して、遂に其の壓力に相當する沸騰點に達すれば氣化し、其の脹力によりて水煙水柱を噴出するものならん。而して此の水柱の大部は、冷却して孔内に復歸し、以て暫く噴出を休止す。是れ間歇溫泉の名ある所以なり。

第三節 水的作用

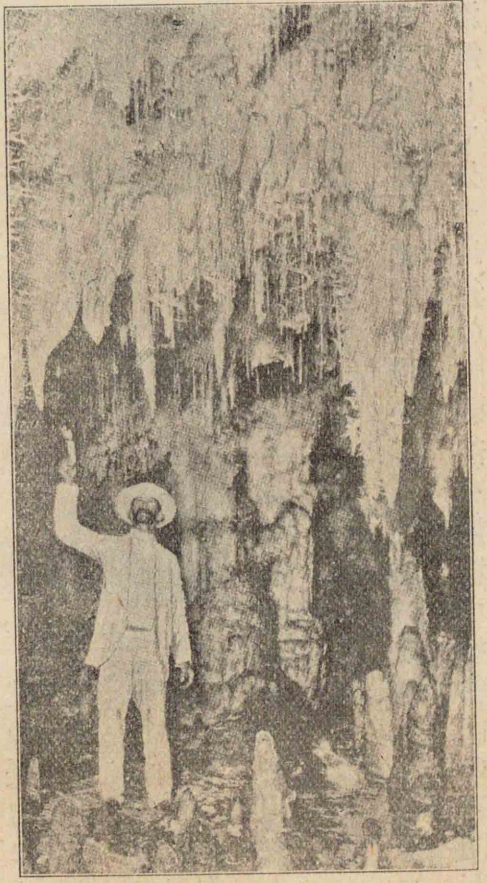
雨水的作用

雨水は、強硬なる花崗石をも侵蝕し、殊に炭酸瓦斯を溶解して、先づ地盤の脆弱部を崩壊す。妙義山の石門・石柱を始め、風景絶佳なる山境は、雨水の作用に成れるもの多し。石塊を混ざる粗鬆シロヤの地方にありては、其の石塊の下部、僅に雨水の侵蝕を免れて

土柱を造ることあり。
Earth Pyramid

地下水的作用

雨水等の地下水となるや、地中の物質を溶解す。石
Ground water

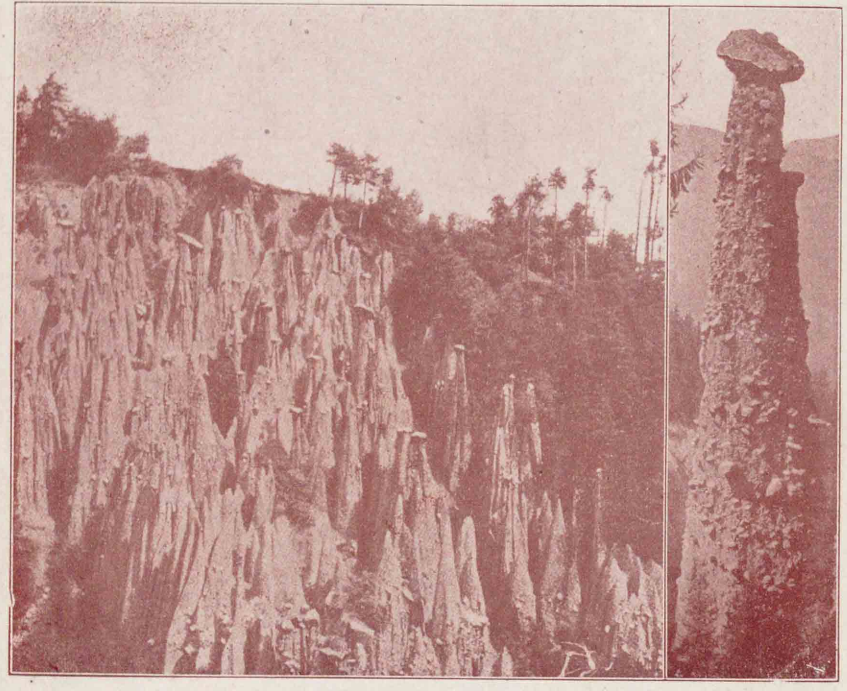


洞 岩 灰 石

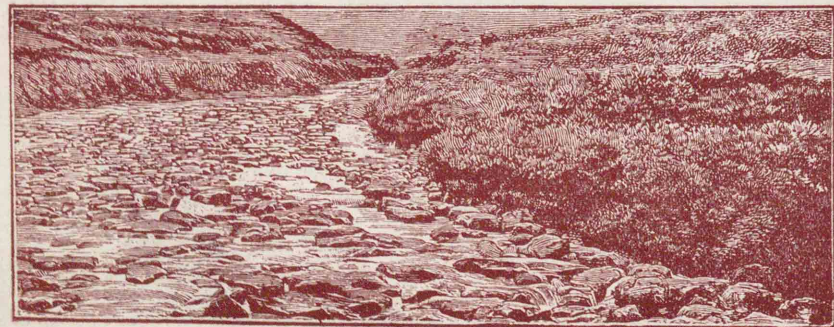
灰岩・岩鹽
等より成
れる地層
に於て特
に然り。
石灰岩洞
は、地下水
の爲に作

マンモス洞はケン
タッキー州にあり
て支洞を合すれば
長さ約五十里あり

られ、鐘乳石・石筍・石柱・石灰筍を有することあり。亞米利加合衆國の
マンモス洞特に著はれ、我が國にも、武藏の日原、長門の秋吉臺等に
あり。
Stalactite Stalagmite Sink Hole Mammoth Cave



(のもの方地ルーロチ利地塊) 柱 土



(のもの川淀大縣崎宮) 穴 甌

彼の瀨八町、寢覺床の峽谷の如きは瀑布終滅の遺跡に外ならず

地下水は、緻密なる地層上に滯溜して、井穴に湧き出で、又崖端より流出して泉となる。右の帶水層の低部又は凹曲せる帶水層の凹部に穴を穿てば、地下水の噴騰する噴井(鑽井)を得べし。

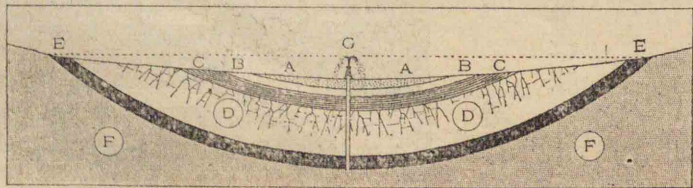
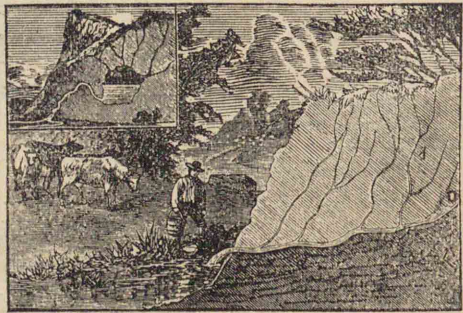
Artesian well

河水の作用

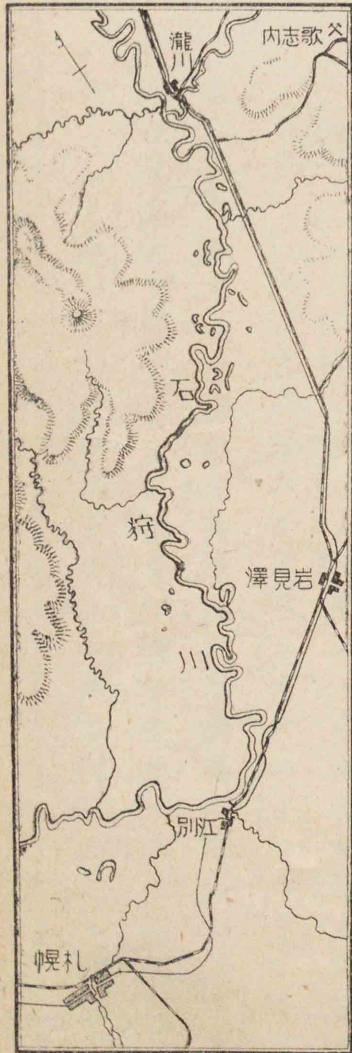
河水は、侵蝕・運搬・堆積の三作用を営むものなり。

Portation Deposition

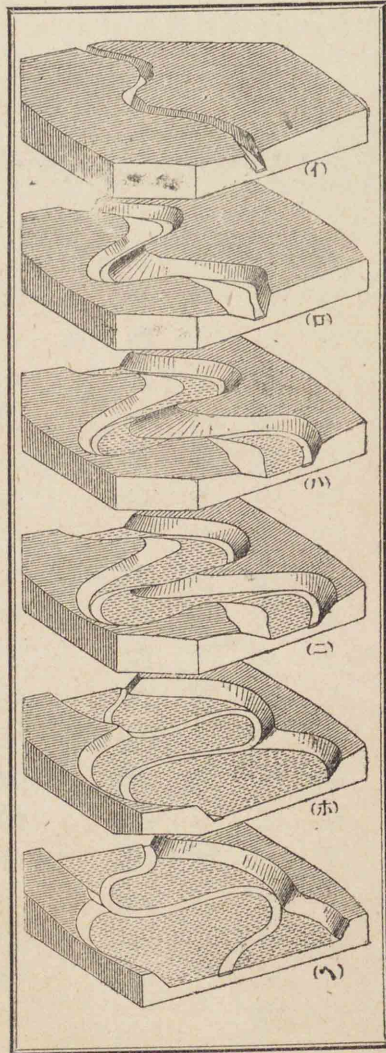
上流の深溪、罅穴、瀑布の瀧壺、曲流部凸所の深淵は、何れも流勢と運搬岩石との合同營力に成れり。猿橋の奇勝、コロラドの大峽谷、ナイアガラ瀑布の年々數尺の後退の



層地きべ得を井噴と泉の端崖



湖跡河の系河狩石



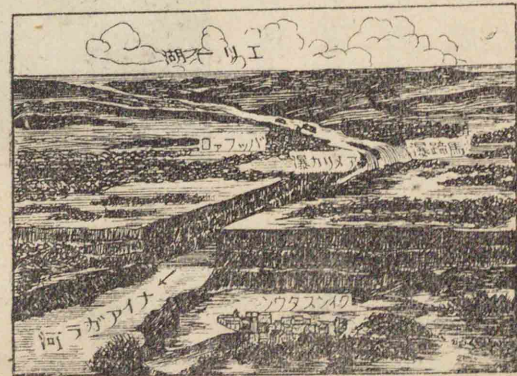
張擴の谷河と達發の曲迂流河

如き、いづれか河水の侵蝕ならざらん。河水は、侵蝕する礫・砂泥を、流勢の強弱に應じて、運搬し堆積す。即ち上流には岩塊、中流には礫石、曲流部の凹部又は下流には砂泥を堆積すべし。河床益々侵蝕せられて深まらんか、河水溢流の際、河岸に砂泥礫石を堆積する荒蕪地階段をなすに至ることあるべし。之を河段・丘といふ。

river terraces

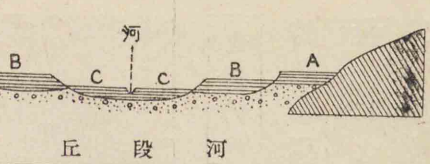


道隧の蝕水河ラガアイナ



退後の布瀑ラガアイナ

ペール及びフェル
レルの法則
地上にて任意の方
向に動く物體は地
球自轉の爲の偏向
力によりて北半球
にては右半球に
ては左に偏す故に
北半球に於て南流
する河は西岸を北
流する河は東岸を
多く侵蝕す



河水は、堅き地を避けて柔かなる地向ひ、又低きに從
ひて流るゝが故に、もとより直流するものにあらざる
上に、曲流部の凸所、益々侵蝕を逞しうするが故に、一層蛇
行的に迂餘曲折して河谷を廣げ、遂には二つの曲流部
直通して、其の中間の曲流部、河跡湖(湖灣)として殘るこ
とあり。

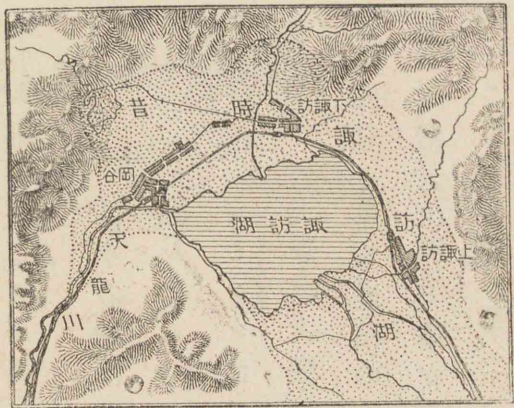
河水の湖海に注ぐや、土砂を堆積して扇形の砂洲(三角
洲)を作るべし。三角洲は、我が淀川、木曾川、外國のニ
ル・ミシシピ、ヒ・ガンガ等のもの著はれ、概ね農耕に適し、又

大阪、名古屋、カルカタ、カイロ、ニューオーリンズ等、大都
會の成立を見る。堆積の土砂は、風向潮流等の關係によりて、三保松

原、夜見濱、大天橋、天橋立の如き砂嘴を生じ、又其の内部に、澤湖(潟)を
抱くことあり。但しアマゾン、テムムスの河口の如く、潮流劇しく、且

湖底平原の成るは湖脚破壊せられて排水の多くなりしこと大原因たり

雪線は場所によりて其の高さを異にし赤道地方にては一萬五千尺乃至二萬尺以上の高所に位し高緯度の地にては平地にあり我が國には雪線に達する高地なし



平訪諏の原平底湖

つ土地下降する處にては、舟運の便なる喇叭状の三角江生成す。

湖沼の作用

湖沼は、沿岸を侵蝕する上に、其の崩壊したる碎片及び注入河川より受くる土砂を堆積して、

一條の河道のみを残すべき湖底平原を形成す。會津・甲府・奈良・近江等の盆地及び諏訪平の如きは、何れも湖底平原に外ならず。

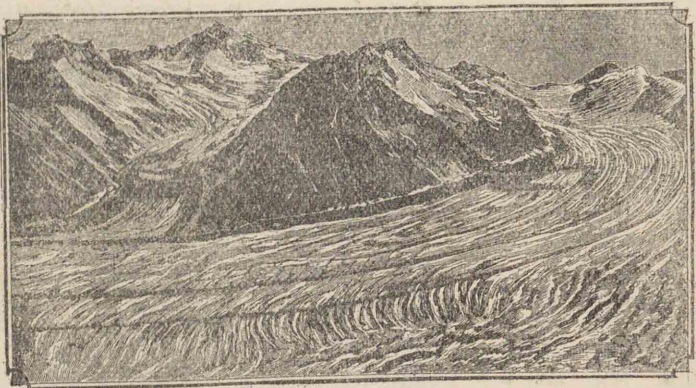
氷河の作用

雪の終年消えざる限界を雪線と稱す。雪線以上の地の積雪は、厚層をなして氷化し、背後なる氷層の壓力と、自己の重量とによりて、徐々に谿谷を流下す。是れ即ち氷河にして、河水の如く、侵蝕・運搬・堆積の三作用を營む。峽灣・ヨセミテ氷河角及びスベリ

*二個の氷河流合せば側堆石の一侧は中堆石となる

日本アルプには往昔氷河存在したりしといふ

氷山の水上に現るる部分は全體の八分に過ぎざれども尙ほ三百尺以上水面に現るるものありといふ而して北極洋産は塊狀南



氷河

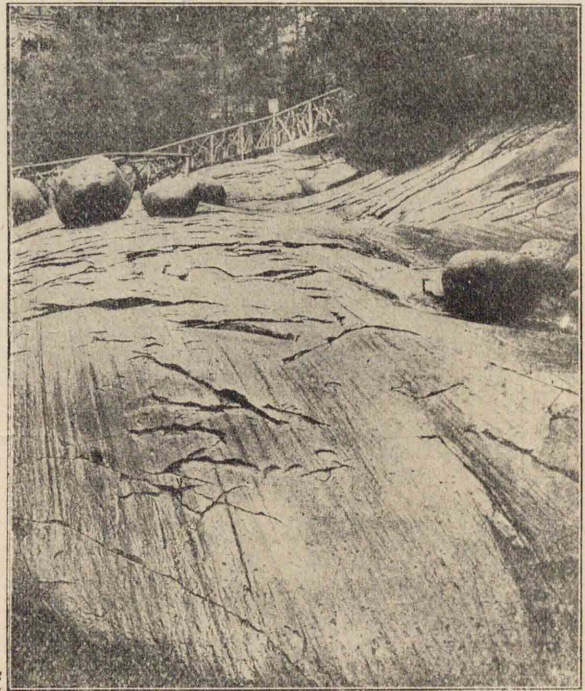
オル等の氷河湖などは、氷河の爲に成りしなり。氷河面には、兩岸より落ち來りたる石塊即ち側堆石又は中堆石列をなせり。これ等の表堆石は、氷河に存する裂罅より、氷河の河底に達して所謂底堆石となり、氷河の運動に伴はれて地盤を摩擦し、稜角を失ひて圓滑となり、又條痕を生ず。

雪線附近即ち氷河の末端には、氷河の融解・堆積したるこれ等の堆石あり。之を漂石(終堆石)といふ。

極地の氷河は、流下して氷田となり、更に海に出でて氷山となり、風浪海流に導かれて航海者を悩まし、融解して海底に堆石を堆積す。

極洋産は車子形を呈す
卓子形は南極洲の存在を證す

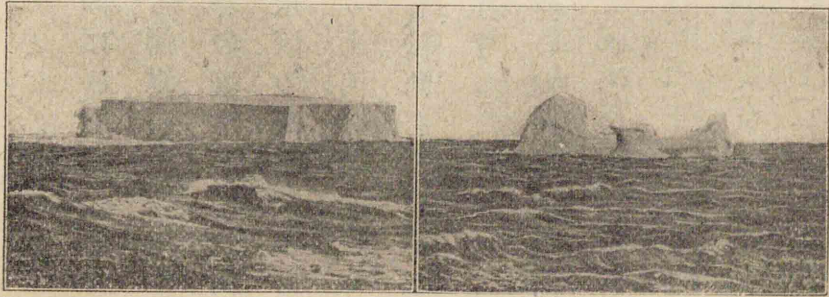
江島の洞穴も海蝕の結果なり



面岩るたれらせ磨削に石堆と石堆

彼の好漁場たるニールファウンドランド浅灘は、實に堆石堆積の爲に成りしなり。
Newfoundland Bank

海洋の作用 大波小波は、絶えず海岸を侵蝕して止まず、芥屋の大門は、玄武岩の柱状節理



山水の方地極南

山水の方地極北

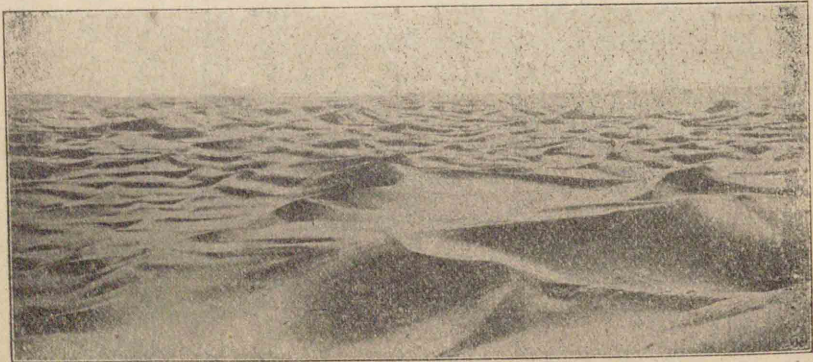
滿洲・北支那本部の黄土は風の爲に屢々北九州・中國地方に來ることあり

に沿ひて海蝕せられしもの、松島の數多き小島は、比較的堅硬にして、海蝕に堪へ残れるものなり、男鹿半島岸等の奇岩、亦海蝕によりて成りしなり。

第四節 空氣の作用

氣温の増減、空氣中の酸素、炭酸瓦斯は、雨水と相待ちて岩石を崩壞霉爛す。之を風化といふ。集塊岩より成れる妙義山、耶馬溪の絶景は、實に此の風化の爲に成りしなり。

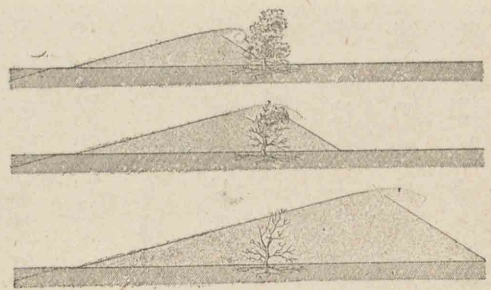
空氣は、如上の破壊をなすのみならず、又遠隔の地に砂塵を運搬し堆積す。海濱又は沙漠の砂丘は、之が爲に成りしなり。
Grand Dunes



丘砂の中漠沙

薩摩西岸の砂丘の詠歌に「吹上の松は眞砂に埋もれて老木ながらの小松原かな」とあり

本書は特に生物編を設けずして本節中に副記したり



行進の丘砂

砂丘は薩摩^西常陸北越の海岸に於けるが如く、往々内地に侵入して、田畝^ノ人家を埋没することあり。侵入の砂丘と、その進入を防止する黒松とは、白砂青松の佳境として愛でらるゝことあり。

第五節 生物の作用

生物分布の條件

生物は、適者生存の理法に左右せられて今日の如く分布したり。即ち生物

は、風海流自力などによりて轉移し、光熱飲食物等の好適地を選びて生息す。されど亦、山嶽海洋沙漠等に轉移を阻止せらるゝことも著し。彼の高山植物と高緯度地植物とが、同じきが如きは、風土と生物との間に、緊密なる關係の存することを知るべき適例なり。

動物の分布

犛^{ヤク}牛^{ウシ}孔雀^{コウキョウ}は亞細亞河馬^{カウ}麒麟^{キリン}斑驢^{ハンロ}は阿弗利加^{アフリカ}猩猩^{シシ}象獅子^{ゾウシ}虎^コ犀^{サイ}は亞細亞阿弗利加^{アフリカ}袋鼠^{カンガルー}鳴嘴獸^{メイヅイ}食火雞^{シカキ}エミュー^{エミュー}は濠洲^{オーストラリア}リヤマ^{リヤマ}羊駝^{ヤク}金鷄^{キンキ}は南米

ピューマは兩米を原産地とす。熱帯には巨大^{ダイ}犛^{ヤク}猛^{マウ}の者、溫帯には半馬^{ハンバ}羊豚^{ヤク}多く、寒帯には馴鹿^{ニホンカ}白熊^{オホクマ}ペンギン^{ペンギン}等あるのみ。

植物の分布

熱帯中、南亞細亞南東亞細亞中部阿弗利加アマゾン河流域の如き多雨地は、植物の種類多く、發育亦良好にして、寄生植物蔓性植物を伴へる喬木巨樹、晝尚ほ暗き密林をなし、山地より平地にかけては椰子樹、灣岸には紅樹^{マンゴローブ}、平野には稻甘蔗^{サトウ}珈琲^{コーヒー}綿^{コットン}生育し、各地に、甘蔗鳳梨の如き果實多し。溫帯は、稻^{イネ}麥^{コムギ}茶^{チャ}桑^{サトウキビ}松^{マツ}杉^{スギ}檜^{ヒノキ}等の農林業に適し、又嬋^{シシ}妍^{ケン}たる花片、甘漿^{カンキョウ}滴^{テップ}る美果多し。寒帯は、植物の種類少く、發育亦宜しからず。殊に西比利亞^{シベリア}加奈陀^{カナダ}等の凍原^{ドロン}にては、夏季、僅に蘚苔^{シホ}地衣類^{ジイ}を見るのみ。

我が國の生物分布

馴鹿^{ニホンカ}は樺太^{シベリア}臘虎^{ラマ}は千島^{シシマ}熊^{クマ}は北海道本島^{ホクカイドウ}鯨魚^{クジラ}は本州、猿猪^{サル}は本州四國九州^{シコク}蟪龜^{カメ}は小笠原^{オガサラ}飯匙倩^{イハヒ}は琉球^{リュウキウ}、水牛^{スイウ}は臺灣^{タイワン}、虎^コは朝鮮^{チョソン}を特住地とし、又阿旦^{アダン}榕樹^{ワカモノ}紗羅^{サラ}は琉球以南を、松杉檜^{マツスギヒノキ}は九州四國本州^{シコク}朝鮮^{チョソン}松^{マツ}は朝鮮^{チョソン}、白楊^{ハクヤウ}椴^{ヒメマ}松^{マツ}蝦夷^{エゾ}松^{マツ}等は、北海道以北を特生地とす。

植物の作用

植物は、根株をして地表を崩壊せしむれども、又、一面

み存在するものに
あらずして其の形
に種々あるは榮養
状態の如何に由る
が如しとせり

裾礁は堡礁となり、更に環礁となることを唱導せり。
多孔蟲は、微細なる動物なれども、珊瑚蟲に比して、營力更に著しく、其の遺骸は、到る處の海底に擴がりて、石灰質の軟泥を造る。此の軟泥より成りし石灰岩は、各地にて採掘せらる。多孔蟲の外、軟體動物、棘皮動物、硅藻の遺骸も、海底に沈積す。其の硅藻土は、北海道豊後肥後等にて採掘せらる。

第二章 地形

第一節 水平的地形

水平的地形とは、大陸(胴體)と肢節(島嶼、岬角、半島、沙嘴、地峽)等との水平的分布の状態をいふ。これ等の各地形には、各種々の成因あり。例へば地峽の如き、大陸、島嶼間に噴出、生成せしものもあるべく、陸地の海蝕又は徐昇、徐降に成りしものもあらん。
胴體に比して肢部の多きは、則ち海岸線の發達延長を示し、文化促

地形には地貌、地相、地勢等の別名あり

寒帯地方にては肢發達の地も交通

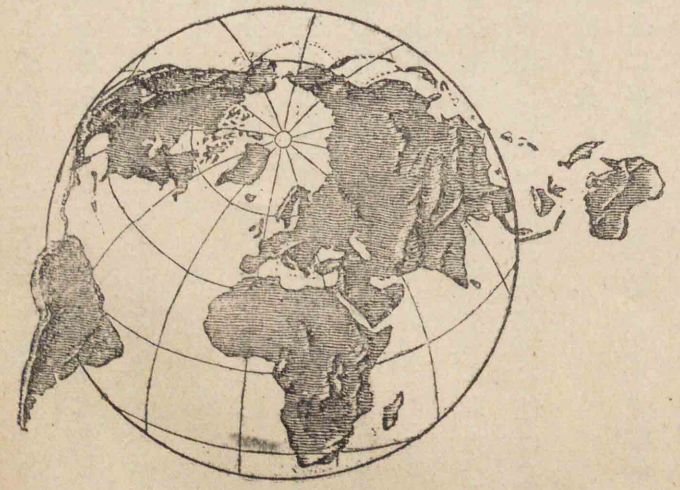
の便なき爲文化進まず

褶曲山脈 喜馬拉耶アルプ等世界大山脈の大部越後山脈亦之に屬す
斷層山脈 黒森飛騨山脈等置山脈金剛山脈
噴出山脈 コルサレラ山脈の大部奥羽中央山地の大部

進の大原因たり。歐洲北米は、亞弗利加南米よりも肢部多し。我が瀬戸内海九州北西岸朝鮮南西岸外南部志摩も、肢部の發達著し。但し後背地との連絡完全ならざる地は、發達遅々たらざるを得ず。

第二節 垂直的地形

垂直的地形とは、陸地の高低の謂にして、其の主なるを山地、平地、高臺盆地、湖沼、河川、谿谷、海岸とし、各文明に影響すること異なれり。
山地は、内力作用の褶曲、斷層、噴出、外力作用の水蝕、風化等によりて成り、山嶽、丘陵等に分つべし。其の連れるを山脈、群集せるを山彙と云ひ、二條以上の山



向走の脈山界世

脈を山系と總稱す。概ね山脈は、歐亞にては横走し、兩米にては縦走し、弗濠にては四邊を走れり。山地は、河源を養ひ、岩石鑛物を包有し、神靈の氣に滿ち、豪壯浩然、堅實の性を養ひ、其の著大なるものは、人種文明交通を限界すべき障壁となることあり。

× 蘭白のものは土地の徐降、歐亞間のものは内海の遺跡、死海附近のは斷層によりて成れり。火山の裾野及び火山原も平原の一種

× 國府臺 * 鹿島臺 △ 屋島デカン高原 北部朝鮮 高原の削磨せられて卓子狀をなせるものをメサと云ひ尙ほ削磨せられて



死海附近の窪地

平地は、高さによりて平原、^{Highw. Plain} 窪地、^{Low Plain} 低原に分る。平原には、風水の削成したるもの、河川作成の三角洲たるもの、土地の徐昇徐降によるもの、湖沼の乾涸せしもの等ありて、其の廣大なるものに、凍土帶、ステップ、^{Tundra} プレイリー、^{Steppe} リアノセルバ、^{Prairies} バンパ等あり。平地は、交通産業に適して財力住民集中し、生存競争著しくして、民衆敏捷に赴けども、亦堅實なる精神を失ふ。

高臺は、平原よりも高くして、其の頂點、割合に平坦なるものなり。水蝕斷層熔岩流土地徐昇などによりて成り、其の規模の大なるものに、滿目荒涼、殆ど牧畜のみに用ひらるゝ高原あり。小規模のものに、風致を有する臺原(臺地)あり。沙漠は、概ね高原性の不毛地にして、乏雨を主たる成因とし、回歸線附近に最

標柱狀をなせるをピユートと云ふ。沙漠は全く平坦なる砂地のみより成れるにあらずして、山岳岩石分布す

- 1 藏王沼 2 蘆湖 3 スベリナル湖 4 印旛沼 5 裏海 6 琵琶湖 7 中禪寺湖 8 河北湖

も多く、人文の發達を阻害す。

盆地は、山地又は臺地に圍まれ、平夷なるが故に、平原の一種とも看做すべく、又概ね海拔高きが故に、高原の一種とも看做すべし。湖沼の遺蹟たるもの多くして、一條以上の河流、他に流出するを常とす。我が封建時代には、山河襟帶、自然の要害として、群雄の割據せしもの多し。

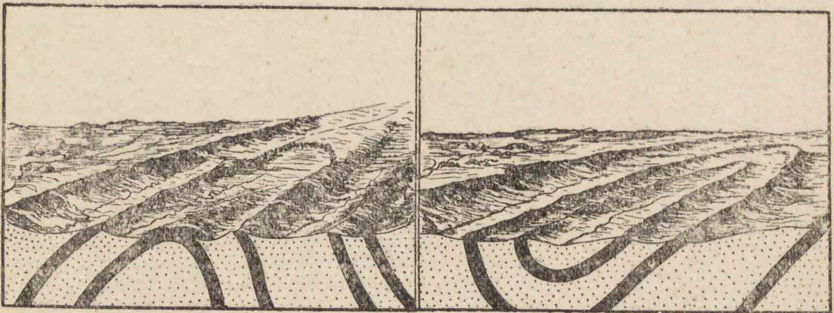
湖沼は、低地に湛へ、成因上、^{Crater L.} 火山湖、^{Atmo. L.} 火山湖、^{Glacial L.} 氷河湖、^{River L.} 河跡湖、^{Sea Lake} 海跡湖、^{Depression L.} 窪野、^{Harbour L.} 堰堤湖、^{Artificial L.} 環礁湖、^{Artificial L.} 人造湖に、水質上、淡水湖、半淡水湖、鹹水湖に、吐口の有無によりて有口湖、無口(内陸)湖に分る。無口湖は、概ね鹹水湖なり。死海は、之が適例にして、鹽分^{NaCl}に上り、溺死の憂あるなく、魚類生息せず。湖沼は、地形を變更する上に、河水量、氣温の調節、濁水の濾漉、^{漁業} 産業、^{灌溉工業} 交通の助長をなす。

河川は、山地に發して、平原を迂餘曲折し、以て湖沼、海洋等に朝宗するを常とし、其の本流、支流、分流を總稱して河系と云ふ。一河系の排水域は、則ち流域と稱せられ、分水界によりて他の流域と區劃せられ、人情風俗、別業をなし、産業生計相倚り、吉凶相問ふの傾向あり。河川は、破壊、運搬の作用の末、肥沃なる平

断層の時には垂直的に地層の喰ひ違ひをなして一方が山となる又水蝕の時には谷谷生成し其の近傍の土地山をなす
吉野川は大崩壊小崩壊間にて横谷其の他にて縦谷を流る

* 崖瀆たる外南部の釜石大船渡の如し

谷蝕水の層斜背 (層地硬 ■ 層地軟 □) 谷蝕水の層斜向



野を建設し、且つそを灌漑する上に、舟筏の便を有して、水尋深き處に河港を擁す。尙ほ河谷を開きて、道路、鐵道の開鑿に便じ、飲料水、動力を供し、魚類を繁殖す。斯くて海岸に發達したる文明は、河川によりて内地に進入するなり。
谷谷は、陸地の低くして溝狀をなせるものを云ひ、平原と稱せらるゝもの多く、褶曲、谷斷層、谷水蝕谷等の別あり、而して山脈と並行するを縦谷、山脈を横ぎると横谷と云ひ、北上川、阿武隈川は縦谷を開き、阿賀川、江川は横谷を開けり。河谷平原は、概ね河成の縦谷にして、文明の發展すべき地域たり。
海岸には、山勢の海洋に急斜する崖瀆と、平沙の遠く亘れる砂濱とあり。崖瀆は、暗礁散在し、平地缺乏し、後背地との交通不便なれども、天然の良

し * 砂瀆たる臺灣西岸の打狗の如し

四國山脈は壯年時代にして中國山脈阿武隈山脈の如きは老年時代と見るべきなり

港の凹入せることあり、沙濱は住民の集落すべき平地存するも、築港をなすにあらざれば、船を寄するに由なきを常とす。

第三節 地形の輪廻

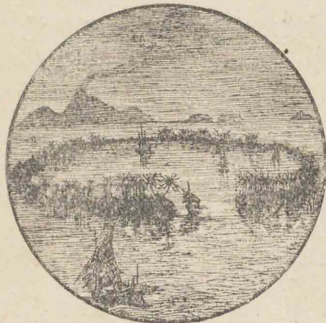
新に隆起したる土地は、未だ内力、外力の諸作用を受けざるが故に、其の地形、極めて單調なり。之を地形の幼年期といひ、關東平野は之が適例なり。これより年所を経るに従ひ、絶えず侵蝕作用を受け、地形、雄壯複雑となる。之を壯年期といふ。我が國には、本期に屬する地形多くして、豪壯雄偉の觀を具へり。更に侵蝕作用益進み、土地低平となりて水準面に達し、所謂平原と化す。是れ地形變動の第一次末即ち老年期にして、次の土地隆起を待ち、以て第二次の變動に入る。斯くの如く地形が、幼年期、壯年期、老年期を繰返すを、地形の輪廻といふ。

第二編 水界

第一章 海洋

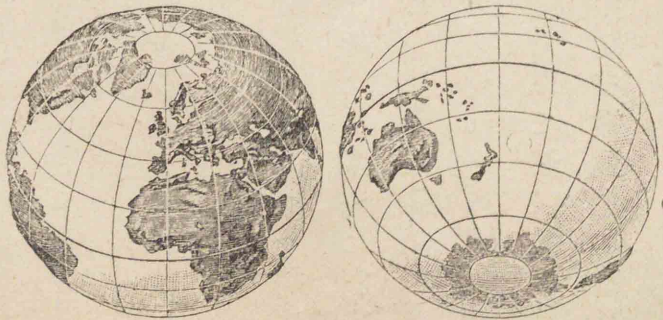
Sea and Ocean

水陸の分布 水界は、地表の約四分の三、即ち陸面の三倍弱を占め、北半球よりも南半球に多く、英吉利海峡・新西蘭を兩極として地球を兩分せば、水界の最も少き陸半球と、最も多き水半球とを得べし。水界は、三大洋（又は五）に分れ、陸との關係上、間海縁海、海峡、港灣などの支派を生ず。而して陸は、主に水との關係上、大陸（七）と島嶼（七）に分れ、此の二者は、概ね半島・岬・崎・沙嘴・地峽等を有す。島嶼は、排列によりて孤島・群島（諸島）に分れ、成因によりて陸島・洋島に分る。陸島は、日本列島・英吉利群島の大部分の如く、大陸と分離したるものにして、地質構造、生物分布など、大陸と密接なる關係を有す。洋島には、火山島・珊瑚島・遺跡島等あり。



島山火と島珊瑚

分れ、陸との關係上、間海縁海、海峡、港灣などの支派を生ず。而して陸は、主に水との關係上、大陸（七）と島嶼（七）に分れ、此の二者は、概ね半島・岬・崎・沙嘴・地峽等を有す。島嶼は、排列によりて孤島・群島（諸島）に分れ、成因によりて陸島・洋島に分る。陸島は、日本列島・英吉利群島の大部分の如く、大陸と分離したるものにして、地質構造、生物分布など、大陸と密接なる關係を有す。洋島には、火山島・珊瑚島・遺跡島等あり。



球半陸と球半水

*南極洲を含む

*群島と稱する場合あり

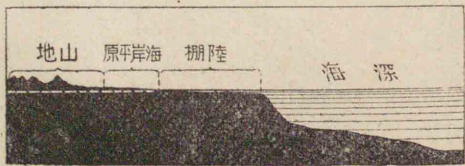
*斷層の結果

△錫蘭マダガスカル ▲隆起島沖積島もあり

海洋の平均深度は陸地の平均高度二千五百尺の約五倍にして富士山の高さと同様なり

分れ、此の二者は、概ね半島・岬・崎・沙嘴・地峽等を有す。島嶼は、排列によりて孤島・群島（諸島）に分れ、成因によりて陸島・洋島に分る。陸島は、日本列島・英吉利群島の大部分の如く、大陸と分離したるものにして、地質構造、生物分布など、大陸と密接なる關係を有す。洋島には、火山島・珊瑚島・遺跡島等あり。

海底 近海は、陸棚と稱して、水尋淺く傾斜緩やかにして、魚介多き好漁區たれども深さ約二百米の處に至れば、大陸の眞の縁邊即ち昔時の海陸分界線たる事を示して、急傾斜をなす。こゝより沖は、所謂深海にして、深さ約三千米の處まで急傾斜をなし、更に傾斜緩慢となる。要するに海底は、侵蝕作用少なき上に、物質、凹所に堆積するが故に、陸面よりも凸凹少し。



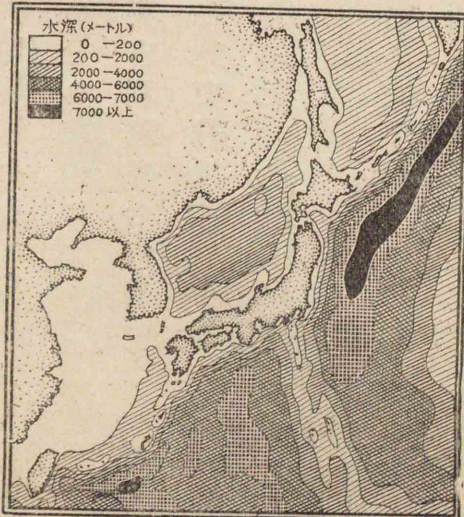
世界の最深處は、比律賓東方のブラネット海溝（九七八）にして、マリアナ群島附



カスラ海溝の深さ

近のネロ海溝(六六三)之に次ぐ。各大洋の平均深度は、三六〇〇米即ち陸地の平均高度の約五倍にして、太平洋最も深く、大西印度南極北極の四洋、順次に次ぐ。

我が國の近海には、北海道の南東、奥羽地方の東方に、世界屈指の深處たる、タスカロラ海溝(三八五)沖繩の南に琉球海溝(七五)あれども、其の他は一般に淺海なり。駿河灣・富山灣にては、一〇〇米・二〇〇米の等深線、陸岸に接

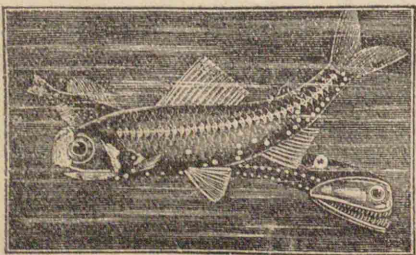


日本近海の深淺

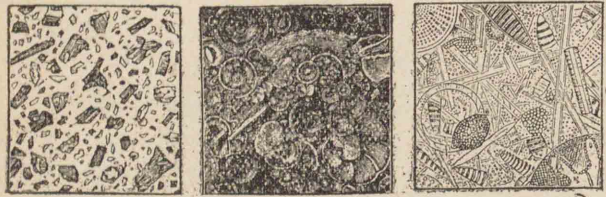
近せり。オホーソク海・日本海は、平均深度伯仲し、東支那海は、琉球の西部に於てこそ、一〇〇〇米の深處あれども、近海中、平均深度頗る少く、瀬戸内海に至りては、更に淺くして、最深處も三十米内外に過ぎず。

海底の物質たるや、陸岸附近は砂礫泥土多く、稍遠き處は、細粒となれる介殼所々に堆積す。深海底は、グロビゲリナ細泥・放散蟲細泥・硅藻細泥・軟泥等、多く、奇形魚發電魚など棲息せり。

四千米以上の海底に至りては、主に深海赤土にして、それを顯微鏡にて見れば、火山灰に富み、また屢、過酸化滿庵をも發見すべし。



深海の奇形魚發電魚



硅藻土 放射蟲土 軟泥

硅藻細泥は赤道以南の高緯度地方に多し

×二〇〇米
*一〇〇米

第二章 海水

今海洋の水を全部蒸發せしめたりとせば海底に厚さ平均六十米の鹽類層を生ずべし
海水中に食鹽多くして地層中に少きは其の陸上の大部が海洋に運搬せられし爲なり



(鹽食は形方) 物品結の後發蒸水海

成分 通常海水は、一〇二六の比重を有し、約千分の三十五の鹽分を有す。其の鹽分は、鹽化ナトリウム(鹽食)を主とし、鹽化マグネシウム、硫酸マグネシウム等なり。鹽分は、雨量及び注入河川少く、且つ蒸發盛なる處に多くして、地中海、紅海、瀬戸内海にては、千分の四十に及べども、大河の注入多く、蒸發少きバルト海Balticの如きは、僅に千分の十三に過ぎず。蓋し海水中に鹽分の存するは、注入の河水に混じて流れ來りしものあれども、また地球創成の當時より、既に多量に存在せしものならん。

水色 海水は、藍色を固有し、鹽分少ければ綠色、多ければ濃藍色(赤道海流、黒潮の類)となり、又天氣混合物によりても變色す。黃海の一部の

黃色なるは、土砂混有の結果にして、往々伊勢海、東京灣に來る赤潮、紅海南部の紅色、黒潮の燐光、有明海の不知火は、何れも下等生物浮游の結果と稱せらる。

水溫 海水は、陸地よりも光線の反射強く、水蒸氣を發して多量の潜熱を奪ひ、水平的又は上下的に交代平均するを以て、増溫も冷却も、共に陸地の如く急速ならず。海水表面の溫度は、熱帶地方に於ても、平均二十五度を保ち、極圈内に至りても、氷點下二三度に過ぎず。海水は、太陽の光熱を受くること、大抵深さ五百尺以内に止り、下層は、深さと共に水溫次第に低下し、四千米の深處に達せば、赤道地方に於てすら零下に降る。これ兩極地方の冷水、赤道地方に向ひて、海底を徐動し來ればなり。而して海水の深さに對する減溫率は、表面附近急激なるも、深處に降下するに従ひて、漸次緩慢となるものとする。

海水は陸地よりも比熱大なるを以て等量の熱を受くるとも温まると少し
海水の溫度は海水の結氷點たる零下三度六七と最高三二、五度(紅海面)との間に在り
海水は一日に溫度の差三度に上ること稀なり又四季に於ける溫度の差も十度以上に上ること少なし

第三章 海水

海水は、約零下四度にて結氷す。結氷の相連れるを氷原と云ひ、氷原の遠く互るを氷漠と稱す。氷原は、當初は平坦なるも、風又は海流の横壓を受けて、凸凹定まりなきに至る。夏季の近づくや、氷原氷漠の周邊は、破れて氷塊となり、風又は海流に誘致せらる。是れ即ち流水にして、低緯度地に向ひて進み、彼の氷山の如く、海客に危害を及ぼすことあり。

第四章 海水の運動

海水の運動に二種あり。一は、水分子其の物の流動(海流)にして、他の一は、水分子の位置を變ぜず、唯、其の波動を傳ふるのみの運動(波浪・潮汐)なり。

海流

海流は海中に於ける河の如きものにして、主として風の爲に起る。附近の平均温度より高きを暖流、低きを寒流と云ひ、孰れ

も氣候・漁業・航海業に

大なる影響あり。

暖流たるや、赤道附近

には、西進する赤道海

流と、其の反動たる赤

道逆流とあり。西進

する赤道海流は、大陸

に遮られて略、北東又は南東に向ひ、緯度四十度の附近に於て東折

し、支流を高緯度地に送れども、其の大部は環流となりて、赤道海流

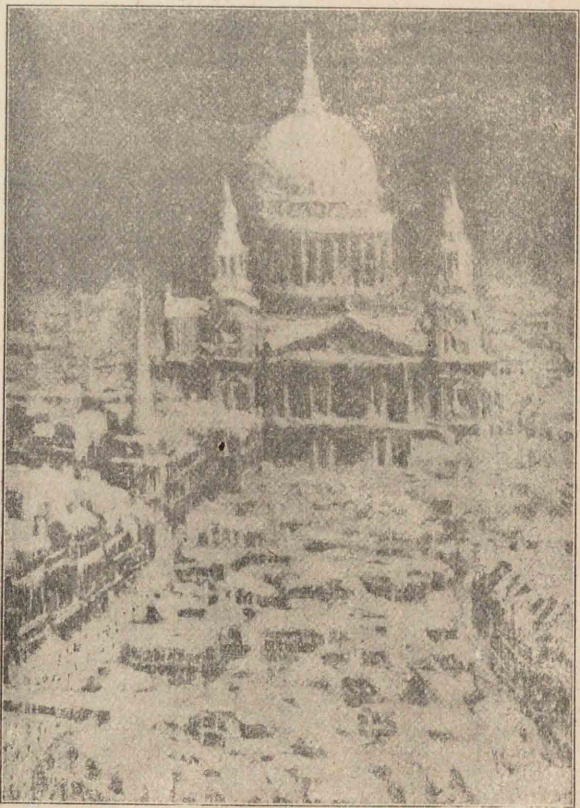
に復歸す。環流の主なるものには、大西洋に墨西哥灣流、太平洋に

日本海流あり。墨西哥灣流は、特に北歐の氣温雨量に影響して、文

明促進の大原因たり。今假りにフロリダ海峽を堰塞して、此の灣

流を杜絶せんか、英吉利の如き、忽ち枯凋衰微の悲境に陥らん。日

流寒		流暖	
太平洋	赤道海流 II 餘勢、日本・東濠洲・新西蘭三海流などとなる	太平洋	赤道海流 II 餘勢、日本・東濠洲・新西蘭三海流などとなる
大西洋	赤道海流 II 餘勢、メキシコ灣流・ブラシル海流となる	大西洋	赤道海流 II 餘勢、メキシコ灣流・ブラシル海流となる
印度洋	赤道逆海流 (ギニア海流)	印度洋	赤道逆海流 (ギニア海流)
太平洋	白令海峽及びオホーツク海より南下する千島海流(親潮)	太平洋	白令海峽及びオホーツク海より南下する千島海流(親潮)
大西洋	東グリーンランド海流 ラブラドル海流	大西洋	東グリーンランド海流 ラブラドル海流
印度洋	ベンゲラ海流(アフリカの南西岸を洗ふ)	印度洋	ベンゲラ海流(アフリカの南西岸を洗ふ)
印度洋	西濠洲海流	印度洋	西濠洲海流



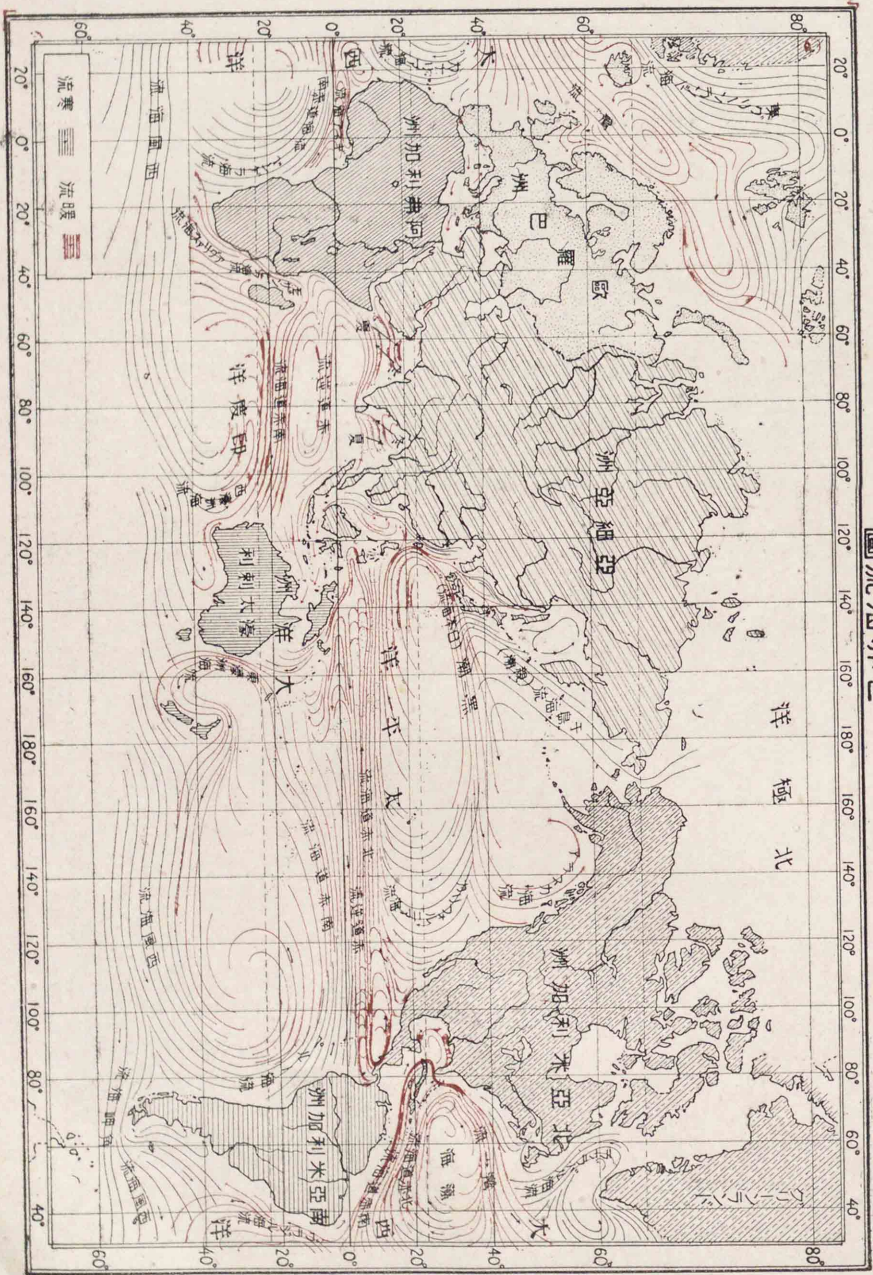
像想の近附寺レーボトンセ京英の合場の失亡流濁

本海流は、東印度諸島附近より北東し、宮古諸島の北方にて對馬海流を分ち、九州の南東岸、四國及び本州中部の南岸を洗ひ、御倉

黒潮の一日平均速度九州の南端を渾紀州沖、野島崎沖、北緯卅五度邊にては三渾乃至七渾對馬暖流の一日平均速度は三渾乃至七渾

島と八丈島との間に於て黒瀨川又は黒潮の名を得、金華山附近にて著しく東折し、遂にアラスカ海流となる。此の海流は、我が國の氣温を上昇せしむること少なきも、雨量を増加す。日本海流の支派たる對馬海流は、朝鮮海峽より日本海に入り、津輕宗谷間宮の三海峽

圖流海界世



親潮の一日平均速
度は北緯半度邊に
て五哩奥羽の東岸
にては五哩乃至十
哩

波の高き處を山低
き處を谷と云ひ其
の山と山又は谷と
谷との距離は波長
なり而して一度山
を起して次の山を
起すまでの時間を
波の週期と稱す
波浪を弱くするに
油類を注ぐことあ
り

に向ひ、所謂裏日本の氣溫雨量を増加す。一般に速度は、溫度と共に、南部及び本流に大にして、一時間約二哩半に達し、北部及び支流は、溫度低く、速度小なり。

寒流は、大西洋のラブラドル海流Labrador、グリーンランド海流、太平洋の親

潮最も著し。親潮Kurile Currentは、ベーリング海峡等より來り、千島列

島、十州島、奥羽地方の太平洋方面を洗ひ、金華山附近にて黒潮と會

し、漸く其の跡を失ふ。我が近海には、親潮の外に、尙ほ樺太Khvaling C. Limna C.、リマン

の二寒流あり。

波浪

WAVE

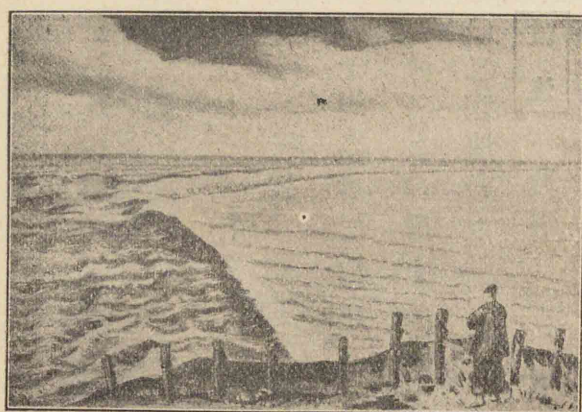
波浪は、主に風の爲に起るものなり。海岸附近以外に於ては、通常波高は十五米、波長は三百米を超えず。波浪は、一時間約二十哩餘の速力にて傳播すれども、水分子は、前進するものにあらず。但し海岸附近にては、上部は運動を傳ふべきものなく、下部は、淺き海底に阻止せらるゝが故に、海水懸倒しつゝ、前進して、以て海岸に

打ち上げ、後退しては次に來るものと合して、又更に前進す。斯くて海岸にては、數條の大波、小波、海岸に並行して一進一退せり。之を磯浪と云ふ。

天氣靜穩なる時、波浪の著しく高きをウネリと曰ふ。こは暴後風に

あれども、亦遠所の暴風の餘勢を受くることあり。後の場合に於いては、時として暴風の襲來を豫知し得ることあるべし。

地震又は海底火山の破裂、若くは暴風に基づく高浪を、特に津浪と云ふ。明治二十九年、地震に伴うて起りし三陸地方のそれは、波高二十五米に達し、多く人畜財産を害ひたり。彼の海嘯は、全



錢塘江の海嘯

安政元年十一月四日に起りし伊豆下田の津浪は約一時三十八分の後二千八百里を隔てたる桑港の驗潮器に感じたりといふ

く津浪と異なり、主に錢塘江(支那)の如き三角江に於て、満潮が河水を堰き止めて水壁を作り、滔々として溯るを云ふ。

潮汐

潮汐は、海流・波浪と異なり、其の運動

深き海底にまで及ぶ。潮汐は、太陰に對する

位置の關係上、一日五十分間に、満潮・干潮各二

回あり。満潮の極を高潮(High Water)、干潮の極を低潮(Low Water)

(リツコ)と云ふ。

抑も太陰の引力は、圖に示せるが如く、太陽に

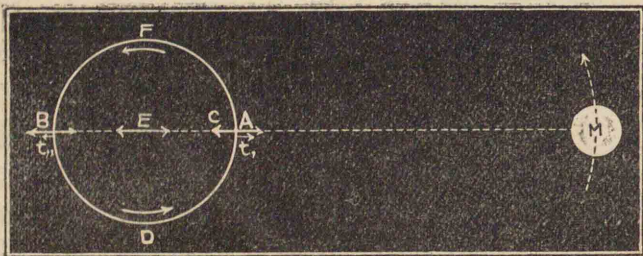
對する地球面(A)に最も多くして、ただ地球

の遠心力に勝るが故に、そこに表潮(Spring Tide)を起すも

のとす。又太陰に反する地球面(B)は、太陰の引

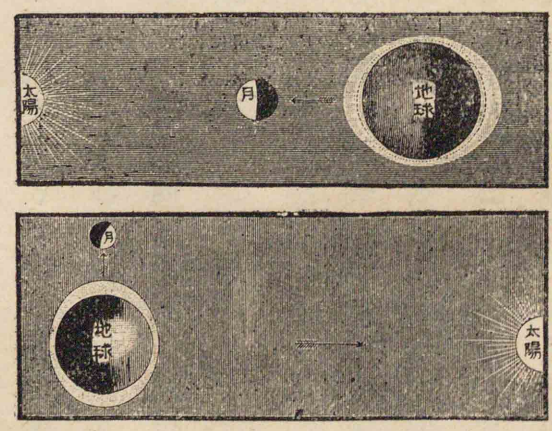
力最も少くして、遠心力の方、ただ強大なる

が故に、そこに裏潮(Neel Tide)を起す。此の表潮裏潮即ち



潮表と潮裏

満潮の處より、四分周を隔つる處は干潮なり。太陽の起潮力は、太陰のその九分の四を有するが故に、太陽太陰の一直線上にある満月・新月の時には、二種の満潮合して大潮となる。之に反して太陰・太陽の直角をなす上弦・下弦の時には、太陰潮と太陽潮との差に當れる小潮起る。



潮小と潮大

潮汐の昇降差は、大洋の中央にては三尺未滿なれども、東に面する海岸、殊に海水の彎入せる處に於ては著し。彼のファンデー灣(北米)に於ける潮汐の昇降差は、世界第一にして七十尺に達す。我が國にては、仁川附近の三十餘尺、有明海の十八尺を最多とす。而してバルト海、地中海、日



近附峽海門鳴

本海の如き内海にては、満干の差著しく小にして、我が元山附近は約二尺、佐渡は一尺弱なり。海峡又は灣口にては、潮汐干満の際に、内外二水面の水準、著しく異なるが爲、急激なる潮流(Tidal Current)を起して、舟行を危険ならしむ。鳴門海峡・下關海峡は、則ち之が適例なり。

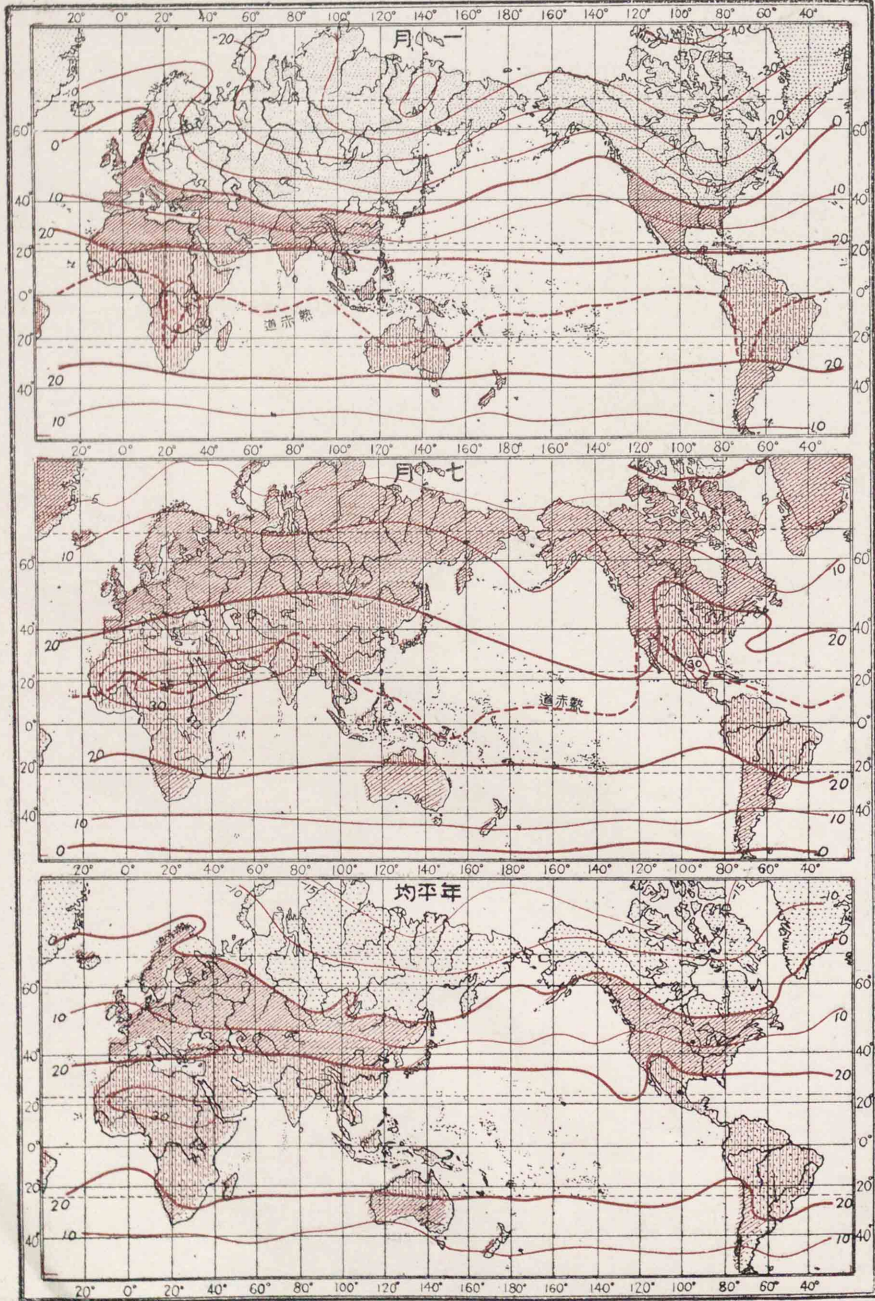
第三編 氣界

第一章 大氣

大氣は、地球の外包をなし、其の密度、地球の表面より上層に昇るに従ひて漸次稀薄となり、其の最高限は、光線の屈折、流星の發光等によりて、凡そ七十五里に達せるを知り得べく、無色、無味、無臭の氣體にして、窒素、酸素を主成分とし、アルゴン、水蒸氣、炭酸瓦斯、有機物等

空氣の成分
窒素
酸素
アルゴン
水蒸氣
炭酸瓦斯等

世界等温線圖



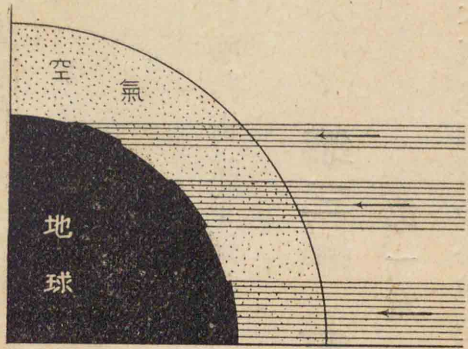
氣界 大氣 氣温

を含有せり。

大氣の受熱

第一節 氣温

上下氣層の温度遞減の割合は百米につき六度なり



北地光線は長く層を通過し且つ少量なり

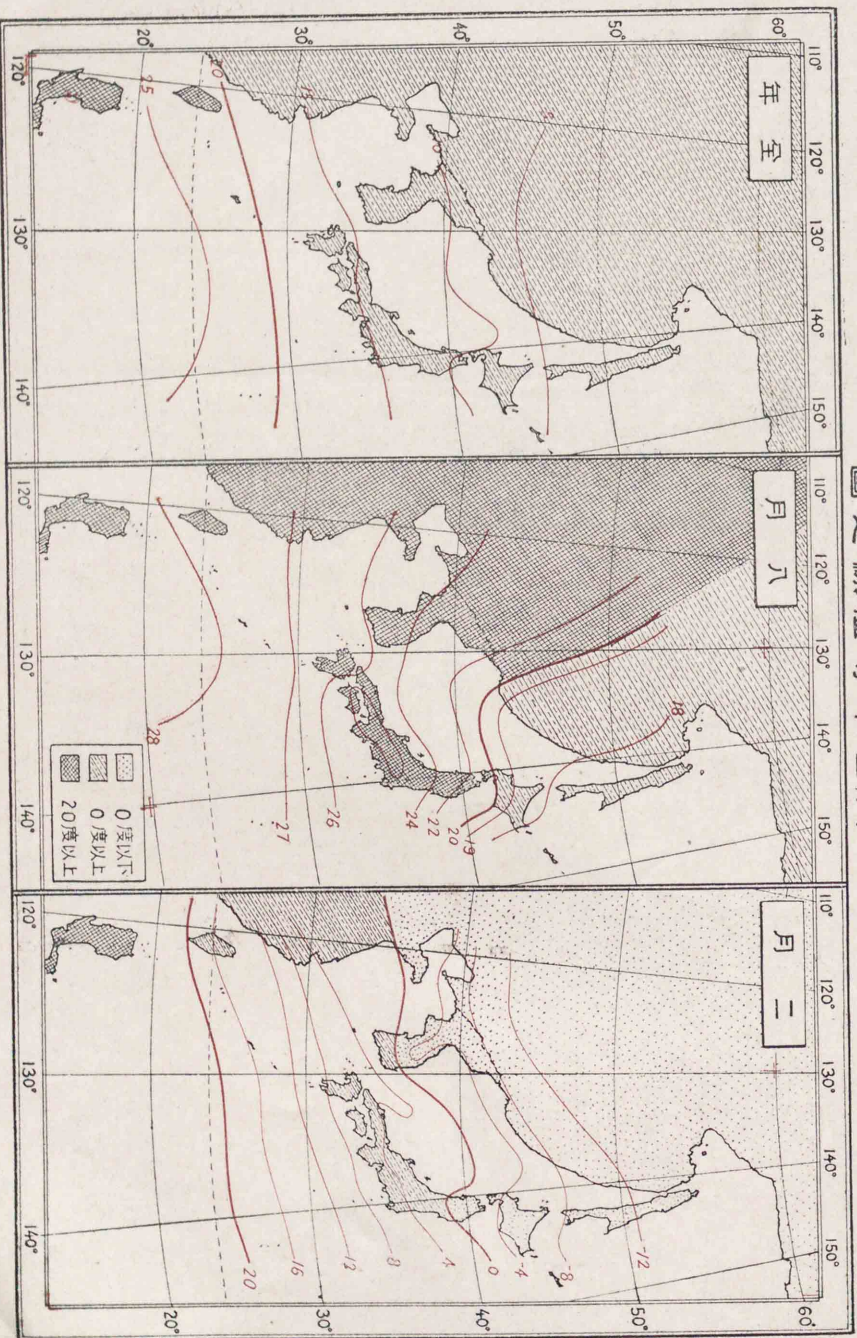
大氣の温熱は、主に太陽より受け、緯度及び土地の高低、山脈・主風の方向、水陸の分布等によりて、受熱に差あり。太陽より發する熱線は、氣層を透過して地表に熱を傳へ、更に地表は、輻射作用によりて下層の空氣を熱す。而して上層の空氣は對流作用によりて、漸次に熱を受くるものとす。

氣温の變化

氣温は、時と處とによりて

同じからざれども、概ね一日中にては午前四時頃最も低く、午後二時頃最も高し。又一年中にありては、七月（我が國は二月）に最も低し。

大日本等温線之圖



年平均等温線圖によれば地球上最熱の地は赤道の北に偏せり

黒潮は我が太平洋岸に雨量を多くするも氣温を和ぐる上には殆ど何等の影響なし

日本の絶對高温は元山巔度絶對低温は樺太落合零下度

一氣壓は一平方尺の面積に對して約

等温線

各地にて觀測したる温度(高處のものは海面に改算す)の相等しき地點を地圖上に記し之を連ねたる線を等温線Isothermといひ、それが赤道に向ひて凸出せる地は、凹入せる地よりも低温なるを示す。等温線の緯線に並行せざるは、北半球に著しくして、水陸分布海流定風地形の如何によるものとす。

日本の温度

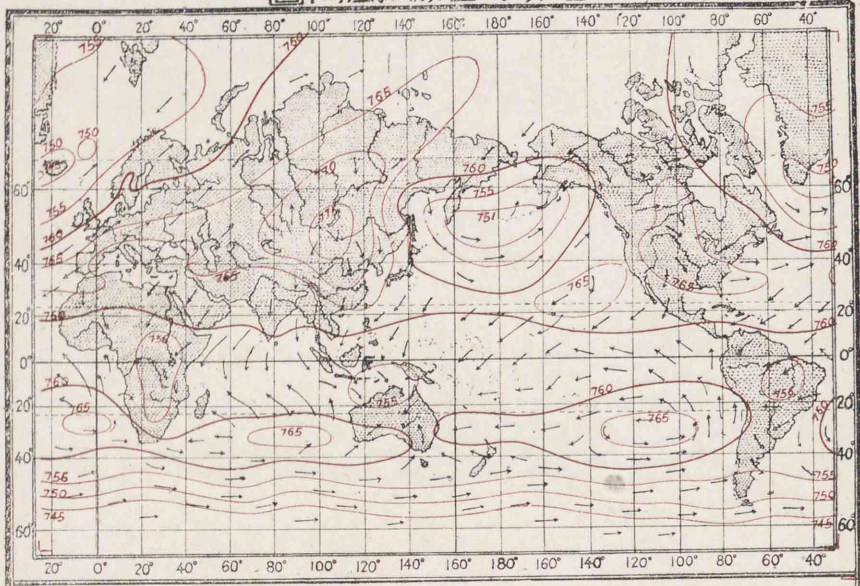
我が國は、世界の同緯度地中、アジア大陸の東部に比すれば高温なれども、歐羅巴・阿弗利加に比すれば低温なり。蓋し我が國は、北西に寒威凛冽たるシベリアを控へ、北東より千島樺太二寒流來るが爲ならん。殊に北緯三十七度以北は、斯る影響を受くること著し。

第二節 氣 壓

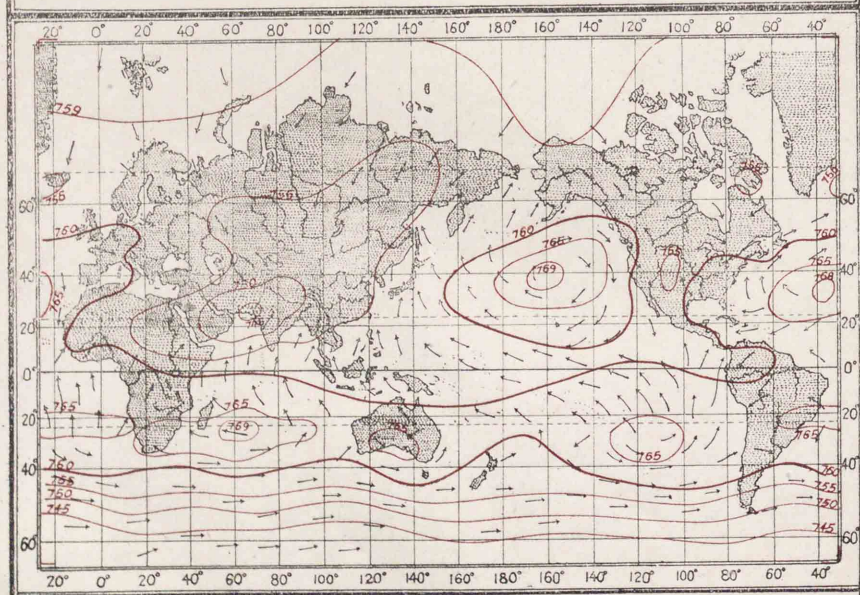
氣壓の變化

輕き空氣も、厚さ數十里に達せるが故に、海面上に於ける壓力は、略、高さ七百六十耗の水銀柱の重さに等しくして、之を

世界等壓線及風向圖



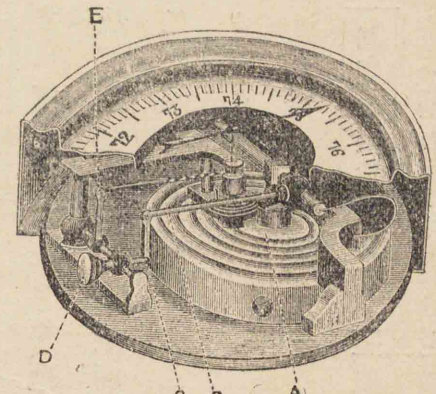
一月 風主



七月 風主

二百五十貫の壓力
氣壓計は晴雨を卜し得るを以て一に晴雨計とも云ふ

等壓線の變化するは地球の自轉大陸の分布大氣の溫度等に依る



アネロイド晴雨計

氣界 大氣 氣壓 大氣の流動

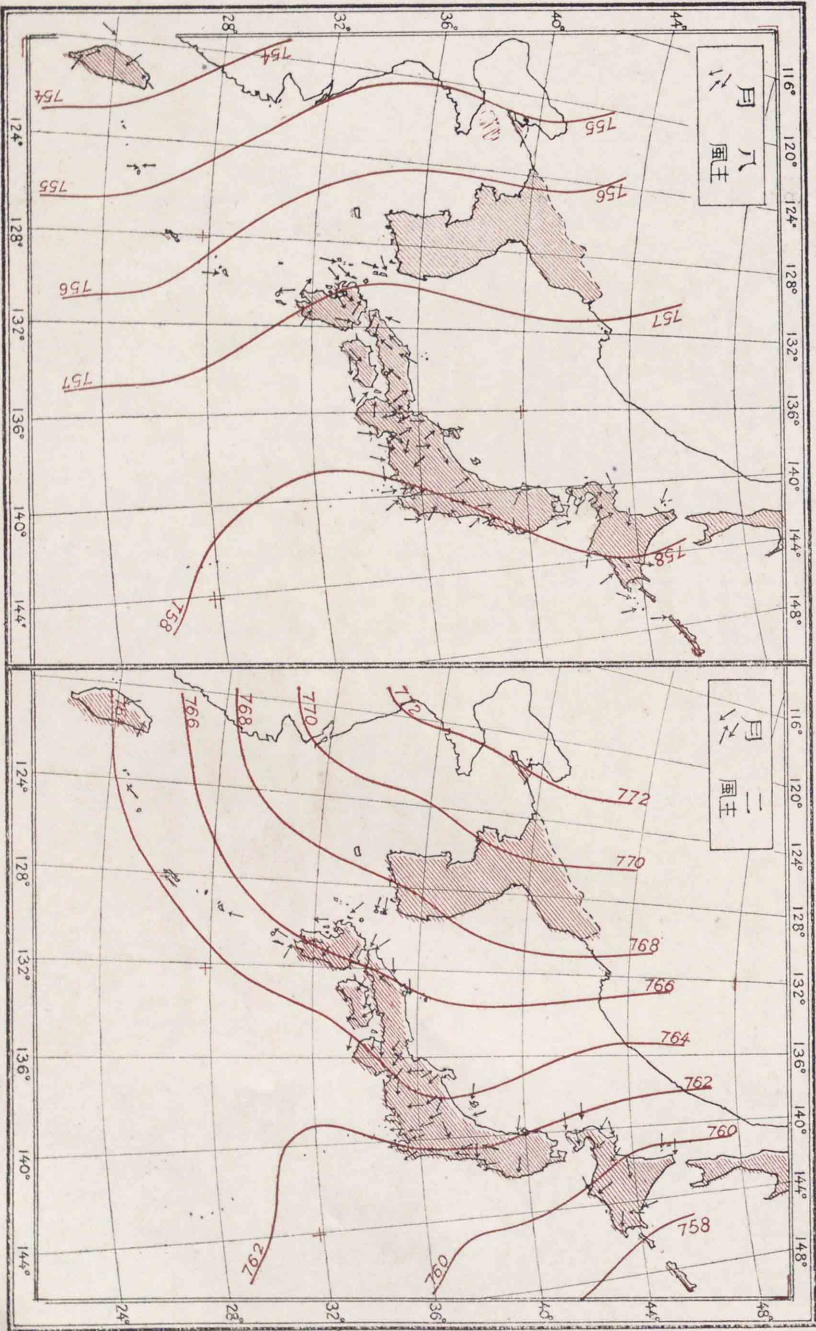
第三節 大氣の流動

ものは海面の各地點を地圖上に連結せる線を、等壓線といふ。北半球の一月の等壓線は、アジアの内部に最高部、太平洋、大西洋に最低部を示し、七月の等壓線は、略其の反對なり。斯くて我が國の氣壓も、冬季は西部に高く、東部に低く、夏季は之に反す。

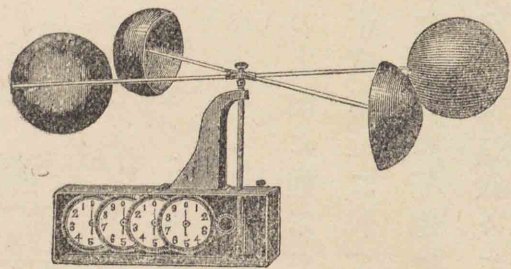
一氣壓と云ふ。氣壓の多少を計るに Atmospheric Pressure、空盒氣壓計、Mercurial Barometer、Aneroid Barometer、空盒氣壓計などあり。氣壓は、海拔、氣溫、水蒸氣等の増加するに従ひて低減す。富士山頂にては、夏季の氣壓、漸く四百九十耗に止まるが故に、低熱にても、容易に水を沸騰せしむべし。但し熱湯たるにあらず。

等壓線 同一時に於ける同氣壓（高地も

圖之向風及線壓等本日



風の階級と一秒時間 の速力	0.0—1.5
無風	1.5—3.5
軟風	3.5—6.0
和風	6.0—10.0
疾風	10.0—15.0
強風	15.0—20.0
烈風	20.0以上



風力計

れば風力益強し。其の氣流の方向は、地球自轉の影響によりて、低壓部に直進することなく、北半球にては少しく右に偏して、時計の針と反對の方向に旋廻し、南半球にては之に反す。

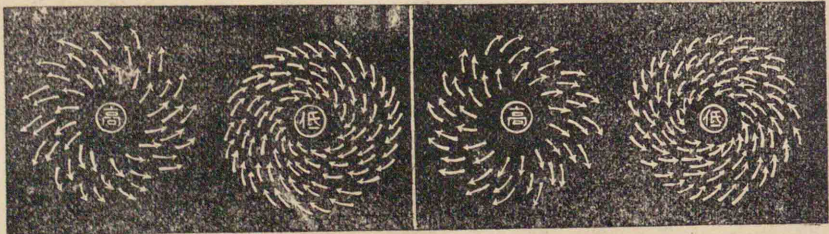
風

大氣の運動即ち氣流中、水平的なるを風と云ふ。風力は、高低兩氣壓の差の愈、大なるに従ひて益強く、其の速度を計るに風力計あり。

バイスバロットの風則

空

氣は、高壓部より低壓部に向つて流れ、等壓線愈、近



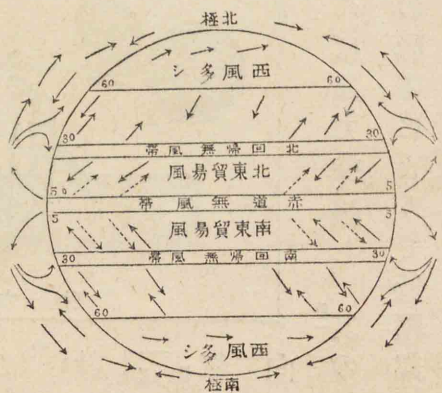
向風旋の球半南

向風旋の球半北

貿易風

附世界の風向大勢

赤道地方の空氣は、熱せられて上昇し、高

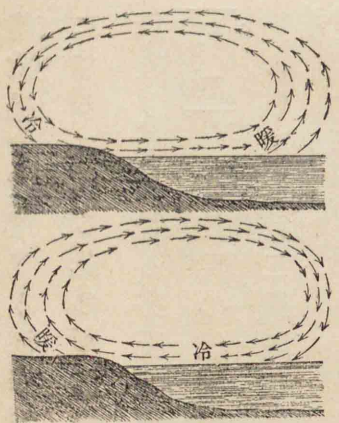


勢大向風の界世

而して高緯度地方の空氣は、低壓となる。赤道地方に向ふに、正南(南半球にては正北)に直進せずして、第二風則の如く西偏し、北東貿易風(南半球にては南東貿易風)となり、赤道に近づくに従ひて漸く熱せられ、以て徐々に上昇す。是れ赤道附近に、赤道無風帯E. tropical calm beltのある所以なり。

の方向に進みて、反對貿易風と稱せられ、其の大部は、南緯北緯各三十度附近に於て漸次に下降し、以て回歸無風帯Return Wind Beltを作り、大部は赤道に、一部は極地に向ふ。南北緯三十度附近にて、下降せざりし上層の氣流は、徐々に下降しつゝ、高緯度地に向ひ、中緯度地の主風たる

×信風又は半年風と曰ふ



風軟海風軟陸

南西風(南半球にては北西風)を起し、極地方にては、極地の面積の著しく狭小なる爲、第二風則顯著となりて殆ど西風に變じ、風力常に強し。

地表は、海洋又は地形一様の陸地のみにあらざるが故に、世界の風向は必ずしも上述の如くならずして、次の如き種々なる地方風あり。

季節風

或る廣き地域に於て、約半年間は、大陸より海洋に向ひ、約

半年間は、之と反對に向ふ風を、季節風と稱す。此の風は、我が國にも發達すれども、特に顯著なるは、印度の南西季節風なり。即ち強度

なる濕熱を齎して植物の生育を助く。されど亦健康を害するが故に、土民は、ヒマラヤ山中に避暑する者少なからず。

海軟風陸軟風

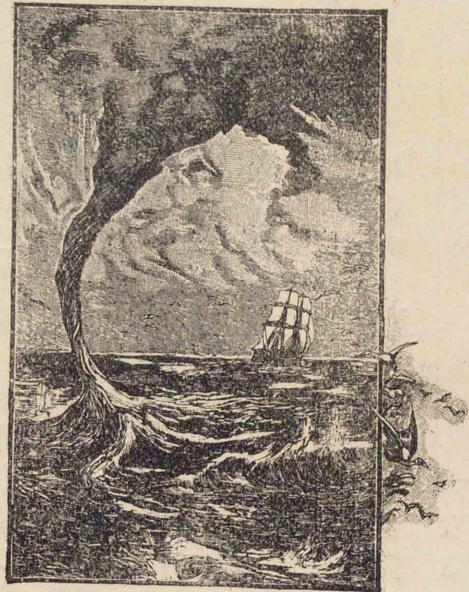
晝間は、海より陸に

向ふ海軟風、夜間は、陸より海に向ふ

陸軟風の發達する海岸地方あり。是れ海陸が、受熱放熱の時間を異にするに因る。此の兩風の交代時には、無風の狀態を呈する朝風夕風あり。山と谷も、亦受熱放熱の時間を異にして、山風谷風を起す。

旋風

一地點の氣壓、著しく急降せんか、之に向つて突進する四圍の氣流は、第二風則により、低壓部を中心として渦動す。是れ即ち



龍卷

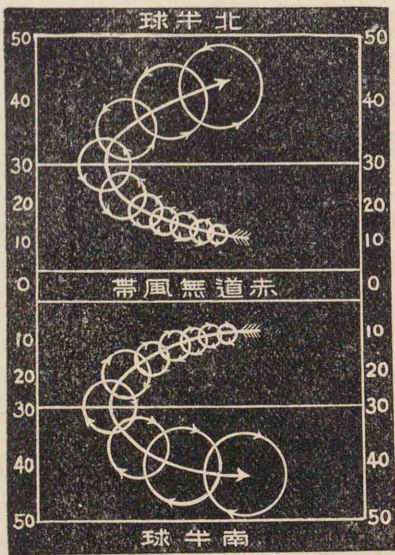
旋風なり。旋風の最も強烈なる颶風は、一時間の旋回速度、六十餘里に達す。時として、四圍に低氣壓起り、内部の高壓部より、空氣の輻流することあり。之を逆旋風と云ふ。此の逆旋風は、風域狭く、空氣乾燥なるを

* 往々樹木家屋を襲ひ又街頭に起る小規模の者もあり
* 水柱は勿論時に船舶をも捲き上げ

* 又は東風若くは北東風(南半球にては西風若くは南西風)

常となす。

旋風には、陸上に起るツムジ、水上に起る龍卷の如き、風域の狭き局部旋風の外に、温帶を西より東に進む温帶旋風と、熱帶より温帶に侵入する熱帶旋風とあり。旋風は、季節風域に起るを常とし、殊に



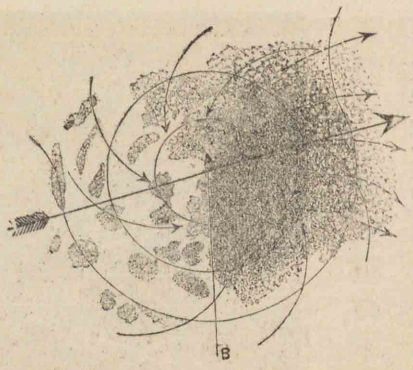
熱帶旋風の轉移方向

季節風交代季のものは、其の數最も多く、且つ其の勢ひ最も強烈なり。而して熱帶旋風の中心移動の経路は、くの字形を倒(南半球にて)に畫くを以て常とす。

氣温の上昇、氣壓の下降、豆大の雨滴を見、之に次ぐに強烈なる南東風(南半球にて)吹きて、豪雨を猛注す。正に其の中心來らんか、濕熱低壓

*又は西風若くは南西風

日本海流灣流は、颶風の過ぐる所となる。小笠原より支那に向ふべき旋風あり



颶風の風眼

の度益甚しく、風暫く止みて、時に天光を望むべし。之に次いで少雨を伴へる戻風、即ち北西風吹きし後、天候、こゝに漸く恢復す。

日本に襲來する旋風には、西比利亞又は支那に起る温帶旋風あれども、二百十日頃即ち熟米季節に、マリアナ諸島又は比律賓諸島の附近に起り、其の中心、初めは北西し、更に北東折して、九州・四國・本州・北海道本島を過ぐるもの、概ね強烈なり。颶風と稱するは、概ね之を云ふなり。

第四節 大氣中の水分

湿度 湿度とは、空氣の水蒸氣を含有する多寡を云ひ、概ね氣温の高低につれて増減す。これを計るに湿度計あり。空氣の水蒸氣

湿度計は養蠶室の要品なり

飽和點は一に露點ともいふ

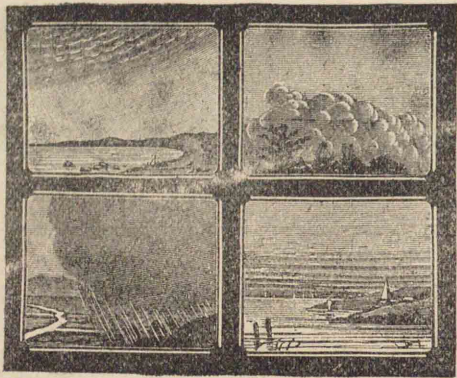
霧の濃きを北海道等にてはガスと云ひ、淡きを霞と云ふ

今茲に二十度にて飽和せる空氣ありとせよ、一立方米中には一七、一二瓦の水蒸氣を含有すべし之を十度に

を含有する極度、即ち飽和點に達するは、氣温によりて相異なるものとす。

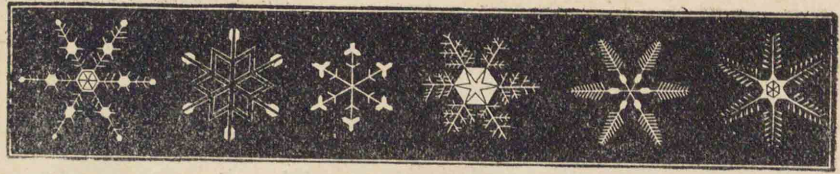
雨雪類

空氣の靜穩なる夜間、放熱の度高き草木等に、空氣中の水蒸氣接觸すれば、こゝに凝縮して細微の水滴即ち露を生ず。此の結露する溫度を露點と云ふ。若し右の場合に、溫度の低落が氷點以下ならば、露とならずして霜を生ず。細微なる水滴、地上に近き空氣中に浮游するは、即ち霧と稱せられ、高處にあるは雲と呼ぶ。雲は、形狀に依りて、卷雲、層雲、積雲、雨雲等に分る。但し卷雲は、細微の氷片たるもの、如し。雨は、水蒸氣の凝結、饒多にして、水球の結合したるものを云ひ、其の凝結の主なる原因は左の如し。



雲雨は下左雲卷は上左雲層は下右雲積は上右

冷却する時は九、三三瓦を飽和し得るに過ぎずされば此の場合に於て七、七九瓦は雨となりて排泄せられざるべからず是れ可なり的大量なり



雪の形状

④、空氣が、輻射によりて放熱冷却する場合。⑤、上昇して壓力急減し、其の結果膨脹して冷却する場合。⑥、空氣が、寒冷なる他の物體に接觸する場合。⑦、高温なる空氣が、低温なる空氣に混ぜし場合。

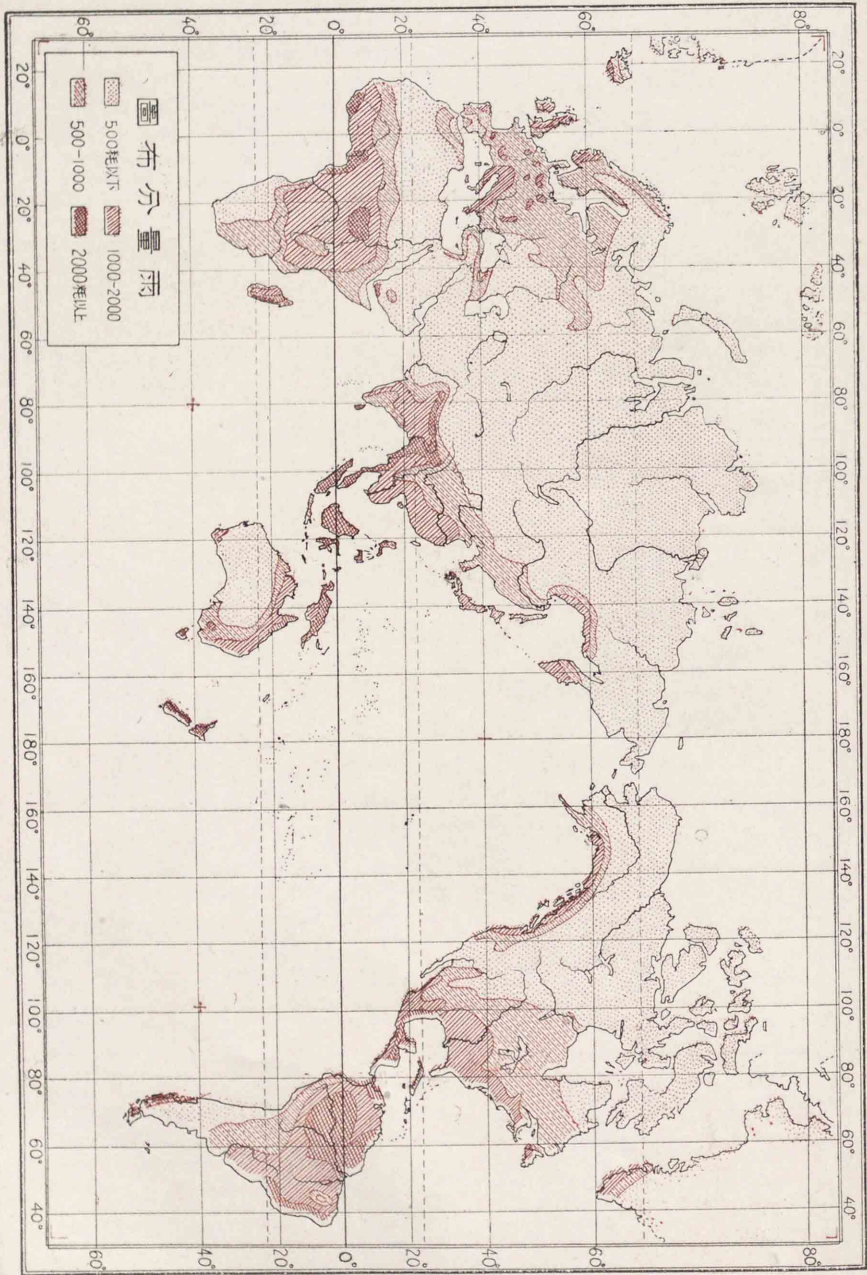
温度の氷點以下なる時、水蒸氣が徐々に凝結せば、雨たらずして雪をなす。其の雪が温暖なる氣層を通じて降下せば、半ば融けて霰スノボとなる。霰は、急に水蒸氣の氷結して、白色不透明の小球をなせるもの。霰は、概ね夏季の雷雨に伴ふ氷塊なり。

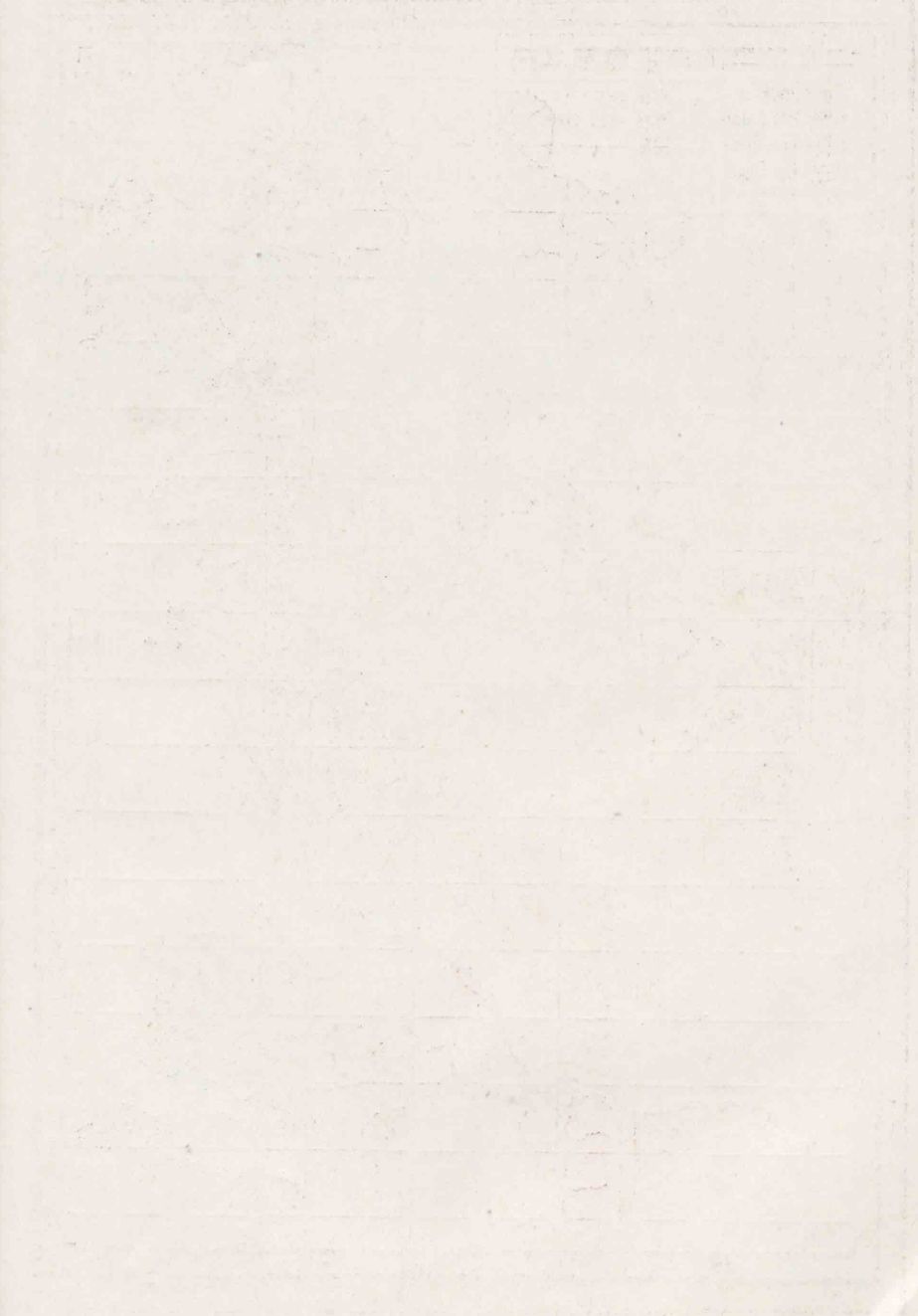
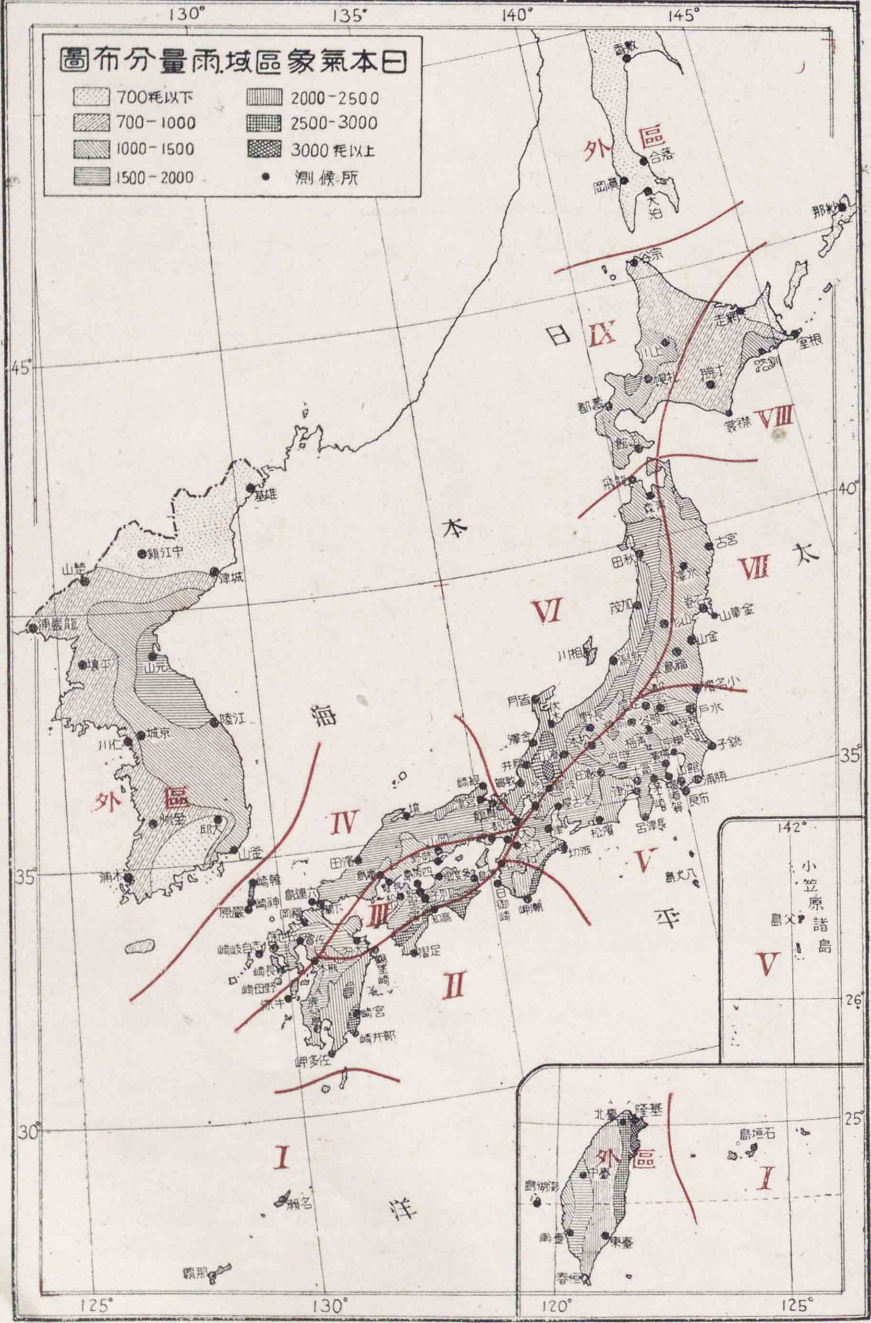
雨量 降下する雨・雪類

の總量を、雨量又は降水量といひ、雨量計を以て其の多寡を計る。印度のアサ



雨量計





ム地方にては、年雨量十二米に達するも、サハラ・アラビア・ゴビ等は、降雨稀にして沙漠を形成す。雨量の多寡は、海陸の排列、低気壓の通過、気温、風向、海流、山脈、森林等の状態に基づき、其の地の産業に影響す。

日本の雨量

我が國は、六月・九月の頃を始め、一般に雨量多くして、農産物等の發育を助け、河湖を養ひ、井水を豊ならしむ。近畿以南の太平洋岸、濃飛高地以北等は殊に多く、樺太、朝鮮、北海道、本島の北部、奥羽の東半、瀬戸内海地方は特に少なし。夏季は表日本に、冬季は裏日本に雨量多し。

梅雨

我が國の初夏には、奥羽以南(除き)の地に、梅雨と稱する雨季あり。其の頃、支那揚子江の中流地方に續起する局部的低気壓は、徐々として略東進し、多くは東支那海、北部琉球、九州南部、四國、東海道を通過するものとす。

梅雨は高氣壓の位置にも關係するものなり
梅雨の期は六月十一日頃より約一ヶ月間にして農家の插秧に大切なり

中央氣象臺は各地測候所より電報にて報告し來る毎時又は晝夜六回の觀測に基き毎日天氣圖を刊行し又毎日午前九時と午後四時とに天氣豫報を發す

外と九氣象區とに分れ、全國各地に百有餘の測候所を設く。中央氣象臺は、隣邦及び日本の各測候所より、氣象に關する電報を集め、それによりて天氣圖を作成し、以て各地の天氣を豫知す。若し暴風襲來の虞ある地方あらば、忽ち警報を發するものとす。

氣候

長期間、一地方の天氣を觀測して、それを平均したるものを、其の地の氣候。又は風土Climatといふ。氣候は、各地同一ならず、即ち氣溫高くして、概ね乾濕の二季のみに別る、熱帶Tropical Zoneあり、溫度中和にして、寒溫熱冷の四季を見、雨量の適度なる溫帶Temperate Zoneあり、氣溫低くして、雨量の少なき寒帶Polar Zoneあり。

寒暑の差の甚だしきを大陸的氣候、然らざるを海洋的氣候と稱す。而して我が國の大部は、殆ど海洋を繞らせるが故に、海洋的なるが如きも、亦多少大陸的氣候を帶べり。

して、其の周邊を旋轉するものを衛星Satellitesといひ、彼の月Moon太陰は、其の一なり。

第二章 太陽系

太陽系の組織

太陽系とは、太陽を主星とし、中心とする遊星衛星、彗星Comet流星の集團を總稱す。今太陽に近きものより遊星を擧ぐれば、水星金星地球火星小遊星(九百)木星土星天王星海王星あり。而して太陽は、これ等の諸遊星を集めたるよりも巨大にして、其の光輝赫々として壯觀を極め、常に低溫なる空間に放熱し、且つ各遊星に光と熱とを供給して、實に太陽系の主人公たる實あり。其の黒點の移動によりて、二十五日四分一間に、西より東に一自轉するを知るべし。

彗星 想ふに彗星は、太陽系以外より來りしものなるべく、現に拋物線若くは双曲線の軌道を有する彗星は、一たび太陽系を去らんか、復た再び來るこ

衛星の數
地球 1
火星 2
木星 4
土星 14
天王星 1
海王星 1
彗星 約 1000
流星 約 1000000
小遊星 約 1000000
太陽系に最も近き恒星は此の七千五百倍の處にあり宇宙の宏大無邊なること推して知るべし

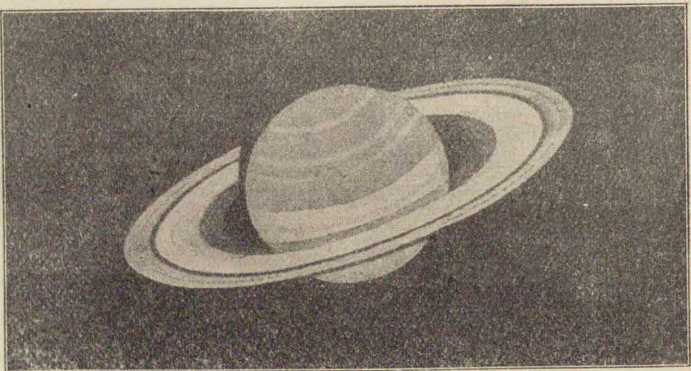
となし、橢圓的軌道を有する十九箇の周期的彗星は、今や太陽系のものとな

れり。彗星は、外形によりて彗星(西洋人)と呼ばれ、頭と尾とを有し、頭に核と蓋氣圍氣との二部あり。

流星隕星 他の天體の小破片が、空中に來りて摩擦し、以て光熱を發するものなり。多くは中途にて熱散すれども、時に地面に落下することあり。之に隕石隕鐵の二種あり。

太陽系の成因

カント(獨)ラプラス(佛)等の星雲説によれば、もと宇宙間には、非常に高熱を有する瓦斯體の星雲ありて、西より東に向つて自轉しつゝ、ありしが、冷却收縮するに従ひて、其の中央は太陽となり、一部は、遠心力の結果



土星

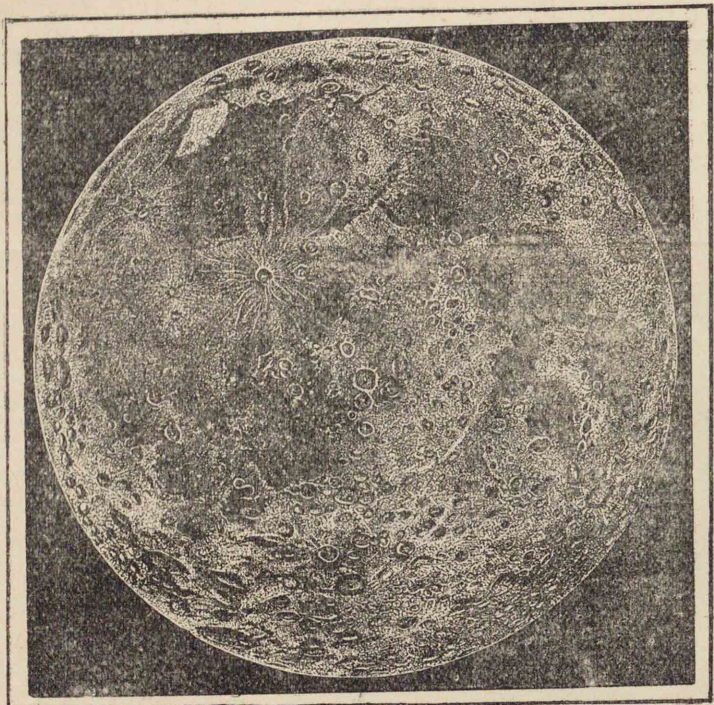
として環状をなし、其の環は、更に凝縮して遊星となり、遊星の多くは冷却の際、自轉の爲に環を生じ、此の環は、一點若くは數點に凝縮して、終に衛星となりたりと。
現今宇宙間には、星雲存在するのみならず、太陽系中の土星には、今尚ほ數條の環ありて、星雲説の正確なることを立證する一論據とせらる。

第三章 月(太陰)

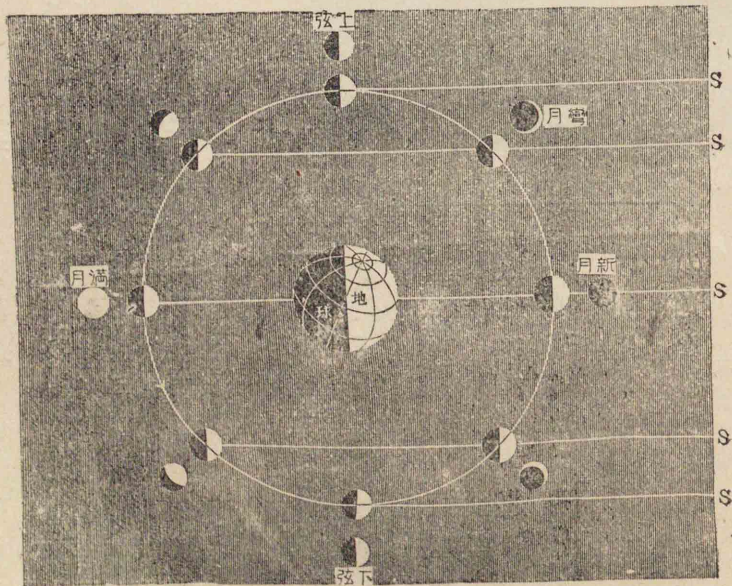
月の實體と運動

月と地球との平均距離は約九萬八千里
月は地球の約四十九分の一の大きさ、十三分三の直徑を有す
恒星月は某恒星を再び見る間にして廿七日七時四十三分十一秒半
太陰月は廿九日十二時四十四分三秒

月は、比較的比較的小小天體なれども、地球に最も近きが故に、其の形、大きく見ゆ。大小無數の死火山ありて、表面の高低凸凹、實に名狀し難く、空氣なく、水分なく、又生物もなし。月は、一恆星月間に一自轉をなし、且つ西より東に向ひて、地球の周圍を一公轉す。されども地球及び太陽に對する相互的位置より、再び元の位置に復歸するには、一太陰月(交周月)を要す。即ち一恆星月より二日餘



月



月の盈虚

新月は地球より見て月が太陽と同方向に位する時に生じ所謂闇夜の場合にして満月は月が太陽と反対の方向に位する場合なり

長し。是れ他なし、一公轉をなしつゝ、地球と共に前進すればなり。月は、太陽の光を受けて反射し、地球に對する位置の關係上、地球上より見れば、新月(朔月)・三日月(彎月)・上弦滿月(望月)・下弦等の盈虚あるなり。而して月の一自轉と一公轉とは、時日を同じうするが故に、吾人は常に月の背面を見ることなし。

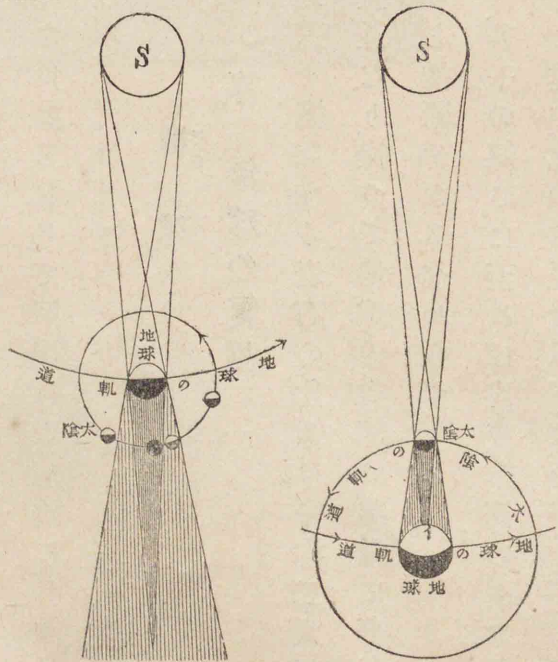


日蝕の時 景實の

日蝕月蝕 月が運行中、地球と太陽との間に來る時は、太陽之に掩はれて日蝕を起す。又地球が、月と太陽との間に來る時は、太陽の光を遮り、其の影を月面に投ぜしめて、所

謂月蝕を起す。蝕には、皆既蝕、部分蝕の二種あり。日蝕中の金環蝕は、部分蝕の一種なり。
Lunar eclipse
Eclipse
Total eclipse
Partial eclipse
Annular eclipse

日蝕月蝕は、太陽・地球・月の三天體が、一直線上にあるか、又は略之に近き排列をなす時に起るものなれば、地球月の兩軌道が同一の平面上に在るものとせば、



蝕月

蝕日



(合場る來に上線直一の體天三)節

日蝕は十八年間に凡そ四十回、月蝕は凡そ廿九回なり

* 大部分が鐵なりとの説あり

* 温帯地方にては地下二十米の處にあるを常とす
* 常温層以下の増温率は下るに従ひて遞減すると稱するものあり

新月毎に日蝕、満月毎に月蝕の起ること必然なれども、實際兩者の軌道は、五度餘りの角度をなして相交れるが故に、日蝕、月蝕は稀に起ることあるのみ。

第四章 地球

第一節 地球の實體

地球の比重

地殻を構成する岩石の比重は、平均二・八なるに、地球全體の比重は五・五なり。従つて地球の内部は、非常に密度の大なる物質より成れりと推斷せざるべからず。

地熱

地球は、若干の深さに至れば、晝夜季節の別なく、終年、温度不變なる常温層に達す。此の常温層以下は、百尺を下る毎に、約攝氏一度を増加す。故に地下二十萬尺(十五里餘)の處に到らば、攝氏二千度に達して、普通の岩石は、熔解するもの、如し。此の地熱の存在は、温泉の湧出、又は噴火口より出づる熔岩等、之を證して餘りあり。

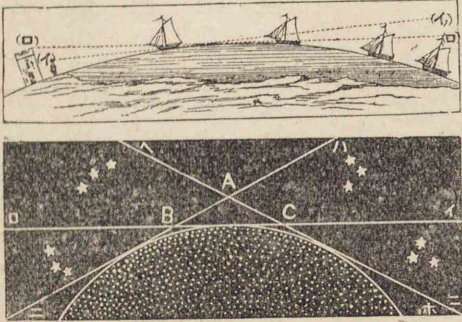
地球内部の状態

地熱の爲、地球の内部は、氣體又は液體たるが如きも、地殻の壓力の大なるより考察すれば、恐らくは固體の状態を呈するならん。されど一旦、地殻の壓力緩むことあらんか、地球内部の物質は、忽ち氣體又は液體となりて、地表に迸出すべし。

地球の形状

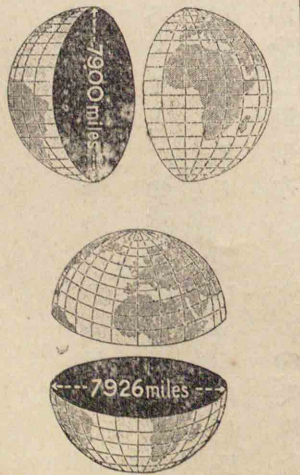
地球は、昔より平かなるものと思ひ來りしも、次の事實によりて、其の球體たることを證すべし。されど眞の球體にあらずして、赤道の部分稍膨大し、兩極に扁平なる橢圓體をなせり。

赤道直徑は三、七六二哩
(三、七六二哩)
兩極直徑は三、七三七哩
(三、七三七哩)
地球表面積三、〇〇〇萬方里周圍一、〇〇〇里
地球の赤道も亦一の橢圓をなし其の長軸の一端は西經八度十五分の子午線に當る
地表水陸の分布は不知則にして陸の高さと海の深さと一定せず又水面と陸に近き處はそれの引力の爲隆起す斯の如く地球の不規則なる形状を稱して「ジオイド」といふ



地球の形状の明證

而して其の扁平の度は、僅に赤道直徑の約三百

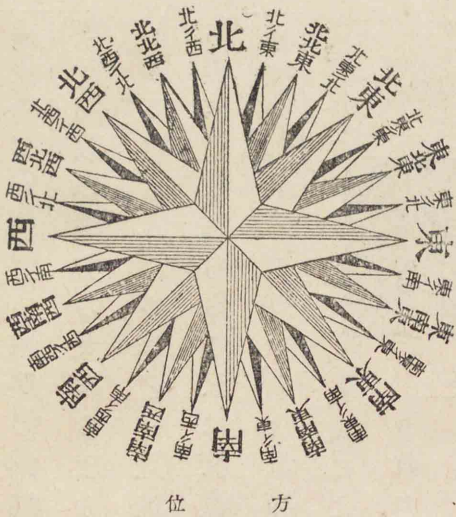


地球の短直徑と長直徑

分の一に過ぎず。

①山頂が、低地よりも先に日光を受くること。②出港船の船腹が、先に地平線下に没し、入港船の橋頭が、最先に現はること。③東西の位置によりて、日出時・日没時の異なること。④南方又は北方に至るに従ひて、新に星辰の現はること。⑤月蝕の時、地球の陰影が常に圓形なること。⑥世界を周

十二支を配したる十二方位は古來一



航し得ること。⑦障害物なくば、地平面の圓周的なること。⑧吾人の觀察點の高低につれて、地平面に大小を來たすこと。

第二節 地表の位置

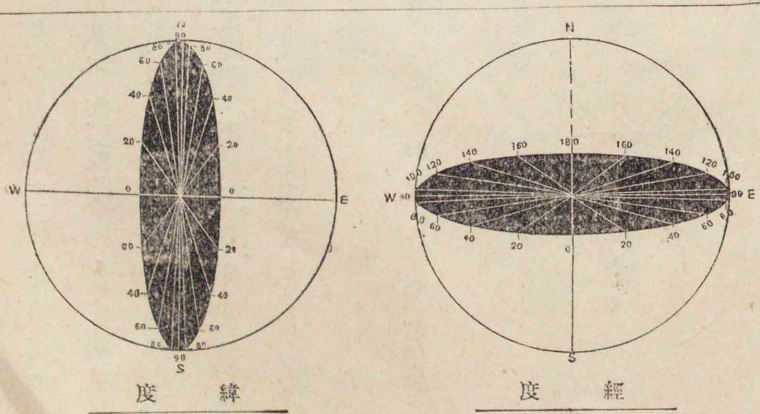
方位 *Cardinal points* 方位は、經度・緯度と共に、地表の上に於ける位置を示すものにして、東西南北の四方位を基

般に用ひられ北を子東を卯南を午西を酉とし其の間に丑・寅・辰・巳・未・申・戌・亥を當て又中間方位に丑寅(北東)辰巳(南東)未申(南西)戌亥(北西)等の稱呼あり

南北兩回歸線間を熱帶、回歸線と極圈との間を溫帶、極圈と極との間を寒帶といふ

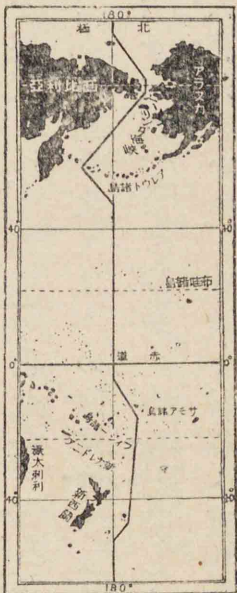
礎とし、更に八方位十六方位三十二方位等に細分す。而して北方を定むるには、北極星或は磁針によるを便とす。北極星は、略地球の北極の方向に當る一恆星にして、大熊星(北斗)の位置によりて、容易に之を見出し得べし。

經度・緯度 *Longitude Latitude* 赤道に並行せる圓線を緯線と云ふ。こは赤道を北又は南に距る位置を示し、北緯・南緯の二種ありて、各九十度を限度とす。赤道の南北各二十三度半なる緯線を、北又は南の回歸線と云ひ、各六十六度半なる緯線を南極圈若しくは北極圈といふ。經線は、緯線と直角に交はり、英國グリニチ天文臺を通過する本



*各地に時差ありて不便なる爲に設けらるる今一月一日に之を東過するものは今一度一月一日に逢ひ西過するものは直に一月二日となる

*或る經線上に或る天體の再び來るを南中と云ふ
*春分秋分の時は最も簡易に知り得



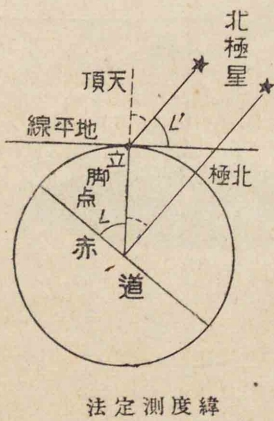
線更變附日

初子午線を、東又は西に距る位置を示し、東經・西經の二種ありて、各百八十度を限度とす。而して此の百八十度線は、略東西交通者の日附變更線に當り、之を東過するものは、

經度・緯度の測定

地球は、二十四時間に一自轉をなすが故に、經度十五度を距る兩地は、正に一時間の時差あり。乃ち此の時差は、以て經度を測るに用ふべし。

北半球に於ける緯度の測定は、北極星の地平線上に於ける高度によるを常とす、即ち某地に於ける北極星の高度は、殆ど其の地の緯度と看做すべし。また南中時の太陽の高度を測り、其の餘角を以て、其の地の緯



べし即ち太陽が赤道にあればなり

歐洲には本初子午線による西部標準時(英佛西等)東經十五度による中部標準時(獨瑞瑞伊等)東經三十度による東部標準時あり印度には東經八十度による標準時米國には西經七十五度九十度百五度百二十度による四個の標準時あり地球磁石の北極は北極洋の一點即ち加奈陀の北部アシア半島(北緯七十度三十分西經九十七度四十分)に位し其の南極は南極洲ピクトリアラント(南緯七十三度三十九分東經百四十六度十分)にあり

度となすべし。

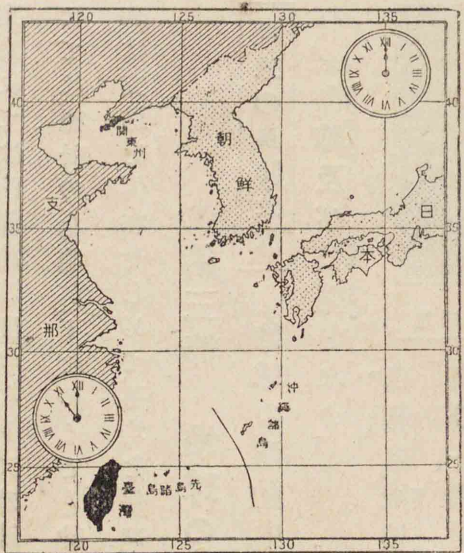
標準時

Standard time

地方時

Local time

地方時は、經度の異なるに従ひて、各地相同じからざるが故に、交通頻繁なる現時にありては、不便なる場合多し。故に一定の



時準標の箇二の本日

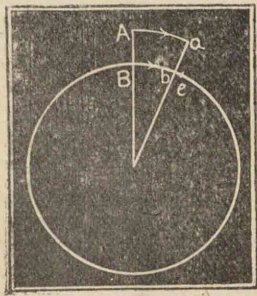
地方時を以て、一國の標準時とするを常となす。我が國には、二個の標準時あり。一は、東經百三十五度の地方時によるものにして、之を中央標準時と稱し、朝鮮及び沖繩諸島以東之を用ふ。一は、東經百二十度の地方時によるものにして、之を西部標準時と稱し、先島諸島以西、關東州・南滿洲鐵道沿線は之を用ふ。此の二者の時差は、正に一時間なり。

地磁氣 Terrrestrial Magnetism 地球は、一箇の大磁石にして、其の磁石の兩極は、地球の兩極と一致せず。随つて磁針の方向と、眞の子午線の方向とは、概ね方位角をなし、我が東京にては、西偏約四度半なり。又磁針は、概ね水平面と傾角(伏角)をなし、東京にては、磁針の北端が、下に傾くこと約五十度なり。是れ磁針の一端を重くし、又は支點を偏在せしめて、平均を保たしむる所以なり。

第三節 地球の運動

地球の自轉公轉 地球の運動中にて、最も著しきもの二つあり。これを自轉及び公轉となす。

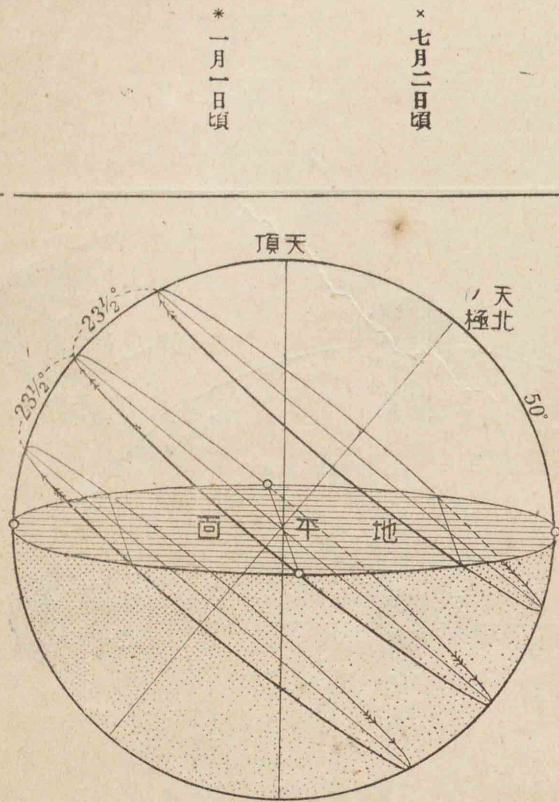
自轉は、地軸を軸として、一日間に、西より東に向ひ一廻轉する運動にして、太陽に向ふ面と否らざる面とに依り、晝夜の別を生ず。吾人は、地球と共に廻轉するを以て、却つて他の天體が、東より西に移動するが如く認めらる。さ



地球自轉の證一

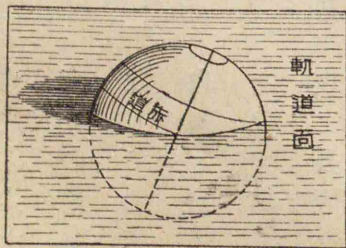
*フーコー氏の振子の實驗、貿易風が北東(南半球にては南東)より來り地球が兩極に扁平なる等何れも地球の自轉を證す

れど高處より墜下する物體の東偏する等によりて、地球の西より東に自轉するを證すべし。公轉とは、一年間に太陽の周圍を一廻轉する運動を云ふ。其の軌道は、圓心率の輕微なる橢圓周にして、太陽は、其の焦點の一に居るが故に、地球太陽間の距離は不同なり。距離の最も遠き處を遠日點、最も近き處を近日點と稱す。



太陽の位置の圖

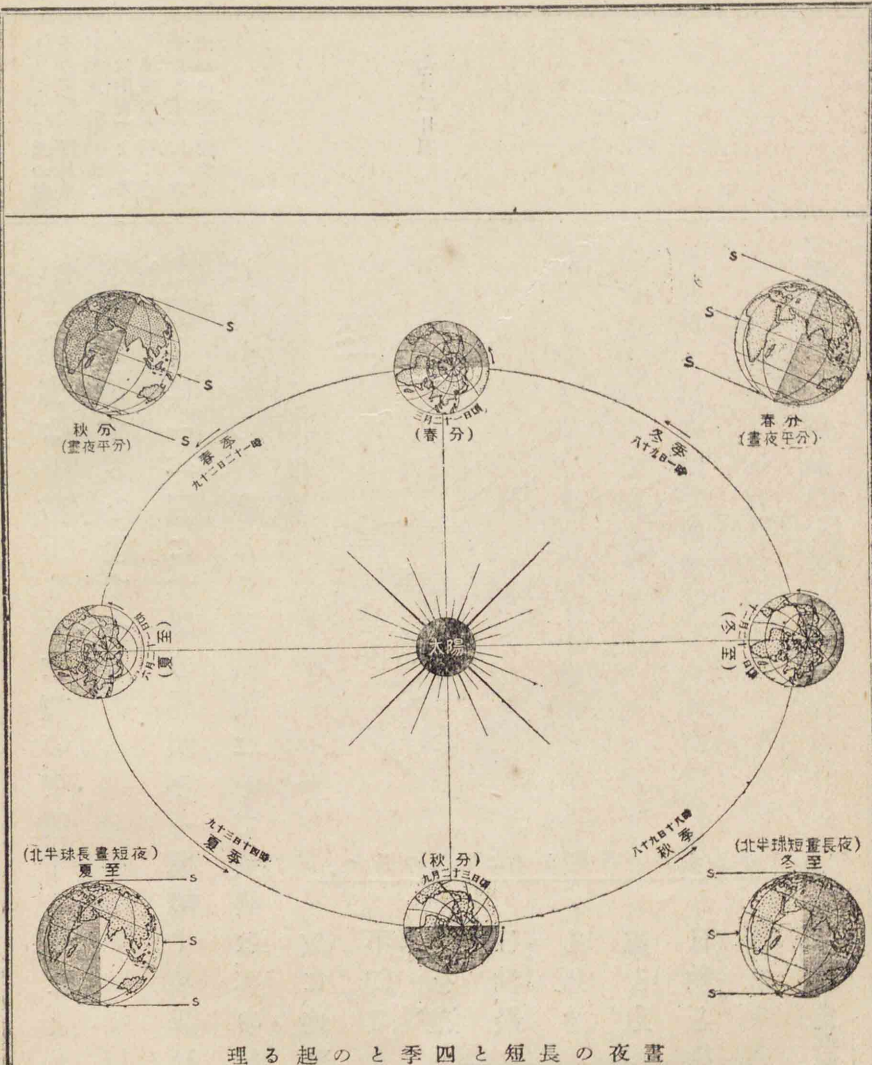
遠日點 Apelion
近日點 Perihelion
稱す。



軌道面と地軸との關係

四季と晝夜の長短

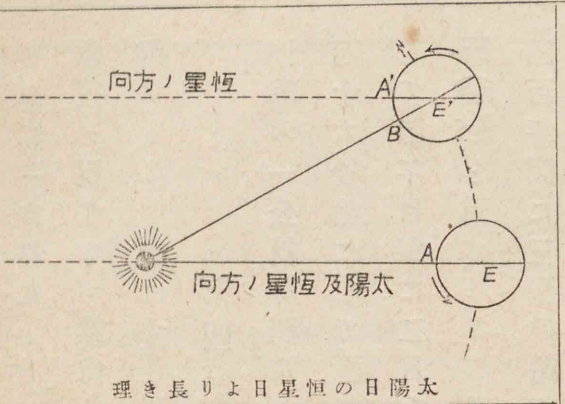
地軸が軌



理る起のと季四と短長の夜晝

道面に直立せ
ず、之と六十六
度半の角度を
なして、地球が
自轉と公轉と
をなす結果、晝
夜に長短を起
し、又四季の變
化を來すもの
とす。即ち地球
が、春分 (三月
廿一日) 頃、
秋分 (九月廿
三日) 頃、
Autumnal equinox
の
二點にある時

眞の太陽日の最も
長きは二十四時間
三十秒にして最も
短きは二十三時五
十九分三十九秒な
り



理き長りよ日星恆の日陽太

は、地球上の到る處晝夜平分なれども、夏至 (六月頃) には、太陽北回歸
線を直射して、北半球は、長晝短夜となり、殊に北極圏内にては、此の
前後に數月に亘る晝あり。而して冬至 (十二月頃) には、夏至と全く反
對の現象を見るものとす。

恒星日・太陽日

地球の一自轉に要する時
間、即ち一恒星の南中より、次ぎの南中まで
の時間 (二十六分四秒五) を恒星日といひ、太陽の南
中より次ぎの南中までの時間を、眞の太陽
日といふ。然るに地球の運行の速度は、軌道
上の位置によりて相異なるが故に、眞の太
陽日に長短を來す。日常用ふる二十四時間
の一日は、一年間の眞の太陽日を平均した
るもの、即ち平均太陽日たるなり。

我が國にては明治五年十一月九日太陽の盈虚を本として編せる太陽曆を廢し其の年十二月三日を六年一月一日として太陽曆を採用せり

* 神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ベキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減ジ百ヲ以テ整除シ得ベキモノノ中更ニ四ヲ以テ其ノ商ヲ整除シ得ザル年ハ平年トス

地球は、一自轉によりて、一定の恒星に復歸すれども、常に公轉して位置を變ずるが爲、尙ほ若干の自轉をなすにあらざれば、太陽に復歸すること能はず。是れ太陽日が、恒星日よりも稍、長き所以なり。

第四節 曆

Oleander

地球の一公轉時間、即ち眞の一年は、三百六十五日と五時四十八分四十六秒餘にして、曆年は、其の日以下の端數を省きしものなり。而して四年目毎に、二月を二十九日とする閏年を置き、之をユリウス曆Julius Calendarと稱す。されど右の端數の四倍は、一日に満たざるが故に、

四百年間に、三回の閏年を省く。之をグレゴリウス曆Gregorius Calendarといふ。

我が國に於ては、先年（明治三十一年五月十一日告示）勅令によりて、平年閏年たる年を規定せられたり。

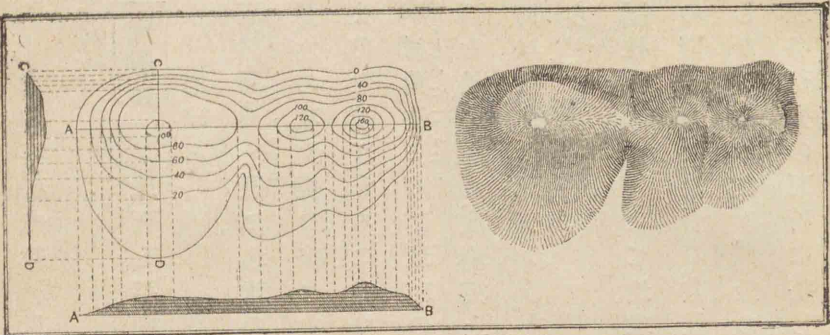
第五節 地圖

Map

地圖の便益

地球儀は、地球を相似的に現す長所あれども、實用上、種々の

水準面は海水の平均潮位を以て之を定む。東京灣口の三崎、鹿半島の鮎川、陸奥の西部能登及び島根兩半島、紀伊南部等にて測りたる潮位の平均を基準とす。



水準曲線

（羽毛）淺草

不便あるが故に、地圖を以て地表を描くに至れり。されど球面は、到底平面に展開し得べからざるが故に、全圖たると部分圖たるとを問はず、地圖は、理論上正確ならざるも、實際上には、大なる便益あり。

地圖の形式

地圖を描くは、主要地點を、其の經緯度に據りて圖上に移記し、實測又は見取に基づき、一定の縮尺圖式に依りて、海岸山河湖沼等を表示し、之に彩色を施したる上、記載を了へて完成す。而して土地の高さを現すには、通常、水準面を基準とし、それより凸出せる高さの等しき點を連結したる曲線を作り、之を或る縮尺を以て紙上に移寫す。是れ即ち水平曲線にして、其の密接せると否とにより、傾斜の急激、緩慢を知る。然るに量滂式コンチにては、各異なる傾斜面上を照

らす處の平行光線を思考し、之を量滯に應用し、以て土地の變化を顯はすものとす。

描圖法 球面を平面に描くには、種々の方法あり。今其の最も普通なるものを擧げん。

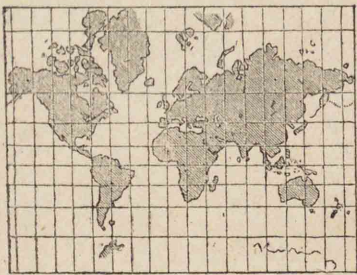
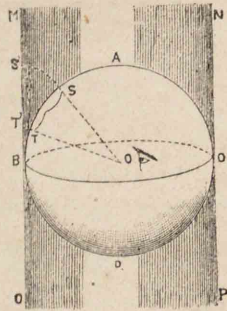
直射圖法 假に地球の中心を通じて玻璃板を置き、無窮の地點より地球を見、右の玻璃板に映じたる形を描くものと看做す方法なり。此の圖法は、中央部を遠ざかるに従ひ、漸次縮小して、誤差益々大なり。

平射圖法 假に地球の中心を通じて玻璃板を置き、地表の一點より、他の表面を透視して、玻璃板上に映じたる圖を描くものと看做す方法なり。此の圖は、縁邊の部分より、中央部に近づくに従ひて漸次縮小するも、誤差甚しからず。

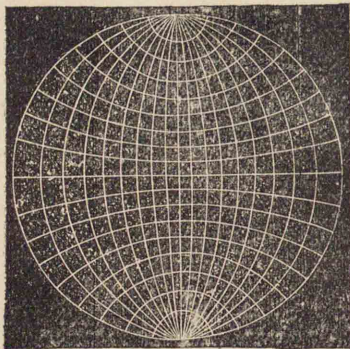
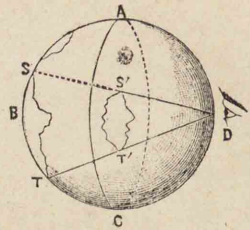
圓柱圖法 紙にて地球を巻き、圓筒形を作り、目を地球の中心に置き、地表の圓筒上に映ずる有様を寫し、一の子午線に沿ひて圓筒紙を切り、之を開展したるものなり。此の圖法中、最も多く用ひらるゝ、メルカトル圖法は、地表各部分の面積に甚しき差等あるを缺點とすれども、圖上に於ける方位、到

らず。

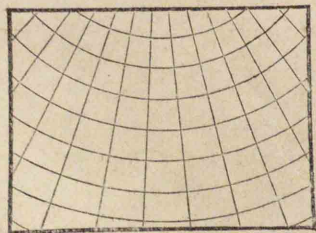
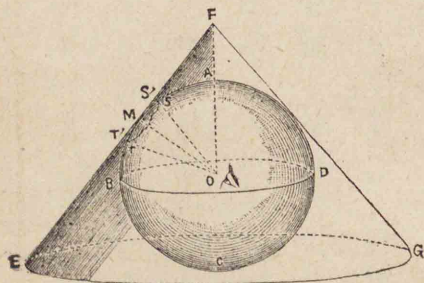
假に地球の中心を通じて玻璃板を置き、地表の一點より、他の表面を透視して、玻璃板上に映じたる圖を描くものと看做す方法なり。此の圖は、縁邊の部分より、中央部に近づくに従ひて漸次縮小するも、誤差甚しからず。



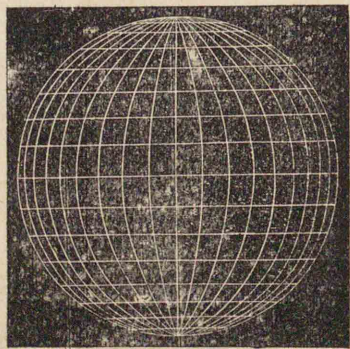
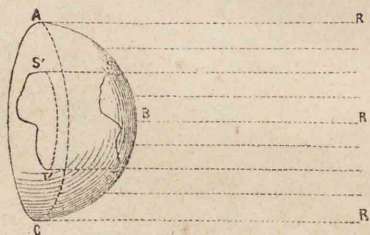
法圖柱圓



法圖射平



法圖錐圓



法圖射直

Mercator's Projection

る處同一なるが故に、航海者の使用に適し、又全地表を一面に表はし得るの利あり。

圓錐圖法 Conical Projection 前圖法と異なるは、地球を巻く紙の圓錐形たるにあり。此の圖法は、地球全面を示すに便ならざるも、一地方を、最も真に近く表示するの利あり。

結論 自然地理學習の趣味

仰げば、山嶽巍然として峙ち、星辰燦然としてきらめけり。伏せば、廣野茫茫として亙り、河海、洋々として湛へり。自然界の多様なる、何ぞ一に斯くの如きぞ。噴出物爆發し、地盤震盪するが如き、颱風襲來し、寒暑晴曇交、至るが如き、自然界の多様なる、何ぞ一に斯くの如きぞ。吾等人類は、此の千態萬様なる自然の懷に靈命を保ちて、或は自然に愛せられ、或は自然に苦しめられ、時に或は自然を制す。自然の解釋、いかでか忽にすべけんや。

世界の絶東に、宇内絶美の我が帝國あり。白扇倒に懸るは芙蓉峰にして、鏡面清く拭はれたるが如きは琵琶湖にあらずや。群峯の奔流を挟みて竦てるは、是れ耶馬溪にして、月白く砂も白く海白しとは、是れ即ち須磨の浦にあらずや。三景遠く離れて人を招き、八景近く接して客を誘へり。斯かる佳境樂園は、抑も如何なる妙技によりて成りしぞや。祖國自然美の科學的解剖の努力、いかでか徒事なるべき。

想うて爰に至れば、自然地理の學習が、寔に趣味津津たること、誰れか之を疑ふ者あらん。而して吾等日本國民は、特に之を學習すべき必要あること、亦誰れか之を疑ふ者あらん。

下卷 人文地理

第一編 人類

第一章 自然と人類

Nature

Mankind

總説

「不能の文字は、愚人の辭書にあるのみ、何ぞ我れを防ぐべきアルプ^{Alps}あらんや」とは、英雄ナポレオン^{Napoleon}が、世界稀有の天嶮を越えて、遂に北伊太利に進軍したる時の壯語なり。嗚呼此の壯語、此の進軍は、一面に自然の人類を制するを語り、又一面には、人類の自然を御し得るを語るものにあらずや。

自然とは、天空に燦然たる星辰を始め、土地・海洋・氣候及び生物等を云ひ、絶えず吾々人類に接觸す。而して吾人々類中、其の苛酷的自然に對して、畏縮する者は衰へ、奮闘する者は榮ゆると同時に、其の慈

愛的自然に對して、狎れ甘んずる者は衰へ、利用する者は榮ゆ。要するに個人又は社會若くは國家の盛衰消長は、主として自然と奮闘するや否や、自然を利用するや否やに因つて定まるものとす。

星辰と人類

抑も星辰は、天又は宇宙の觀念と共に、古來、人心を左右せしこと絶大なり。今も星辰を仰ぎて畏敬の念を起さざるなきは、星辰を國旗に配すること、我が國のみに止まらざるに徴しても、自ら明かなることにあらずや。

土地と人類

吾人は、其の欲望を満たすべき貨財、即ち衣食住の物質を生産する爲に、資本勞力の外に、必ず土地あることを要す。而して土地が、其の地形の如何によりて、文明を左右することの著しきは、既に水平的地形、垂直的地形に於て記述したり。

海洋と人類

海洋は、幼稚なる人類に對して、畏縮と嫌忌とを與ふれども、亦吾人に影響多き氣温、雨量を左右し、水産業、海運業の舞臺となり、沿岸の民をして海國民たらしめ、以て文運を發展せしむ。獨逸皇帝、嘗て國民を誡めて曰く、「獨逸の將來は海にあり」と。然り世界に覇を稱へんとするものは、必ず先づ海を制せざるべからず。

氣候と人類

Climate

高溫多雨なる熱帯は、氣候上倦怠を致し、物資の豊富上安逸に陥り易

日本自領公果米國智利亞爾然丁伯兒等の國旗には星辰を配せり
山地は大國の併合を免かれて小國を建つるに適す又劣敗者の逃避所となりてカフカズ山地の如き數多の民族を納れて國語山脈の稱あるに至れり
「1900年巴里の世界博覽會の獨逸工藝館の門額にカイゼルの書せしもの
×氣温高き爲勞動より起る體温を發散

すること能はざるによる

し。極寒少雨なる寒帯は、衣食住の物資を得ること難く、又四境の寂寞になやまん、而して温帯は、産物の豊富、固より熱帯に及ばざるも、勉めて止まずんば、之に應ずる物資を得べく、其の氣温亦勉むるに適す。是れ温帯に、産業榮え、文化發達し、強國多き所以なり。

南歐人の輕快にして、北歐人の莊重なるが如き、我が裏日本と表日本との住民が、多少性格慣習等を異にするが如き、北日本に馬鈴薯、南日本に甘藷の作付行はるゝが如き、何れも氣候の人類を制するを證すべし。しかも人類は、靈妙なる知識を備へて、自然を制し得るが故に、極寒の地にも、又極暑の處にも、普く分布せり。

生物と人類

吾人の欲望の大部は、有用の生物を得て満足するものとす。是れ吾人が、有用生物の繁殖を圖り、又は生物の豊富なる地を擇びて住居する所以なり。

第二章 住民

人口

Population

人類は、自然の障害に抗して、地球上の到る處に住み、其の數約十六億八千萬、亞細亞に最も多く、歐羅巴、阿弗利加、北米、南米、大洋洲、順次之に次ぐ。世界人口の平均密度は、一方里約百八十人にして、歐羅巴は其の四倍、亞細亞は其の一倍半を占め、其の他の四洲

亞細亞	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
歐羅巴	四、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
阿弗利加	一、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇
北米	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
南米	〇、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
大洋洲	〇、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

歐洲諸國の人口増加率は退歩の傾向ありしが殊に大戰によりて然らんとす

は、何れも平均數に達せず、大洋洲特に然り。人口の疎密は、土地の位置、地勢、氣候及び産業の如何に關し、白蘭英獨伊、目を始め、ニール下流、瓜哇等は、最も稠密なり。一般に、溫帶は人口稠密にして、其の他は稀薄なり。又商工地は稠密にして、農牧、林漁の地は之に反す、殊に沙漠地帶、草野帶、セルバ、凍土帶等は、密度最も小なり。佛國以外の文明諸國は、何れも人口増加し、我が國の如き、年々數十萬を増加して、遠からず一億に達せんとす。我が國の人口は、約七千八百萬人(一方里の密千八百人)にして、内地のそれは五千八百萬、即ち一方里二千四百人に近し。

人種

人類は、もと一元たらんも、移動地の地勢、氣候、食物等によりて、各相異なるに至りしならん。今、容貌、骨節、頭髮、膚色、言語、風習などの近似點を尋ねて、亞細亞、歐羅巴、阿弗利加、亞米利加の四人種等となし、更に諸族に分つ。世界大戰の講和條約は、種族によりて建

×蒙古人種とも云ふ
亞細亞人種主要種
族 日本・漢・ツン
グー・蒙古・西藏
印度・支那・土
其・フィン・ギリア
一ケ等

×ユーラフリカ人種
種又は地中海人種
とも稱せらる
歐羅巴人種主要種
族 印度・アラブ・
アルメニア・埃及
希臘・ケルチ・スラ
ブ・ラチニ・チャー
トン等
▲アッカ・アッシマ
ン・ホッテントット・
パンツール等の諸族
あり



種人巴羅歐 種人亞細亞 種人加利米亞 種人加利弗阿 種人嶼島岸海

國すべき條理を認められたれども、亦民族の差別撤廢は、之を通過せしめざりき。

×亞細亞黃色人種は、總數約五億、概ね皮膚黃色を呈し、眞直漆黒の頭髮を多く有す。亞細亞の東半部を本據とし、歐羅巴の東部北部にも住めり。就中漢族は數千年前に開化して、東洋文明の一大淵源をなし、日本族は、歐羅巴人種に劣らざる文明と武力とを有す。

×歐羅巴白色人種は、總數九億餘、一般に皮膚白色、顔面狹長、隆鼻碧眼にして、頭髮波狀を呈す。南西亞細亞北阿弗利加歐羅巴を本據とし、印度南西亞細亞埃及希臘羅馬に、現時の歐洲文明の基礎を築き、今や世界の各地に移住して勢力を振ひ、今は、チャーントン・ラチニ・スラブの三族、殊に優勢なり。

▲阿弗利加黑色人種は、總數一億餘、皮膚黑色、頭髮鬚れ、唇厚く、鼻廣くして大なり。サハラ以南を本據とし、中に、世界の最小人類

アッカ族あり。兩米に移されし此の人種の子孫は、一千萬餘を算し開化せる者あり。

▲エスキモー(亞細亞人種とも稱せらる)・アレウト・墨西哥・パタゴニア・チエテルフ・エゴ等の諸族あり

▲米利加銅色人種は、總數一千五百萬計りにして、皮膚銅色を呈す。兩米を本據とし、墨西哥秘露に於ては、昔時文明の花を開きたり。多く白人と結婚し、雜種三千萬の多きに達せり。就中パタゴニア人は、世界の人類中最も大なり。

×濠洲・パプア・メラネシア・ポリネシア等の諸族

以上四人種の外には、南印度のドラビダ族、馬來半島、馬來群島等の馬來人種、大洋洲の諸土人あり。これ等を海岸島嶼人民と總稱し、總數約八千五百萬あり。

我が國民は、日本(大和)族、約七割五分を占めて、他の種族を同化しつつあり。朝鮮に朝鮮族、臺灣に漢族、臺灣蕃族多く、北海道樺太に少數のアイヌ族住み、尙ほ少數のギリアーク、オロクニ族、樺太にあり。臺灣蕃族は馬來人種、アイヌ族は歐羅巴人種に屬する者の如



族コッロオ 族クアーリギ 族マイア 族蕃臺灣 族漢 族鮮朝 族和大

く、其の他は、亞細亞人種に屬す。

言語を單音語・添加語・曲折語に大別す

言語

言語は、種族を表示すべき一標徴にして、其の種類、一千に餘るもの、如し。英吉利語は、英、米、英國屬地等に行はれて、最も廣く世界に普及し、特に世界の商業語たる感あり。佛蘭西語は、白瑞等にも行はれ、外交語又は文明國上流の社交語として、特に勢力あり。獨逸語は、墺瑞等にも行はれ、羅甸語の如く、學術語たる觀あり。西班牙語は、墨西哥以南の兩米(西兒)比律賓等にも行はる。主に本國のみに行はるゝも、使用者の多きものを、支那語、印度語、露西亞語、日本語、伊太利語とす。

一國家に、一國語のみ行はるゝは、國民の融合、國家の統治に便宜多し。是れ植民地に、國語教育の重んぜらるゝ所以なり。されど世界には、二種以上の國語を有する國家多く、これ等は、概ね其の統一に苦しみ、言語の多種を以て有名なりし舊墺地利の如き、遂に四分五裂

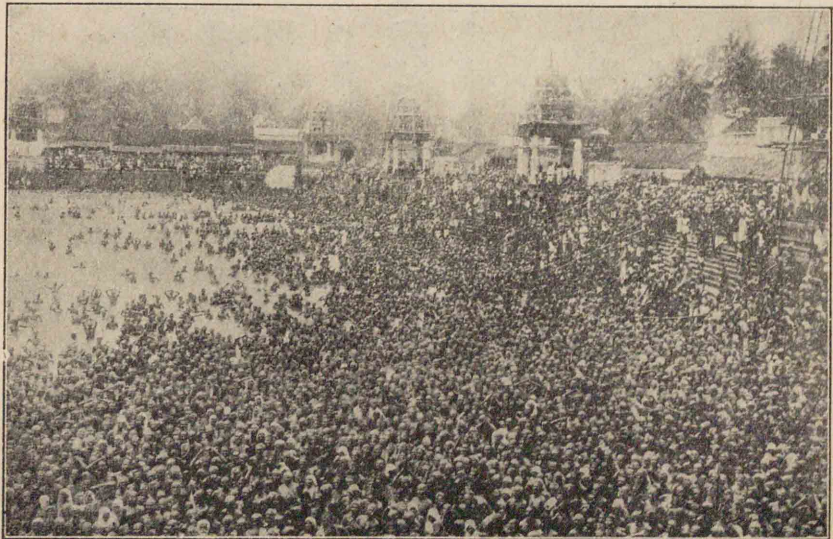
の止むなきに至れり。而して我が日本語は、内は日本族以外の他の種族にも廣まり、外は支那等にも漸次行はれんとす。

宗教

世界の主なる宗教

は、一神教に猶太・基督・回の三教、多神教に佛・印度教ありて、何れも亞細亞に起原し、佛・基督教・回教を、世界の三大宗教と稱す。我が國には、神道・佛・基督教行はる。其の神道は、我が固有の宗教にして、

支那には儒教・道教盛に行はる



徒教度印の詣參スレナベ

多神教の一なり。

猶太教は、世界に放浪せる猶太人に信奉せらる。基督教は、千九百餘年前、シリヤ(小亞細亞)の耶蘇基督の唱導せし者、今は、歐羅巴人種を始め、五億餘の民衆に奉ぜられて、普く世界に傳播し、舊教・新教・希臘教の三大派に分る。回教は、千三百年前、亞刺比亞のムハメドの開始したるもの、今は、馬來群島より、阿弗利加南東歐羅巴に至る間に行はれ、信徒數二億餘あり。馬來人種・土耳其族・アラブ族・阿弗利加人種等之を奉ず。佛教は、二千四百餘年前、印度の釋迦牟尼の唱導せしもの、今は、錫蘭・印度・支那・日本に行はれて、信徒數四億あり。印度教は、世界最古の大宗教たる婆羅門教の化したるものにして、印度族に信奉せらる。

教育

獨逸は、大學の數二十を超えて、教育を産業・軍事等に應用すること著し。米國は、其の學習程度低きも、公私大學の數、獨逸よりも多く、女子高等教育亦盛なり。其の他日・英・佛等の主要諸國皆教育の普及發達に努めざるはなし。蓋し教育は、國民の智・德體を向上せ

×教徒自らはイスラムと云ふ

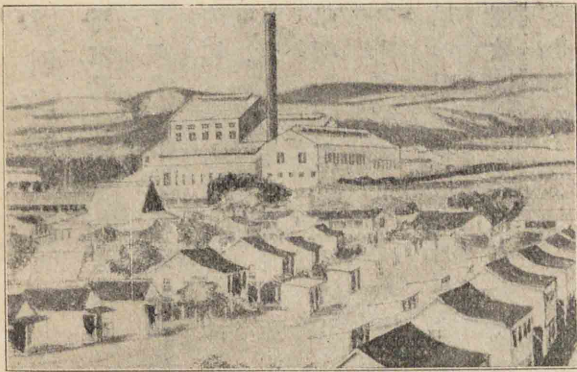
×支那の西部北部に其の一派なる喇嘛教行はる

しめて、國家の富強を招致すればなり。

我が國は、教育の普及發達著しく、今や歐米の文明國に比するも、殆ど遜色なきに至り、支那等よりの留學生を見るに至れり。

移民植民

人類は、人口過剰などに基づく生活難等に逼られて、祖



(ゆ見と殿社の敬崇と場工槽製)宅住人本日哇布在

先墳墓の地を辭し、他國又は自國領土に轉住す。是れ一は移民にして、一は植民なり。移民植民は、原住地にありし時よりも、勞役少なく勞銀多きを常とし、又人口の過剰を鹽梅し、原住地に送金し、原住地の通商航海を發達せしむる等の利益あれども、亦原住地の開發を殺ぎ、壯丁の從軍を妨ぐる缺點あり。

我が内地の移民は、其の數四十萬に達し、

英・佛は世界の二大植民國米は新進の植民國にして西・葡・蘭は漸く植民國たる資格を失はんとす

布哇、北米西岸、伯西兒等に多し。植民は、臺灣、北海道、朝鮮、樺太に於て漸く成功し、我が移民地とも植民地とも稱すべき南滿洲にも、移植日に月に多し。

村落都市

アリストテレス曰く、人類は、社會的動物なりと。然り吾

人は、共同生活をなすべき特性を有す。

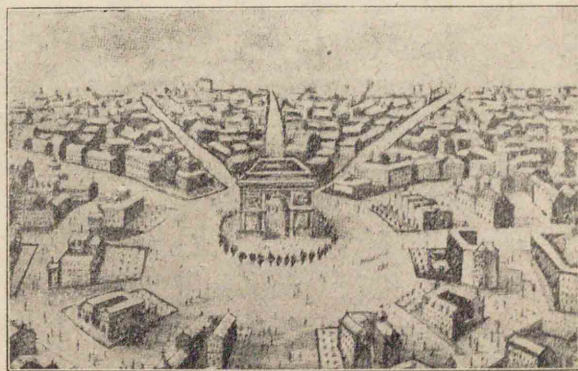
村落は、其の共同生活の簡單なる團體にして、先づ交通灌漑の便多き平原を控ふる海岸又は河畔に發達するを常とし、人口増殖等の理由によりて、山地、森林地等に成立す。村落は、其の形狀、其の家屋集合の状態によりて、散村、集村、街村、鏈村等に分つべし。

都市は、急遽に成立したるものあれども、多くは村落の漸次發達したるものなり。其の發達原因は、産業、交通、政治、軍備、教育、宗教さては遊樂等の中心たるにあり。就中産業都は、其の基礎最も固く、商工の盛なるもの殊に然り。我が都會には、舊幕諸侯の舊城地にして、右の

* 點々散在する者
* 一所に彙集するもの
中古に於ては防敵の爲山脈・丘陵・河流分岐點・河中島・半島尖端・陸島に都市設けられたり

×今の東京は漸次外部膨脹して圓形同心式ならざる部が多し

發達原因の一二を備ふるもの多し。都市中には、一定の形式を有する者あり。東京・倫敦の如き、一見街衢不規則なるも、東京は宮城を、倫敦は倫敦市ロンドンを中心とせり。臺南・京城・北京・巴里は何れも城堡に圍まる。又街路は、京都・札幌市・俄古の如く碁盤式、巴里・大連の如く一個又は數個の星形式（輻射式）、江戸・アムステルダム（放射式）の如く圓形同心式、大阪の如く網狀式をなすものあり。



（リセと心中を門旋凱路街の條二十）街形星の里巴

我が國を始め文明諸國は、交通機關の進歩と、都市商工業の發達とにつれて、大都市益々擴大し、小都市村落漸く衰頹する傾向ありて、其の利害、大に考慮すべきものあり。

第二編 國家

STATES

第一章 國家の要素

國家は、唯一の主權統治權を以て統治せらるゝ、一定の國土・臣民なり。故に國家は主權國土・臣民を以て、其の要素となす。現今世界に五十有餘の國家あれども、右の三要素の健全にして、獨立の體面を保つ者は、唯二十有餘に止まり、殊に要素の優勝にして、大國又は強國と稱すべきは、日・英・米・佛・伊にして、世界五大強國の稱あり。もと八大強國の一と稱せられし獨露・奧の三國は、何れも前途を豫測すべからず。

我が國は、未だ曾て他國の蠶食を受けざる上に、今や面積四萬三千五百方里に増加せり。臣民も、七千八百萬の多きに達し、大和族、其の大部を占めて他民族を同化しつゝ、あり而して此の國土、此の臣民

を統治する主權は帝國憲法第一條に「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と明記せられたり。

主權

主權は、内は國土・臣民を支配し、外は他國に對して獨立を

維持す。

半獨立國は、主權の一部を缺けるものにして、強國の保護

干渉を受くる被保護國進んで交戦し能はざる永世局外中立國等之に屬す。彼の聯邦及び合衆國と稱するは、強大なる自治權を有する國・郡・都市等の集合せる國家なり。

國土

國土は、山脈・河湖・海洋または經緯線などもて限られたる

一定の地域なり。而して干潮時に於ける三海里以内の水面(領海)も、亦主權の及ぶ範圍にして、即ち國土の一部なり。我が國は、單に海

洋のみを以て境界となせしが、今や樺太にては北緯五十度線上に林空作業を施し、又標石を置き、以て露領と相限り、朝鮮にては鴨綠江・白頭山・豆滿江を以て、支那・露西亞と相隣るに至れり。

× 自國內の犯罪外國人を處罰すること能はざる被領事裁判國あり又年々強國に一定の貢獻をなす貢國あり

北海道濠洲の如く母國人の移住して實際に産業に従事するを移住的植民地と云ひ臺灣瓜哇の如く母國の資本家が土民を役使して産業を營むを資本的植民地と云ふ

× 植民地を發達せしめて本國の一部となさんとする者 * 植民地發達の後には獨立せしめて單に母國子國の關係を有するに止めんとする者

國土の廣狹・位置・地形・地味・氣候・物産等は、國家の盛衰興廢に關す。世界の五大強國の面積は、米國最も廣く、日佛英伊順次、之に次げり。但し英佛二國は、白・葡・蘭等と共に、廣き屬地(植民地)を有し、殊に英國は、世界の陸地と人口との約二割を支配せり。彼の租借地は、名義上のみ弱國の領有に係り、實際は、強國の屬地たるものなり。巴里に於ける國際會議の結果、國際聯盟管理地・委任統治地なるもの、新に起りたり。

抑も屬地の經營は、古は誅求政策によりしもの多かりしも、今は何れの母國も、屬地の發達を圖らざるはなく、以て同化政策又は自治政策を行ふ。

臣民

臣民は、國內にあると、國外にあるとを問はず、自國主權の

支配を受けて、租税を負擔し、兵役に服し、諸般の産業を起すものなり。されば其の多寡・強弱・賢愚さては種族の統否等は、則ち國家の隆

替消長に關す。五大強國の人口は、米國最も多く、日英佛伊順次之に次げり。但し屬地を有する國は、別に海外に臣民を有す。

第二章 國家の組織

國體

主權が一人にあるを君主國體、臣民全體にあるを共和民主國體といふ。暹羅波斯阿富汗斯坦歐洲諸國の約半數等は前者にして、支那歐洲諸國の約半數、兩米諸國等は後者なり。

我が國は萬世一系の天皇主權を保持して、皇室の尊嚴、臣民の敬慕、世界に比類なく、義に於ては君臣情に於ては父子と謂つべき圓滿なる君主國體なり。然るに世界の君主中には、人民の選舉によりて即位せしものあり。單に議會の議決を執行するに止り、又は議會と同權力のものもあり。されば世界大戰に際して、露獨墮の如きは、君主廢位の狂態を演じて平然たるなり。

政體

國家の統治が、立法司法行政等の諸機關を通ずるや否や

によりて、立憲政體と專制政體との別を生じ、今や專制政體の國は、殆ど世界に跡を絶てり。

立法機關は一院制度又は二院制度の議會なり。司法機關は、裁判所にして、主に民事刑事の訴訟を審判す。行政機關は、統治機關中最も主要なるものにして、そが掌理すべき事務多く、中央にあるものと、地方にあるものとの二種あり。

第三章 外交・軍備・財政

外交

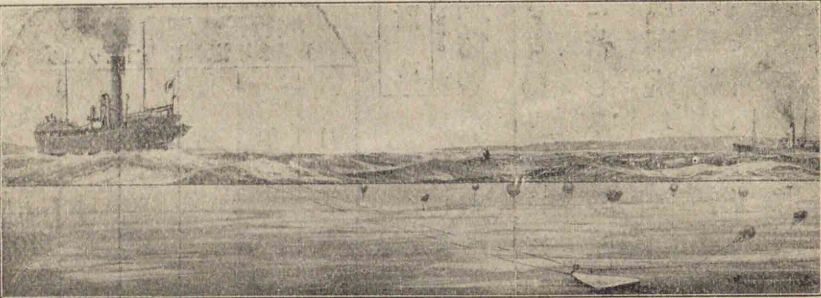
世界の主要諸國は、互に通商航海條約を締結して、概ね對手國の首府に、大使又は公使を駐在せしめ、又同盟協約協商を爲すことあり。我が國は、二十有餘の條約國を有し、強國とは、大使を互遣して世界一等國の實を示し、又印度以東の平和と利益との爲、英國と攻守同盟を締結し、東洋又は太平洋上の利權等に付、佛露米と協議を遂げ、長く極東の禍根たりし朝鮮を併合し、老大不振の支那

に勢力を扶植しつゝあり。

我が條約國の其と本邦公館

支那	露西亞	諾威	波蘭	希臘	セルビア	希臘	希太	佛蘭	和蘭	西班牙	合衆	秘魯	智利	巴拉	暹羅	丁加	獨逸	奧地利	羅馬	土耳其	瑞西	白耳	英吉	葡牙	墨西	エグ	ハリ	亞爾	伯西
那北	亞彼	威	蘭	臘	スロ	セル	太	蘭	蘭	班	美	露	利	グ	羅	抹	逸	利	馬	其	西	耳	吉	牙	西	ク	リ	爾	兒
京公	得	クリ	シ	テ	ロ	バ	利	西	ハ	マ	カ	リ	サ	ア	典	コ	伯	維	尼亞	其	西	耳	利	牙	西	ク	リ	爾	兒
使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館	使館

波・セルブ・アトスロベ・羅馬尼亞・土耳其とは直接には條約を締結せず



沈設水雷の掃海

軍備

世界の諸國が、自國國民の負擔の重きをも忍びて、敢て兵器兵力の充實と改良とに努むるは、則ち國土を防備し、國權を伸張し、國光を宣揚せんが爲にあらざるや。今や露・墾二國の陸軍獨逸の陸海軍殆ど崩壊して、大戰前の勢力を失墜せしが故に、英米の海軍、日本の陸海軍は、益々世界軍事界の精華と稱すべく、佛國の陸海軍、伊國の海軍亦以て世界の一大勢力たり。

戰爭機關の發明改善は、列強の最も苦心する處、大口徑の巨砲、超ドレッドノート型の戦艦、飛行機、飛行船など、何れか吾人をして、其の發達を三嘆せしめざる。

五大強國軍艦飛行機
大正八年十月日本海軍省調査

國名	英	米	佛	伊	日
戰艦	三三	一五	七	五	五
巡洋戰艦	二二	〇	〇	〇	五
巡洋艦	八九	二〇	一五	一〇	二二
驅逐艦	三〇八	一六九	七	四七	六四
潜水艦	二七	一〇一	五七	七三	一八
飛行機	二〇〇〇	一〇〇〇	一六〇〇	五〇〇〇	一〇〇

財政

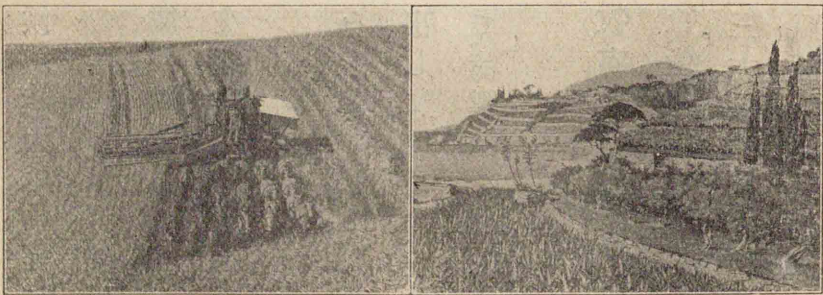
何れの國も、歳入は租税・手数料・官業收入等に仰ぎ、歳出は國防費・交通費・産業費・教育費等に充てらる。若し歳入が歳出に満たざる場合等には、内債又は外債を募集す。今や列強は、歳出の多きに苦しみ、其の原因たる國防費を減少せん爲、軍備縮小戦争防遏の風潮盛なり。

我が國の歳出歳入は、約八億圓にして、尙ほ年々急増せんとす。國債額も、二十五億圓の多きに上り、其の利子のみにて、日清戦争前の

歳出に相當す。是れ吾人が華を去り實に就き、又産業に汲々たらざるべからざる所以なり。

第三編 産業

苟くも國富の増進、國力の充實、及び個人欲望の満足を望まば、必ず産業を發達せしめざるべからず。未開なる時代又は處に於ては、自給自足に甘んずれども、文化發達せる時代又は處に於ては、人々の需用區々たるが故に、之に應ぜんとする關係上、自ら分業發達し、産業は、他人の需用を目的とする營業的産業たるに至る。



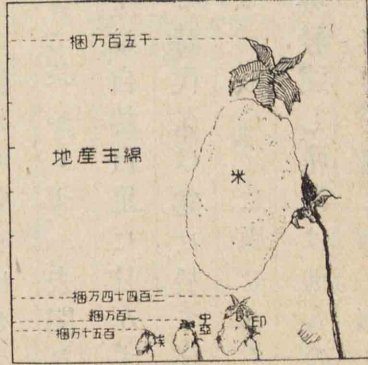
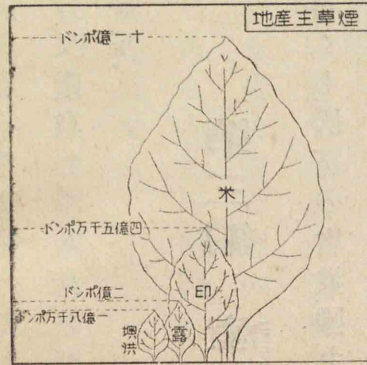
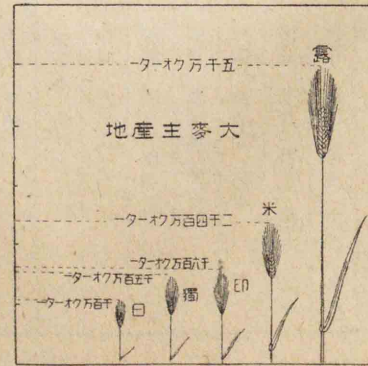
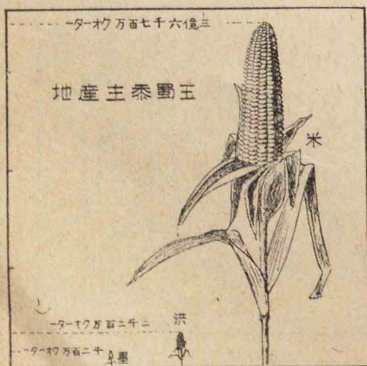
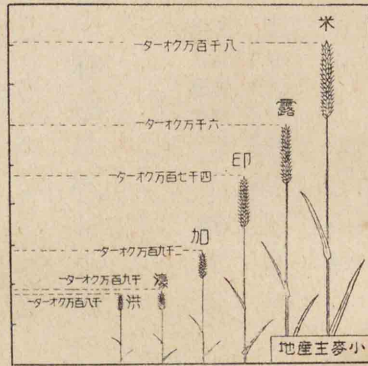
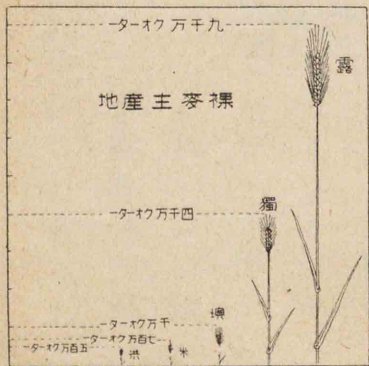
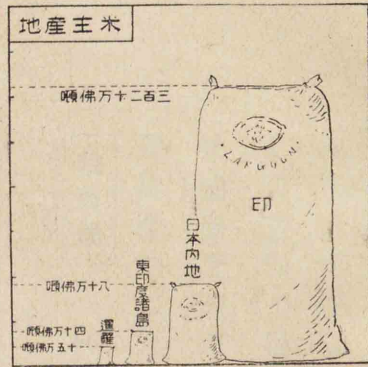
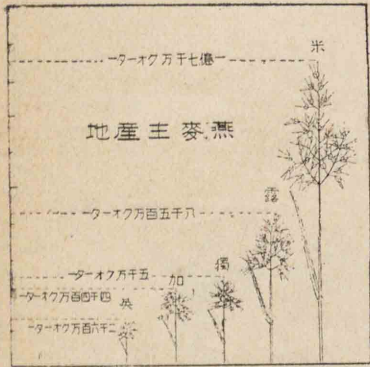
北米合衆國の大農法

伊太利の整頓農圖



× 亞爾然丁のこと
 歐羅巴には農牧林
 漁鑛等の諸業も盛
 なる文明國多し

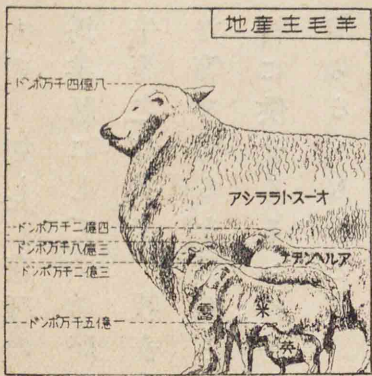
× 亞爾然丁のこと



産業は、位置・地勢・氣候・地味・天産物等によりて、自ら其の種類を異にす。例へば平原地に農・牧行はれ、炭鐵の鑛業地に工業併び起り、また海國に交通業・貿易業・水産業、發達するが如し。而して概言するに、新開地は、農・牧・林・水産鑛を主業として、原料品・粗製品・食料品を輸出し、文明地は、工業及び商業を主業として、精製品を輸出するものとす。

第一章 農業・牧畜業・林業・水産業

農業 抑も農業は、産業中に於て、最も廣く行はれ、世界の三大農業國と稱せらる、米・露・印を始め、亞・濠・支・印・支・獨・佛に盛



地産主毛羊
Stock-farming
牧畜業

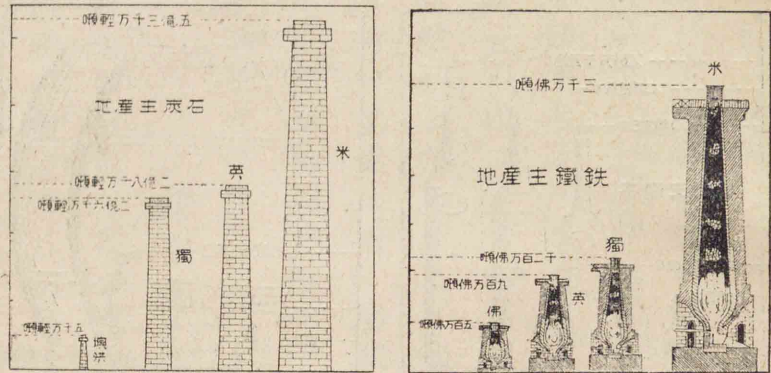
牧畜業の發達は、概ね少雨

なり。最も重要な農産は、東洋(殊に季節)に於ては米、歐米にありては麥(小麥に殊に)にして、豆類・玉蜀黍・馬鈴薯・甘蔗・甜菜・茶・珈琲・葡萄酒・葉煙草・綿麻(大麻・黄麻・亞麻・苧麻など)・生絲亦重要農産たるなり。

なること、廣大なる原野のあること、を必要とす。従つて我が國は、斯業の隆盛を望むべからざる

日本の農産分布

藍	臺灣 徳島
菜種	北海道 福岡
麻類	朝鮮 臺灣 栃木 廣島
綿	朝鮮
葡萄	山梨 栃木
葉煙草	朝鮮 茨城 栃木 鹿児島
茶	臺灣 静岡 三重 京都
甘蔗	臺灣 沖繩 鹿児島 香川
甘藷	九州 臺灣
馬鈴薯	北海道 奥羽
玉蜀黍	朝鮮 北海道
粟	朝鮮 熊本 鹿児島
小豆	朝鮮 北海道 新潟
大豆	朝鮮 北海道 茨城
麥	朝鮮 茨城 埼玉 栃木 兵庫
米	朝鮮 臺灣 新潟 福岡 兵庫

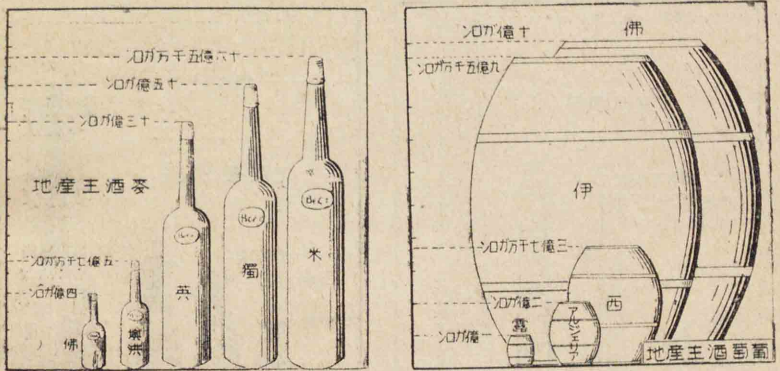


ロフ島は海獸の繁殖場たり。但し近年關係諸國協定して、其の狩獵を禁じたり。

第二章 礦業

礦業は日用品・工業品・軍需品等を得るを目的とし、主なる有用礦物を、金・銀・銅・鐵・石炭・石油となす。就中鐵・石炭は工業上最も必要なり。是れ右二者の産額多き上に、二者の産地概ね接近せる英・米・獨三國が、世界の工業界に雄飛する所になり。但し石炭の埋藏多きエ

帝國礦物分布	
金	朝鮮 臺灣 茨城 鹿兒島
銀	秋田 茨城
銅	秋田 茨城 栃木 愛媛
銑鐵	岩手
石炭	福岡 北海道 福島 佐賀 長崎 朝鮮
石油	新潟 秋田



ルザス、ロートリンゲン(アルザス、ロ)地方を、佛國に割きたる獨逸今後の鑛工業は舊の如くならざるべし。我が國は鐵・石油の産少なき缺點あれども、亦世界屈指の工業國たるなり。

第三章 工業

Manufacturing Industry

工業は、原料品組製品を精製するものにして、文明諸國の最も留意する所なり。文明の進歩につれて、欲望増進し、機械、發明せられて、世界の工業は、年に月に發達す。殊に文明諸國は、機械的工業盛にして、水力・汽力・電氣力等の利用著し。米・英・佛獨白は、炭鐵を産して、世界の最大工業國た

り。但し米國以外は、多く其の原料を海外に求む。瑞・伊・典は、石炭乏しけれども、綠炭(カ)によりて、工業を盛ならしむ。造船・製鐵・造兵機械製造・紡織(綿・生・絲・麻・毛)・抄紙・化學工業品製造などは、最も顯著なる工業なり。

我が國民は、審美的思想に富み、技藝に長じて、精緻品を産出するに適す。殊に今や手工的、家內的の工業は、漸く機械的、工場的の工業に進みて、製絲・綿絲・紡績など發達し、輸出せらるゝ、工産物年に多し。

第四章 商業

Commerce, Trade

欲望の増進、分業の發達、物産の激増及び交通機關の發達等は、何れも國內産業と國際商業貿易との隆盛發展を促して止まざるなり。

International Trade

日本重要工産産出地方	
蠶絲	長野 愛知 埼玉 群馬 山梨
綿絲	大阪 兵庫 愛知 東京 岡山
絹織物	福井 京都 石川 群馬
綿織物	大阪 愛知 和歌山 三重
陶磁器	愛知 岐阜 京都 佐賀
漆器	石川 静岡 和歌山 福島
燐寸	兵庫 大阪 愛知
和紙	高知 愛媛 岐阜 福岡
洋紙	静岡 北海道 東京
麥粉	兵庫 東京 福岡
清酒	兵庫 福岡 廣島 京都 愛知
醬油	千葉 兵庫 愛知 香川 福岡

世界の貿易は、總額一千億圓に達し、英・獨・米・佛・蘭・白等、最も盛なり。概ね先進國・商工國は、新開國・農牧國等の出超なるに反して、入超なるを常とし、運送賃・海外投資の利子・外資の散財・移民の送金等によりて、正貨の流出を防止す。

世界各國は、商務官、或は領事官、實業練習生等を派遣し、或は世界的博覽會を開設して、貿易の伸張發達を計らざるはなし。而して貿易を營むには、英國の如き自由貿易政策を採用するものあれども、世界に於ける多くの國は、自國産業の保護發達を期して、保護貿易政策に則れり。

近年我が國は、世界大戦争の好機に會して、貿易の發達著しく、即ち内地のみにても、二十五億圓の貿易をなすに至れり。されど、九州と面積の伯仲する蘭・白にすら、尙ほ貿易額及ばざるが故に、吾人は、決して現今に甘んずべからず。

本邦領事館所在地

阿弗利加	大洋洲	兩	歐羅巴	亞細亞			支那	齊々哈爾	哈爾濱	長春	吉林	間島
				其の他	蘇州	赤峯						
加	洲	米	巴	新嘉坡	汕頭	宜昌	蘇州	赤峯	鐵嶺	安東	遼陽	營口
利	シ	オ	莫	香	廣	重慶	南	天	奉天	通化	濟南	上海
ケ	ド	ス	科	港	東	慶	京	津	天	農	南	海
ー	ニ	ア	漢	マ	東	東	東	天	天	農	南	海
ブ	ニ	ス	堡	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
タ	ニ	ア	里	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
ウン	ニ	イ	昂	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	レ	馬	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ス	耳	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	塞	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	安	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	土	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	府	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	倫	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	敦	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	リ	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	バ	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ボ	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ー	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ト	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ラ	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ド	カ	東	東	東	天	天	農	南	海
	ニ	ル	ン	ル	東	東	東	天	天	農	南	海

第五章 交通業

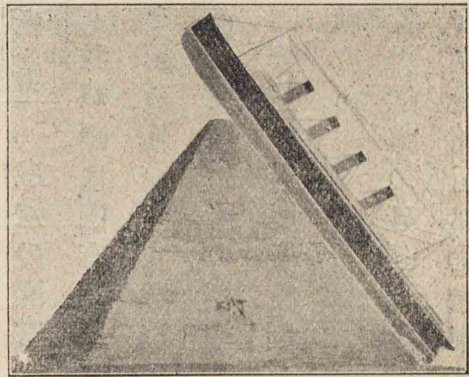
文明の進歩は交通を發達せしめ、交通の發達は、人文を進歩せしむ。即ち文明と交通とは、概ね相伴うて消長す。交通には貨客の輸送をなす所謂運輸と意思を傳達する所謂通信との二種あり、而して鐵道船舶道路駝畜(牛馬駝驢馴鹿)連河港灣等は、前者の主要機關にして、郵便電信電話は、後者の主要機關なり。今や無線の電信電話あり、又飛行機ありて、從來の陸上水上の交通機關よりも、駿速を極む。

鐵道 鐵道の國有制度・私有制度・國有私有併行制度は、各、得失あり。我が國は、國有制度に則り、一地方を通ずるものに限り、私有制度を認め、且つ輕便鐵道の私設を獎勵す。軌道の廣狹も、亦一得一失あり。文明諸國の標準軌道は、四呎八吋半なり。葡國は、五呎乃至五呎四分三の過度廣軌制を採り、我が内地のものは、概ね三呎六吋の狹軌なり。

世界鐵道の延長は、約七十一萬餘哩にして、我が内地のそれに約百倍す。歐洲西部、北米東部は、最も密なる鐵道網をなせり。米國は、世界

×一八五年初めてストクトン・ダリーントン間に敷設せられたり

四呎八吋半は標準軌道にして、それ以上なるを廣軌、以下なるを狹軌と云ふ。狹軌に馴れたる我が國にては標準軌道を廣軌と俗稱す



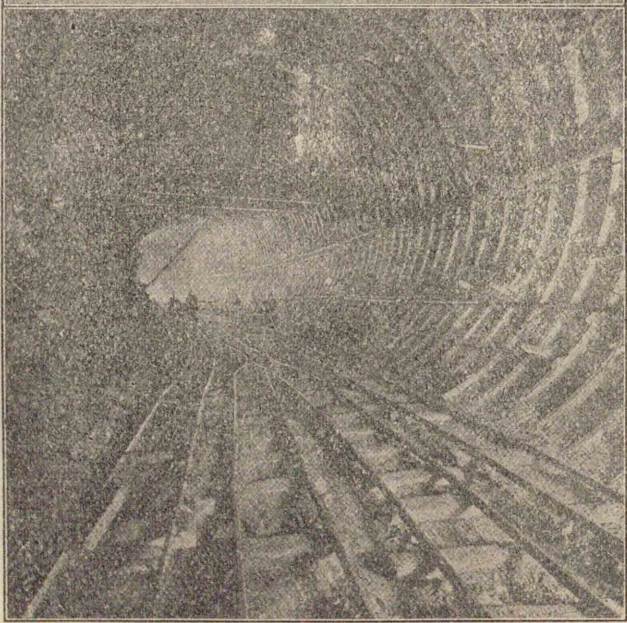
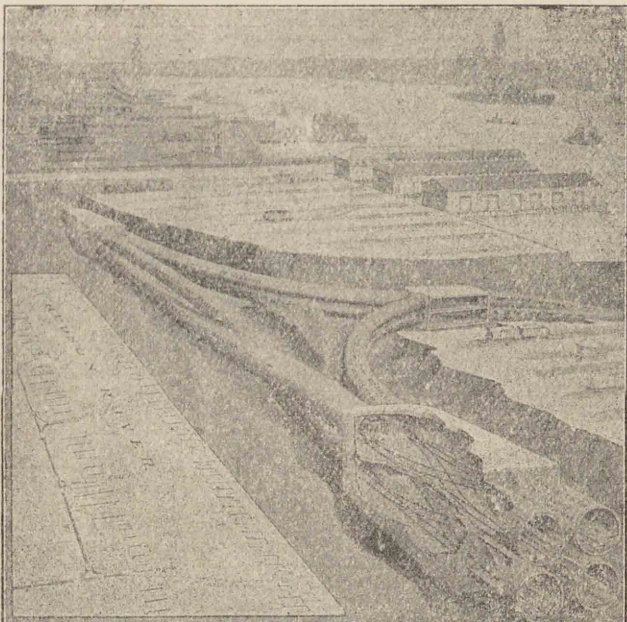
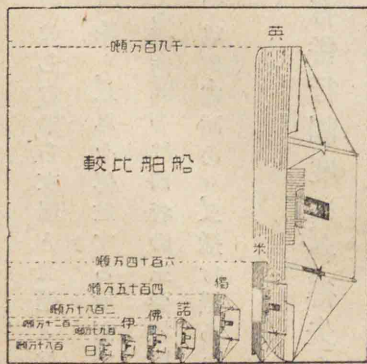
較比のとドミラビ大と號アニタレモ

米合衆國の數條の横斷鐵道、南米のバル
パライソ、ブエノスアイレス間鐵道等な
り、而して世界屈指の長隧道は、概ねアル
プ山地にあり。

汽船

世界の汽船は、帆船を合せて五

鐵道の總延長の三分一餘を占め、年々の
増延亦著し。露獨は、米國に次ぎての鐵道
延長國なり。面積に比して能く發達せ
るは、白耳義の一方里に對する一哩半、英
吉利の一方里に對する一哩(我が國)なり。
大陸横斷鐵道は、西比利亞、加奈陀、太平洋
大幹、太平洋の
三鐵道、及び北



觀壯の道鐵下地(下) 道鐵下地るず通に頭單育紐(上)



太平洋運河

千萬噸に近く、英國、殆ど其の一半を占め、米、獨、日、諾、佛、伊、之に次ぐ。大型と高速力と客室の裝飾とは、當今、汽船界の流行にして、航路最盛の大西洋にては、五萬餘噸、速力二十餘節のものあり。我が國は、約二百七十餘萬噸の汽船を有す。

世界の航路は、歐羅巴の漢堡、安土府、倫敦、リバプール等と、北米のモントリオール、ケベック、ハリファクス、紐育、費府等とを連絡する大西・洋・航・路、極東の香港、上海、横濱、濠洲のシドニーなどと、北米西岸の晚香坡、桑港等とを連絡する太・平・洋・航・路、東亞・印・度・洋・航・路、歐洲の諸港を連絡する印・度・洋・航・路、最も著し。

世界一週最短日數

東京より、浦鹽、斯德又は釜山若しくは大連に至るは、二日乃至三日なり。それより歐亞連絡の鐵道によれば、約二週間にして獨逸又は英吉利に至らん。大西洋北米を横ぎるには、各、五、六日を要し、約二週間の太平洋航路を経て東京に歸る。乃ち世界一週の最短日數は、僅々四十餘日なり。

郵便電信電話

何れも日に月に發達し、就中郵便・電信は、數十年前

×一八七四年

*伊人マルコニ
の完成したるもの

日本の無線電信局
所在地 幌筵島落
石岬 銚子 船橋 潮岬
下津井 角島 舞鶴 大
瀬崎 ラサ島 富基角
港門 島木 浦月 尾島
小青島 大青島 大連



(リへ掩てにマナーパタックを條線)造構の線電底海

に萬國聯合同盟成立して、總理局、瑞西のベルンにあり。我が國は明治十年郵便聯合に、同十二年電信聯合に加盟せり。近年、無線電信電話發明せられて、二十數條の横斷海底電線ある大西洋の如きは、今や東西兩岸間に二者開通し、之を航行する汽船中には、日々陸上の出來事を知り得べし。太平洋は、近年まで海底電線を缺きしに、今や二條の横斷線沈設せられて、其の北線の支線は、我が小笠原島に來り、尙ほ日本布哇間の無線電信も成功せり。日本より海外に通ずる海底電線は、上記のもの、外に、長崎を起點として、浦鹽斯德又は上海に通ずるものと、淡水・福州間に通ずるものとあり。電話は、主に都市内に行はれ、長距離のものは、未だ十分に發達せず。

結論 吾人の覺悟

從來、極東に僻在したる我が國は、歐亞連絡の鐵道と、蘇士巴拿馬の二大運河とによりて、世界交通の大中心たらんとし、又面積狭小たりし我が國は、今や四萬三千餘方里の多きを算するに至れり。即ち國土の位置、面積は、以て喜ぶべく、以て誇るに足らん。尙ほ我が國は、行く處、何れか風光明媚ならざる。到る處、何れか氣候溫和ならざる。七千八百萬の臣民、此の佳境、此の樂土に和睦みて、萬世一系の聖天子を戴き、國運の發展、國威の隆昌、旭日の東天に昇るが如きものあり。

豊富なる陸産と、饒多なる水産とは、商工の急進的勃興と相待つて、益、我が國力の基礎を固むべし。乃ち清を降し、露を破り、又獨を挫きたる我が日東帝國は、平和の戰爭に於ても、亦常勝の地歩を占めん

とす。

今や世界の競争は、文に於ても武に於ても、年に月に激甚なり。這般の歐洲大戦後は、殊に然るものあらん。されば吾れ等日本國民たる者、争でか現今の我が國勢に甘んずべき。

大正八年十二月廿四日印	刷	大正八年十二月廿六日發行
大正九年二月六日訂正印刷	刷	大正九年二月十日訂正發行
大正十年一月十日改訂印刷	刷	大正十年一月十五日發行

定價金六拾錢

著作權所有

著作

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
地理教授同志會
代表者 野口保興 守屋荒美雄

發行

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
外 松 荒 三

印刷者

東京市京橋區弓町二十五番地
高 橋 郁

發行所

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
帝 國 書 院

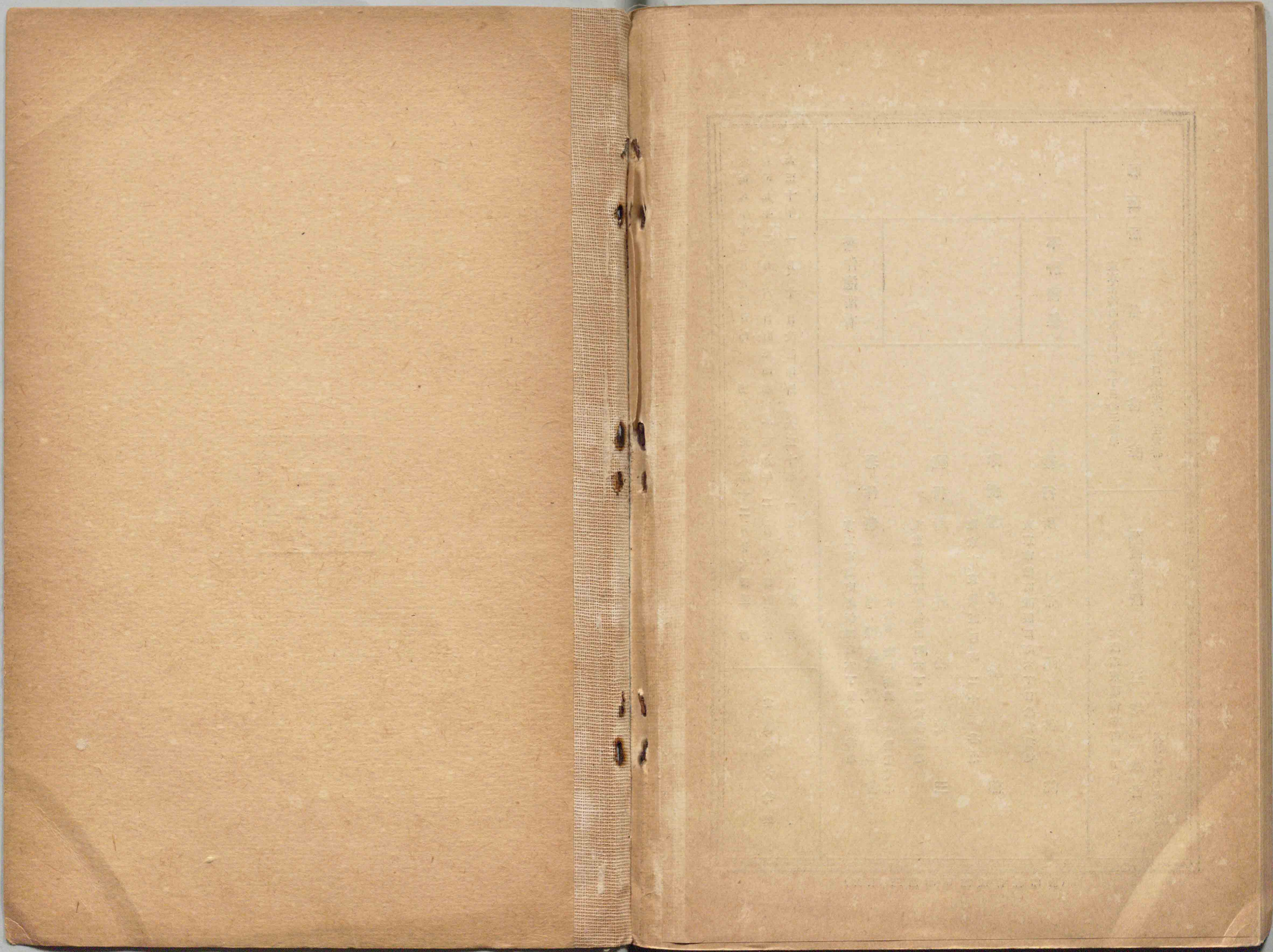
不許複製

販賣所

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
螢 雪 書 院
振替口座東京三、三〇九番

關西販賣所

大阪市東區南本町四丁目
三 宅 莊 藏 書 店
振替口座大阪六番





庫
20
186

広島大学図書
2000024186
